RICOH

GR DIGITAL Ⅱ
使用説明書
（カメラ編）

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください。

電源を入れる、撮影する、再生するなど、はじめてこのカメラをお使いの方でも一通り操作できるようになります。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください。

いろいろな撮影機能や再生機能の他、カメラのカスタマイズ、プリントの方法、パソコンを利用する方法など、このカメラのすべての機能が記載されています。

お客様登録のお願い

この度は、リコー製品をお買い求めいただきありがとうございます。リコーは、ご購入商品に関する適切なサポートやサービスを提供するために、お客様登録をお願いしております。

お客様登録は、下記の弊社Webサイトからお願い致します。

http://www.ricoh.co.jp/dc/regist/

なお、ご登録いただいた方には、Caplio News（ファームウェア等のサポート情報掲載）の配信を行っております。

はじめに

この使用説明書には、本製品を使って撮影や再生機能を利用する方法や使用上の注意について記載してあります。
本製品の機能を十分にご活用いただくため、ご使用の前に、本書を最後までお読みください。本書が必要になったとき、すぐに利用できるよう、お読みになった後は、必ず保管してください。

株式会社リコー

安全上のご注意について	安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。
テスト撮影について	必ず事前にテスト撮影をして正常に記録されていることを確認してください。
著作権について	著作権の目的になっている書籍、雑誌、音楽等の著作物は、個人的または家庭内およびこれに準ずる限られた範囲内で使用する以外、著作者に無断で複写、改変等することは禁じられています。
ご使用に際して	万一、本製品などの不具合により記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。
保証書について	本製品は国内仕様です。保証書は日本国内において有効です。外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
電波障害について	他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合、お互いに悪影響を及ぼすことがあります。特に、近くにテレビやラジオなどがある場合、雑音が入ることがあります。その場合は、次のようにしてください。 ・テレビやラジオなどからできるだけ離す ・テレビやラジオなどのアンテナの向きを変える ・コンセントを別にする <電波障害自主規制について> この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本書の内容に関しては将来予告なく変更することがあります。
本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気付きのことがありましたら、巻末をご覧の上ご連絡ください。

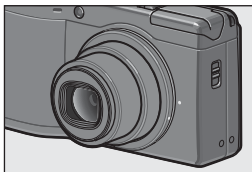
使用説明書の構成について

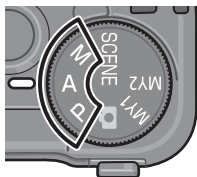
GR DIGITAL IIには、次の2種類の使用説明書が付属しています。

	『使用説明書（カメラ編）』（本書）
	カメラの使い方や機能を説明しています。また、付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。 ※ 英語版の『使用説明書（カメラ編）』はPDFファイルで、付属のCD-ROMに収録されています。
	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）
	カメラの画像をパソコンに取り込む方法について説明しています。 『使用説明書（ソフトウェア編）』は、付属CD-ROM内の次のフォルダに収録されています。 Caplio CD-ROM (D:) Caplio Manual Chinese_Traditional English English_Camera_Manual French German Italian Japanese Korean Spanish 英語版の『使用説明書（カメラ編）』（PDFファイル） 各言語の『使用説明書（ソフトウェア編）』が、該当する言語名のフォルダに収録されています。 使用説明書をハードディスクにコピーするにはそれぞれのフォルダからPDFファイルをハードディスクにコピーしてください。

本機には、パソコン内の画像を表示したり、編集したりできるソフトウェアIrodio Photo & Video Studioが付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使い方については、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。
Irodio Photo & Video Studioについてのご質問・ご相談は、下記ユーザーサポートセンターまでお問い合わせください。

株式会社ピクセラ　ユーザーサポートセンター
TEL：06-6633-3900
FAX：06-6633-2992
〒556-0011
大阪府大阪市浪速区難波中2-10-70パークスタワー 25F
受付時間：月曜日～日曜日10：00～17：00
（年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）
また以下のページで、Irodio Photo & Video Studioの最新情報が閲覧できます。
http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html

このカメラでできること

高い描写性能を実現した広角28mm『GRレンズ』搭載

コンパクトボディに広角28mmのGRレンズを搭載。高い解像感とハイコントラストな再現性、低ディストーションを実現しプロユースに応える画像クオリティを提供します。

絞り優先モード、マニュアル露光モード、プログラムシフトモード搭載のハイエンド仕様

絞り値やシャッタースピードを自分で設定することができます。小型・軽量・薄型化を実現した、デジタル一眼レフにも負けないハイエンド機です。

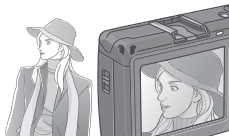
画質・サイズ
フォーカス
測光
連写
画像設定
ﾌﾗｯｼｭ調光補正
RAW (10M)
RAW3:2 (9M)
RAW1:1 (7M)
F3648 (10M)
N3648 (10M)
F3:2 (9M)
N3:2 (9M)
◀ 確定

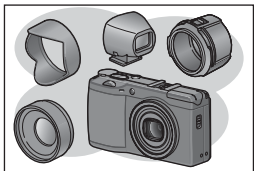
有効画素数1001万画素CCDと最高画質の撮影を実現するRAWモードを搭載(P.86)

有効画素数1001万画素CCDの搭載により、クオリティの高い精細な画像を実現します。

また、RAWモードでは、撮影したままの状態の生データ（.DNGファイル）を保存します。JPEGファイルより画質の劣化が少なく、パソコンで思いどおりに加工できます。DNGファイルを元にしたJPEGファイルも同時記録されます。

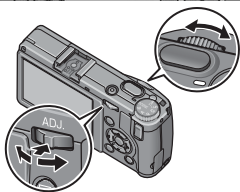
新画像処理エンジンGR ENGINE IIを搭載

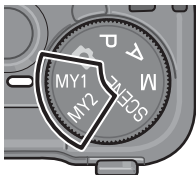
様々な撮影シーンにおいて自然な色再現性を維持しつつ、高い解像感と低ノイズの両立を可能にする新画像エンジンGR ENGINE IIを搭載。GRレンズの持つ高い描写性能を最大限に引き出します。

1.5cmマクロ対応（P.41）
20cm対応の近接フラッシュ（P.42）

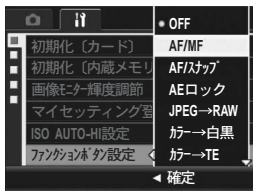
被写体まで1.5cm（レンズ先端より）の超アップで撮影可能な接写機能を搭載。
フラッシュは20cmの近さまで対応でき、光の足りない条件でもよりきれいに撮影ができます。

表現力を刺激する豊かな拡張性（P.14）

撮影目的に合わせて21mm ワイドコンバージョンレンズや40mmテレコンバージョンレンズの装着が可能です。（フード＆アダプター使用）また、外部ファインダーやケーブルスイッチなどの多彩なオプション品で、撮影する楽しみが広がります。

画像の水平出しを補助する電子水準器機能搭載（P.57）

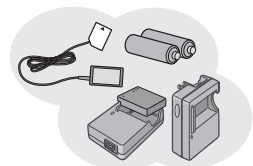
風景や建物の撮影時など、水平のとれた画像を撮影したい場合に便利な電子水準器機能を搭載。画像モニターに表示される水平インジケーターと水準器音で画像の水平状態を確認することができます。

アップダウンダイヤルとADJ.レバーで簡単スピーディー操作（P.21）

アップダウンダイヤルと ADJ. レバーを使って、撮影時の設定や各種メニュー操作などが、簡単にすばやく行えます。
また、ADJ.レバーを押すとADJ.モードに移行し（P.62）、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定ができます。

簡単に自分好みの撮影ができるマイセッティングモード搭載（P.82）

オリジナルの設定を2種類登録することができます。モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、登録したオリジナルの設定で撮影することができ、便利です。

ワンプッシュでモード切り替えが可能なFn（ファンクション）ボタン（P.156）

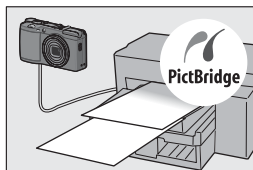
Fn（ファンクション）ボタンに機能を登録すると、JPEGモードとRAWモード、オートフォーカスとマニュアルフォーカス、カラーと白黒などのモード切り替えがワンプッシュで可能です。Fnボタンには、他にも色々な撮影設定を登録することができます。

パンフォーカス撮影に便利な被写界深度表示機能（P.90）

被写界深度（ピントが合っているように見える距離の範囲）表示機能を搭載。目安となる被写界深度を画像モニターで確認できるので、マニュアルフォーカスと絞りを活用したパンフォーカス撮影をする際に便利です。

撮影タイミングに合わせた 3 電源方式(P.26)

長時間駆動の大容量リチャージャブルバッテリー（同梱）、外出先でも入手しやすいアルカリ乾電池、パソコンへの転送時などに便利なACアダプターの3種類の電源が利用できるので、旅先での撮影にも便利です。

ブラウザ、ビューワ、画像ビデオエディタ機能を持つ多機能ソフト「Irodio Photo & Video Studio」を標準装備（P.195）

撮影した画像の閲覧、管理、編集はもちろんのこと、ビデオエディタ機能を使うと、静止画やビデオクリップ、オーディオ、音楽ファイルから動画を作成することも可能です。

パソコンなしでも印刷できるダイレクトプリント機能（P.140）

カメラとダイレクトプリント対応プリンターを直接USBケーブルで接続して、画像を転送。パソコンを使わずに手軽に画像が印刷できます。
帳票印刷も可能です。

もくじ

応用編 61

目的に応じて必要なときにお読みください

1 いろいろな撮影 62

2 動画を撮影・再生する 121

3 いろいろな再生 125

4 ダイレクトプリントで印刷する 140

5　カメラの設定を変える　147

6　画像をパソコンに取り込む　183

7　付録　202

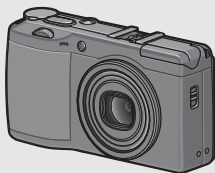
基本編

はじめてお使いのときは必ずお読みください

パッケージを確認する

パッケージを開けて同梱品を確認しましょう。

GR DIGITAL II

本製品のシリアル番号は、本体底面に記載されています。

ホットシューカバー

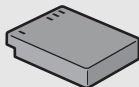
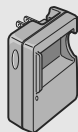
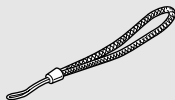
カメラ本体に装着されています。

USBケーブル（miniBタイプ）

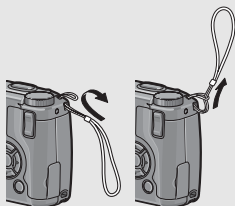
カメラをパソコンやダイレクトプリント対応プリンターと接続するときに使用します。

AVケーブル

テレビで画像を見るときに使用します。

リチャージャブルバッテリー

バッテリーチャージャー

ハンドストラップ

メモ-------------------------

ハンドストラップのつけかた

ストラップの先端をカメラのストラップ取り付け部に通して取り付けます。

使用説明書（カメラ編）

（本書）

Caplio Software CD-ROM

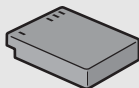
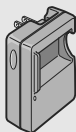
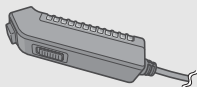
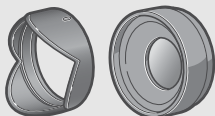
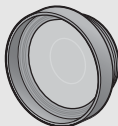
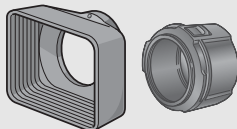
ソフトウェアと『使用説明書（ソフトウェア編）』などが含まれています。

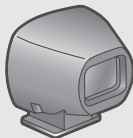
安全上のご注意

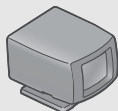
別売り品について

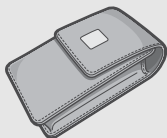
ACアダプター（AC-4c）

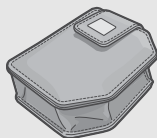
家庭用コンセントからカメラへ電源を供給するときに使用します。長時間の再生、パソコンへの画像の転送時などにご利用ください。

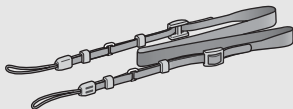
リチャージャブルバッテリー（DB-60）

バッテリーチャージャー（BJ-6）

ケーブルスイッチ（CA-1）

ワイドコンバージョンレンズ（GW-1）

テレコンバージョンレンズ（GT-1）

フード＆アダプター（GH-1）

外部ファインダー（GV-1）

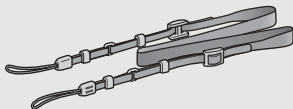
ホットシューに取り付ける、光学ファインダーです。28mm相当と21mm 相当（35mm 判カメラ換算）用のフレームがついています（ケース付）。

外部ミニファインダー（GV-2）

ホットシューに取り付ける、小型の光学ファインダーです。28mm相当（35mm判カメラ換算）用のフレームがついています（縦横比1:1撮影用マーク付）（ケース付）。

ソフトケース（GC-1）

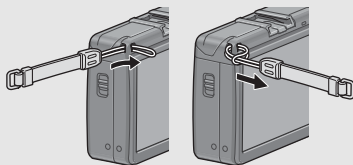
コンパクトな革製のカメラケースです（ベルト通し付）。外部ファインダーを装着した状態のカメラを入れることはできません。

ソフトケース（GC-2）

外部ミニファインダー GV-2を装着した状態のカメラを入れることができる、革製のカメラケースです（ベルト通し付）。

ネックストラップ（GS-1）

「GR DIGITAL」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。

ネックストラップ（ST-2）

「RICOH」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。

 メモ

ネックストラップのつけかた

ネックストラップの先端を結合部より外し、図のように取り付けます。

- 別売り品の詳細については、P.215をご覧ください。
- 別売り品の最新情報については、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/dc）をご覧ください。

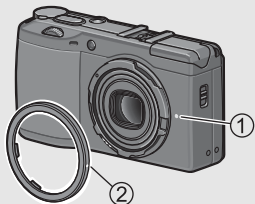
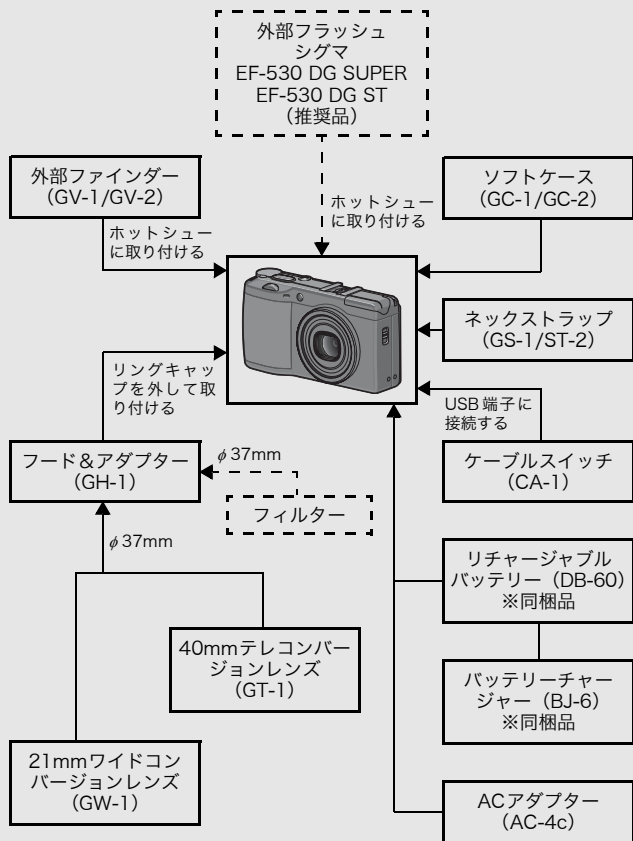
リングキャップの取り付け・取り外し方

ワイドコンバージョンレンズやテレコンバージョンレンズ、フード&アダプターを使用するときは、リングキャップを取り外します。

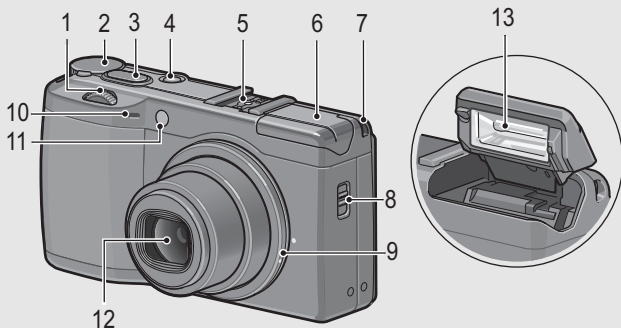
リングキャップの取り外し方

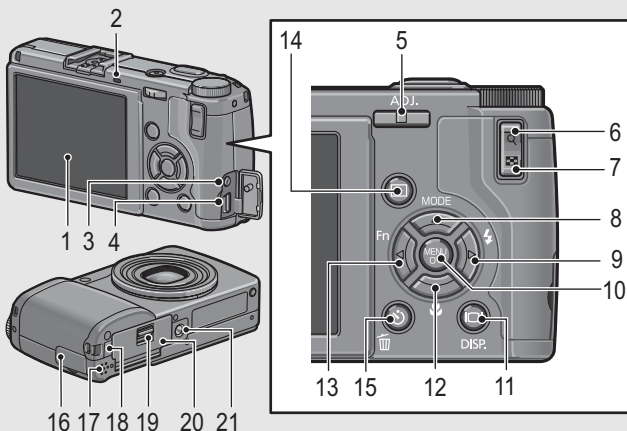
カメラ本体の電源がオフの状態で、リングキャップを反時計回りに回し、カメラ本体から取り外します。

リングキャップの取り付け方

カメラ本体の電源がオフの状態で、カメラ本体の目印①にリングキャップの目印②を合わせ、「カチッ」と音がする位置まで時計方向に回します。

カメラのシステム構成図

カメラの各部の名称

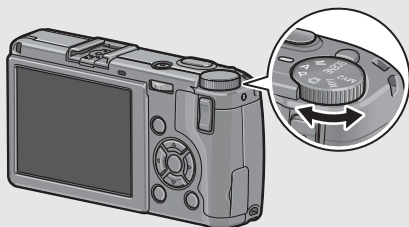
カメラ本体

前面

	名称	参照先
1	アップダウンダイヤル	P.21
2	モードダイヤル	P.20
3	シャッターボタン	P.35
4	POWER（電源）ボタン	P.33
5	ホットシュー	P.17、218
6	フラッシュカバー	P.42
7	ストラップ取り付け部	P.12
8	⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチ	P.42
9	リングキャップ	P.16
10	マイク	ー
11	AF補助光	P.44、166
12	レンズ	P.35
13	フラッシュ発光部	P.42

背面

	名称	参照先
1	画像モニター	P.23
2	オートフォーカス／フラッシュランプ	P.33、37、40、42
3	AV出力端子	P.138
4	USB端子	P.141、196、197、200
5	ADJ.レバー	P.62
6	🔍（拡大表示）ボタン	P.40、49
7	▦（サムネイル表示）ボタン	P.40、47
8	▲／MODEボタン	P.79
9	▶／⚡（フラッシュ）ボタン	P.42
10	MENU/OKボタン	P.85、125、148
11	I□I（DISP.）ボタン	P.54
12	▼／🌷（マクロ）ボタン	P.41
13	◀／Fn（ファンクション）ボタン	P.66
14	▶（再生）ボタン	P.45
15	🗑（削除）／⏲（セルフタイマー）ボタン	P.50、44
16	端子カバー	P.138、141、196、197、200
17	スピーカー	P.124
18	電源（DC入力）ケーブルカバー	P.216
19	解除レバー	P.31、216
20	バッテリー／カードカバー	P.31、216
21	三脚ネジ穴	P.211

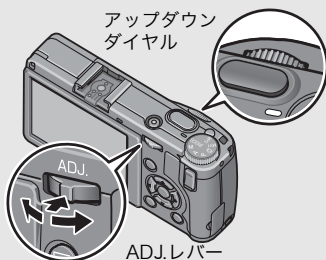
モードダイヤルの使い方

静止画撮影や動画撮影などのカメラの操作は、モードダイヤルを切り替えてから行います。

1 モードダイヤルを回して、使用する機能のマークに合わせる

モードダイヤルのマークと働き

マーク	機能	働き
(カメラマーク)	オート撮影モード	被写体によって、最適な絞り値とシャッタースピードをカメラが自動的に決めます。
P	プログラムシフトモード	絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更できます。
A	絞り優先モード	絞り値を手動で設定でき、その絞り値に合わせて自動的にシャッタースピードが設定されます。
M	マニュアル露光モード	絞り値とシャッタースピードを手動で設定できます。
SCENE	シーンモード	撮影シーンに適した設定を選ぶことができます。また、動画を撮影できます。
MY1、**MY2**	マイセッティングモード	［マイセッティング登録］で設定した内容で撮影します。

アップダウンダイヤル／ADJ.レバーの使い方

アップダウンダイヤル、ADJ.レバーを使うと、▲▼◀▶ボタンで行うさまざまな操作を簡単に行うことができます。
アップダウンダイヤルは図のように回して操作します。
ADJ.レバーは中央を押したり、左右に押して操作します。

アップダウンダイヤル／ADJ.レバーでできる操作は、次のとおりです。

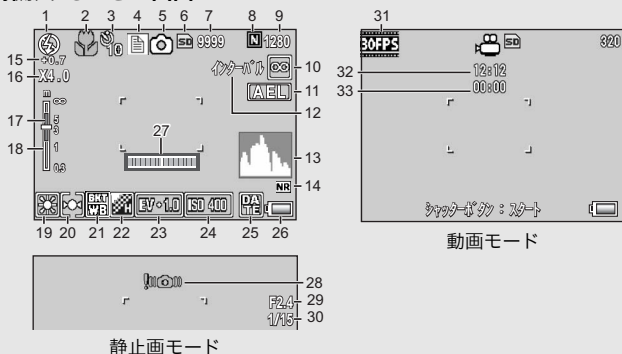
モード／画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
ADJ.モードに移行	ー	中央を押す：ADJ.モードに移行	P.62
ADJ.モード	▲▼ボタンと同じ	左右に押す：◀▶ボタンと同じ 中央を押す：MENU/OKボタンと同じ（確定）	P.62
絞り優先モード（A）	絞り値（F値）の変更	ー	P.74
マニュアル露光モード（M）	絞り値（F値）の変更	シャッタースピードの変更	P.75
プログラムシフトモード（P）	絞り値（F値）とシャッタースピードの組み合わせの変更	ー	P.77
撮影／再生／セットアップメニュー	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.83、125、147
シーンモード（シーンモード選択画面）	▲▼ボタンと同じ	ー	P.79

モード／画面	働き		参照先
	アップダウンダイヤル	ADJ.レバー	
再生モード（通常再生画面）	◀▶ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.45
再生モード（3コマ表示画面）	◀▶ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.47
再生モード（一覧表示画面）	▲▼ボタンと同じ	◀▶ボタンと同じ	P.47
再生モード（拡大再生画面）	表示倍率の変更	前の画像／次の画像を表示 ※拡大再生画面で、前の画像／次の画像を表示すると、通常表示（100%）になります。	P.49

画像モニターの表示

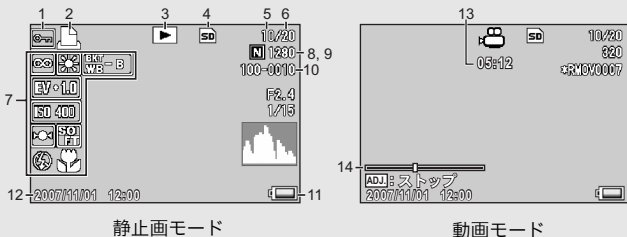
撮影するときの画面

動画モード

静止画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	フラッシュのモード	P.42	19	ホワイトバランスモード	P.114
2	マクロ撮影	P.41			
3	セルフタイマー	P.44	20	測光モード	P.93
4	シーンモード／連写	P.79、94	21	オートブラケット	P.103、105、107
5	撮影モードの種類	P.20			
6	記録先	P.28	22	画像設定	P.98
7	残り記録枚数	P.214	23	露出補正	P.113
8	画質	P.86	24	ISO感度	P.118
9	画像サイズ	P.86	25	日付入れ撮影	P.112
10	フォーカスモード	P.89	26	電池マーク	P.25
11	AEロック	P.70	27	水平インジケーター	P.57、165
12	インターバル撮影	P.110			
13	ヒストグラム表示	P.60	28	手ブレ注意マーク	P.36
14	ノイズリダクション	P.109	29	絞り値	P.211
15	フラッシュ調光補正	P.102	30	シャッタースピード	P.75、77
16	デジタルズームの倍率	P.40	31	フレームレート	P.122
17	被写界深度	P.90	32	残り記録時間	P.214
18	フォーカスバー	P.89	33	記録時間	P.123、P.214

メモ

- 残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 残り記録枚数が1万枚以上のときは「9999」と表示されます。

再生するときの画面

静止画モード　　動画モード

	名称	参照先		名称	参照先
1	プロテクト	P.127	8	画質	P.86
2	DPOF	P.130	9	画像サイズ	P.86
3	モードの種類	ー	10	ファイル番号	ー
4	再生元	P.46	11	電池マーク	P.25
5	再生ファイル数	ー	12	撮影した日付	P.112、180
6	総ファイル数	ー	13	記録時間または経過時間	ー
7	撮影時（記録時）の設定	ー	14	インジケーター	ー

メモ

使用中、操作やカメラの状態に関するメッセージが表示されることがあります。

電池の残量表示

画像モニターの右下に、電池の残量を示すマークが表示されます。残量がなくなる前に充電してください。

電池マーク	説明
緑色	電池の残量はまだ十分あります。
	電池の容量が減りはじめました。充電または新しい電池に交換することをお勧めします。
	電池の残量がわずかになりました。充電または新しい電池に交換してください。

注意 ---

- 単四形ニッケル水素電池、単四形オキシライド乾電池をご使用の場合、電池の種類や条件によっては表示が出なかったり、表示や表示がすぐに出ることがあります。あらかじめ、お手持ちの電池でご確認の上、ご使用ください。
- AC アダプターをご使用の場合、表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。

準備をする

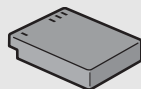
電源を入れて撮影できるように準備します。

メモ

- すでに電源をオンにした場合は、電池を着脱する前に、電源がオフになっていることを確認してください。
- 電源をオフにする方法については、P.33をご覧ください。

電池について

リチャージャブルバッテリー DB-60（付属）

リチウムイオン電池です。バッテリーチャージャーで充電して繰り返し使用できるので、経済的です。

メモ

以下の電池も使用できます。

- **単四形アルカリ乾電池（市販）**
  どこでも入手しやすいので、旅行のときなどに便利です。
  ただし、寒冷地などの低温環境では、記録可能枚数が少なくなります。電池を手で温めるなどして使用してください。より長い時間カメラをご使用いただくには、リチャージャブルバッテリーの利用をお勧めします。
- **単四形オキシライド乾電池（市販）**
  充電式ではありませんが、デジタルカメラで使用した場合、単四形アルカリ乾電池に比べて持続時間が長く、便利です。
- **単四形ニッケル水素電池（市販）**
  充電して繰り返し使用できるので、経済的です。充電には市販の充電器をご使用ください。

記録可能枚数

- 記録可能枚数（電池の持続）の目安

電池の種類	通常時の枚数
リチャージャブルバッテリー（DB-60）	約370枚
単四形アルカリ乾電池（市販）	約45枚

- 撮影枚数はCIPA規格に準拠した測定条件によるものです。（温度23℃、画像モニターオン、30秒ごとに撮影、2回に1回フラッシュ発光、10枚撮影するごとに電源をオフ／オンを繰り返し）
- 単四形アルカリ乾電池の記録可能枚数は、松下電池工業株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用したときの枚数です。
- 枚数はあくまでも目安です。設定、再生等の動作時間が長くなると、その分記録可能時間（枚数）が短くなります。長時間ご使用になる場合は、予備電池の携帯をお勧めします。

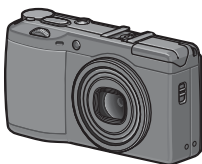
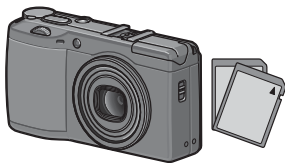
注意

- 市販のニッケル水素電池はご購入時には充電されていません。ご使用の前に充電してお使いください。
- ニッケル水素電池の場合、ご購入直後や1ヶ月以上使用しないで放置すると“不活性状態”となっている場合があり、そのときには電池本来の性能が発揮されません。このような場合には2～3回充電を繰り返してから再度ご使用ください。また、カメラを使用しないでいるときも、自己放電により容量が徐々に低下するため、ご使用の前には再度充電を行ってください。
- 単四形アルカリ乾電池の場合、電池の銘柄、製造日からの保存期間により電池寿命が短い場合があります。また、アルカリ乾電池はその特性上、低温時には使用時間が極端に短くなります。
- マンガン乾電池およびニッカド電池は、ご使用になれません。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 長い期間カメラをご使用にならない場合には、電池を抜いてカメラを保管してください。
- リチウムイオン電池は、純正品（DB-60）をご使用ください。当社指定のリチャージャブルバッテリー以外は使用しないでください。

SDメモリーカード（市販）について

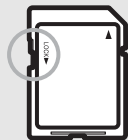
記録データは、カメラ本体に内蔵されているメモリーか、SDメモリーカード（市販）に記録されます。内蔵メモリーの容量は、約54MBです。
静止画・動画をたくさん撮りたい場合や、高画質で撮りたい場合には、容量の多いSDメモリーカードを使うと便利です。

記録先について

SDメモリーカードをセットしていないときは内蔵メモリーに記録され、SDメモリーカードをセットしているときはSDメモリーカードに記録されます。

本体のみのとき	SDメモリーカードが セットされているとき
内蔵メモリーに記録	SDメモリーカードに記録

注意

- SDメモリーカードがセットされているときは、SDメモリーカードがいっぱいになっても、内蔵メモリーには記録されません。
- SDメモリーカードの金属端子部を汚さないように注意してください。

誤って記録データを消さないようにするには

カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、記録データの削除や初期化ができなくなります。解除すれば（スイッチを元の位置に戻す）、削除も初期化もできるようになります。
大切なデータを記録したときには、「LOCK」にしておきましょう。
なお、「LOCK」の状態にするとSDメモリーカードへの記録もできなくなるので、撮影ができません。撮影時には「LOCK」を解除してください。

- 再生時のSDメモリーカードと内蔵メモリーの切り替えについては、P.46をご覧ください。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、SDメモリーカードの容量によって異なります。（☞P.214）
- 新しいSDメモリーカードを使用する場合は、本機で初期化してからお使いください。（☞P.150）
- 内蔵メモリーに記録された画像を、SDメモリーカードにコピーすることができます。（☞P.135）
- 本カメラ以外で使用したSDメモリーカードを使用する場合は、必要なデータを保存の上、初期化してからお使いください。（☞P.150）
- SDHCメモリーカード（4GB）も使用できます。

リチャージャブルバッテリーを充電する

リチャージャブルバッテリーは、使用する前に充電する必要があります。ご購入時のバッテリーは充電されていません。

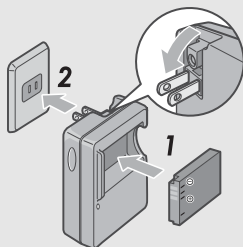
1 バッテリーの⊕⊖印とバッテリーチャージャーの⊕⊖印を合わせてセットする

- この時、バッテリーの印刷面は上になっています。

注意 --

⊕と⊖を逆にセットしないでください。

2 コンセントにバッテリーチャージャーを差し込む

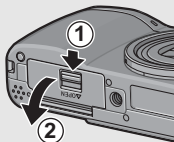
- 充電には専用バッテリーチャージャー(BJ-6)をご使用ください。
- 充電が開始されます。充電ランプの表示は下表のとおりです。充電が終了したら、コンセントから抜いてください。

充電ランプ	説明
点灯	充電開始
消灯	充電完了
点滅	バッテリーチャージャーまたはバッテリーの異常(バッテリーチャージャーをコンセントから抜いて、バッテリーをバッテリーチャージャーから取り外してください。)

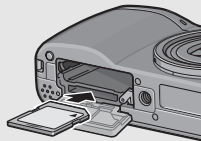
- バッテリーの残量により充電時間は異なります。

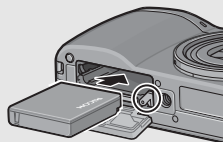
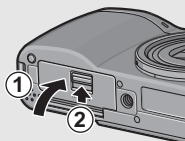
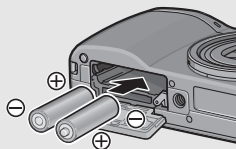
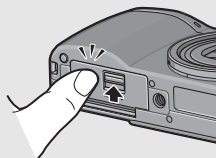
リチャージャブルバッテリーの充電時間	
DB-60	約2時間（25°C）

バッテリーとSDメモリーカードをセットする

リチャージャブルバッテリー（DB-60）は、本カメラで使用できる充電池です。持続時間が長く、充電により繰り返し使用でき便利です。すでに電源をオンにした場合は、バッテリーとカードをセットする前、または取り出す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける

2 SD メモリーカードの向きに気を付けて、「カチッ」と音がするまでSDメモリーカードを奥へ挿入する

- 先にリチャージャブルバッテリーをセットしてもかまいません。

3 リチャージャブルバッテリーを挿入する

- バッテリー側面でロックツメを挿入部の外側に押しながら奥まで入れます。
- セットすると、ロックツメでロックされます。

4 バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする

単四形アルカリ乾電池（市販）の場合
電池の向きに気をつけて、図のように挿入します。

指で電池の入った箇所をふたの上から押さえながら解除レバーをスライドしてバッテリー／カードカバーを閉じてください。

SDメモリーカードを取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。SDメモリーカードを一度押し込んで指を静かにはなすとSDメモリーカードが押し出されますので、つまんで取り出します。

リチャージャブルバッテリーを取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けます。ロックツメを押しながらずらすとバッテリーが押し出されますので、つまんで取り出します。このときバッテリーが落下しないよう十分に注意してください。

乾電池を取り出すときには
解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開けて、乾電池を取り出します。このとき、乾電池が落下しないよう十分に注意してください。

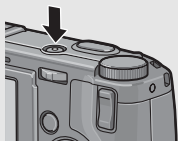
 注意--

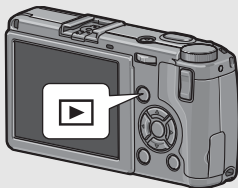
- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 長時間カメラをご使用にならない場合は、電池を抜いてカメラを保管してください。抜いた電池は涼しい場所に保管してください。

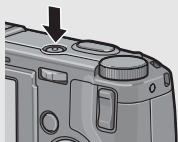
電源をオン／オフする

電源をオンにする

1 POWER（電源）ボタンを押す

- POWER（電源）ボタンが点灯し、起動音が鳴ってオートフォーカス／フラッシュランプが数秒間点滅します。

再生モードで使うときには

- ▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けると、再生モードの状態で電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- ▶ ボタンで電源をオンにした場合は、もう一度▶ボタンを押すと、記録モードになります。

電源をオフにする

1 POWER（電源）ボタンを押す

注意

フラッシュを使用する設定になっている場合は、フラッシュを使用しない設定の場合よりも、電源をオンにしてから撮影可能状態になるまでの時間が、長くかかる場合があります。

オートパワーオフについて

- 設定した時間内にカメラのボタンを押す操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
- オートパワーオフの設定は変更することもできます。（☞P.167）

日時を合わせる

はじめて電源をオンにしたときは、日時の設定画面に進みます。

1 ▲▼◀▶ ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼で数値を変更し、◀▶で項目を移動します。

日時設定
日付 2007 01 01
時間 00 00
書式 Y/M/D hh:mm
2007/01/01 00:00
◀▶ 選択 OK 確定

出荷時の設定

2 ［書式］で日時の書式を選ぶ

- ▲▼で書式を選択します。

3 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されます。

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、充分に残量のある電池をカメラに2時間以上セットしてください。
- 設定した日時は後で修正することができます。（☞P.180）
- 日時を入れて撮影することができます。（☞P.112）

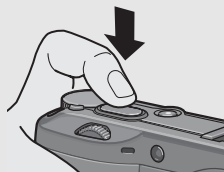
撮影する

準備ができたら、さっそく撮影してみましょう。

カメラの構えかた

カメラは次のように正しく構えて撮影しましょう。

1 カメラを両手でしっかりと持ち、両ひじを軽く身体につける

2 シャッターボタンに指を当てる

注意 --

指や髪、ストラップなどがレンズやフラッシュ発光部にかからないように注意してください。

手ブレを防ぐには ---

シャッターボタンを押したときにカメラが動いてしまうと、静止画が鮮明に撮れません（手ブレ）。
次のような場合には、手ブレが起きやすいので注意しましょう。

・フラッシュを使わずに暗い場所で撮る
・デジタルズームを使って撮る（☞P.40）

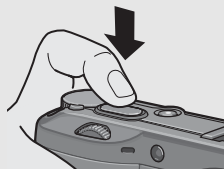
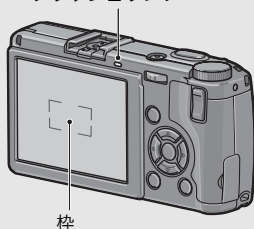
画像モニターに手ブレマークが表示されたときは、手ブレしやすい状態ですので次の方法を試してください。

・フラッシュを［AUTO］または［強制発光］にする（☞P.42）
・ISO感度を上げる（☞P.118）
・セルフタイマーを使う（☞P.44）

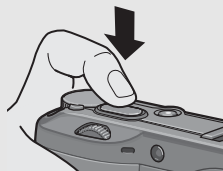
撮る

シャッターボタンを押す操作は、2段階になっています。シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、さらにシャッターボタンを押しきると撮影されます。
被写体が構図の中央にないときには、ピント合わせ後に構図を決めます（フォーカスロック）。

1 電源をオンにして、モードダイヤルを📷に合わせる

2 画像モニターの中央に被写体をあわせ、シャッターボタンを半押しする

- ピント合わせが行われ、露出、ホワイトバランスが固定されます。
- ピントが合わない場合は、画像モニター中央部に赤い枠が表示され、オートフォーカス／フラッシュランプが緑色に点滅します。
- 最大9点で測距され、どの位置にピントを合わせているかが、緑の枠で表示されます。

3 被写体にピントを合わせた状態で背景を撮りたい場合などは、半押しのままカメラを動かして構図を決める

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

- 撮影した画像が画像モニターに表示され、内蔵メモリーまたはSDメモリーカードに保存されます。

ピント合わせについて

- ピント合わせの状態は、画像モニター中央の枠の色とオートフォーカス／フラッシュランプで確認することができます。

ピント合わせの状態	枠の色	オートフォーカス／フラッシュランプ
ピント合わせ前	白	消灯
ピントが合ったとき	緑	緑点灯
ピントが合わなかったとき	赤	緑点滅

- 次のような被写体は、ピントを合わせられないことがあります。
  - ・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
  - ・横線だけで、凹凸のないもの
  - ・動きの速いもの
  - ・暗いところのもの
  - ・強い逆光および反射光があるもの
  - ・蛍光灯などのちらつきのあるもの

  このような被写体を撮影するときは、撮影したい被写体と同じ距離にある、違う被写体にピントを固定してから撮影してください。

- 手ブレを防ぐために、シャッターボタンを押すときは、静かに押しましょう。
- マークが表示された場合には、手ブレしやすい状態であることを示しています。カメラを固定するようにしっかりと構えて、再度ピント合わせを行ってください。
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- 撮影後、画像モニターに画像が表示される時間を設定することができます。また、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けたり、撮影後は画像を表示しないなどの設定もできます。(☞P.168)
- オート撮影モードの場合、絞り値はF11まで制御されます。(オート撮影モードの場合のみ、絞り値がF7.1～11のとき、絞りと内蔵NDフィルターが併用されます)

デジタルズームを使って撮る

セットアップメニューで［ズームボタン設定］を［デジタルズーム］に設定すると（☞P.160）、デジタルズームが使えます。
Q（拡大表示）ボタンを押すと、被写体を大きく写すことができます。（最大4.0倍まで）
▦（サムネイル表示）ボタンを押すと、広い範囲を写すことができます。

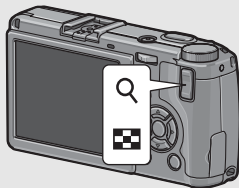
1 セットアップメニューで［ズームボタン設定］を［デジタルズーム］に設定する

- 操作方法はP.160を参照してください。

2 撮影できる状態で、Qボタンや▦ボタンを押す

- 画像モニターにデジタルズームの倍率が表示されます。

3 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

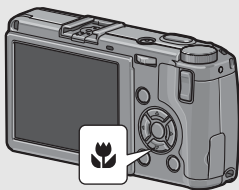
4 シャッターボタンを押しきる

メモ

- Q／▦ボタンには、デジタルズームではなく露出補正またはホワイトバランスを割り当てることもできます。
- ［画質・サイズ］を3648×2736に設定している場合は、［デジタルズーム切替］で［オートリサイズ］を選択することもできます。（☞P.161）
- ［画質・サイズ］がRAWモードの場合は、デジタルズームは使用できません。（☞P.86）

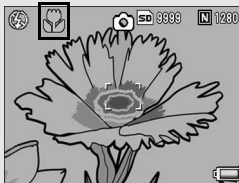
接写で撮る（マクロ撮影）

（マクロ）ボタンを使うと、レンズを被写体に接近させて撮影できます（マクロ撮影）。
最短約1.5cm（レンズ先端より）まで近づけることができるので、小さな被写体の撮影に便利です。

1 撮影できる状態で、ボタンを押す

- 画像モニター中央に一瞬が大きく表示され消えた後、上部にが表示されます。

2 構図を決めてシャッターボタンを半押しする

3 シャッターボタンを押し切る

- マクロモードを解除するには、もう一度ボタンを押します。

メモ

- レンズ先端から約1.5cmの距離まで（撮影範囲：約31×23mm）のマクロ撮影ができます。
- マクロ撮影では、カメラを動かさずにカメラのボタン操作だけでフォーカスロックができるAFターゲット移動機能が使用できます。三脚を使った撮影時に便利です。（☞P.65）

フラッシュを使って撮る

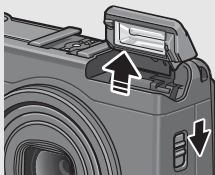
フラッシュを使うときは、⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを下側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げます（ポップアップ）。ポップアップしないと、フラッシュは発光しません。ポップアップした状態で、⚡（フラッシュ）ボタンを押すと、フラッシュモードを切り替えることができます。購入時の初期設定は、［AUTO］です。

フラッシュの光が届く範囲（ISO感度が［AUTO］の場合☞P.118）

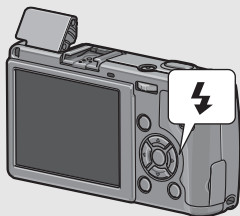
約20cm～3.0m（レンズ先端より）

フラッシュモードの種類

アイコン	モード	説明
(発光禁止アイコン)	発光禁止	フラッシュを発光しません。
⚡AUTO	AUTO	逆光や被写体が暗いときには、自動的にフラッシュを発光します。
(赤目軽減アイコン)	赤目軽減	人物を撮影するときに、人物の目が赤く写る赤目現象を軽減します。
⚡	強制発光	必ずフラッシュを発光します。
⚡SLOW	スローシンクロ	シャッタースピードを遅くして発光します。人物を入れた夜景の撮影に適します。手ブレしやすいので、三脚の使用をお勧めします。
(外部フラッシュアイコン)	外部フラッシュ（推奨品）	外部フラッシュ（推奨品）が使用できることを示します。

1 ⚡OPENスイッチを下側にスライドさせて、フラッシュカバーを上げる

2 モードダイヤルを📷に合わせる

3 ⚡ボタンを押して、フラッシュモードを切り替える

- 画像モニター中央に、一瞬フラッシュモードのマークが大きく表示され消えた後、左上にフラッシュモードのマークが表示されます。
- フラッシュ充電中は、オートフォーカス／フラッシュランプが点滅します。充電が完了すると消灯し、撮影が可能になります。

メモ

- フラッシュを使用しない場合は、フラッシュカバー中央部を指で押して戻します。
- ⚡ボタンを押して変更するまで、フラッシュモードの設定内容は保持されます。
- 動画、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットでは、発光禁止になります。
- 単四形アルカリ乾電池、オキシライド乾電池、ニッケル水素電池をお使いの場合、フラッシュ充電中は画像モニターがオフになります。
- フラッシュ発光時は、AEの精度を補助するため、予備発光します。
- 外部フラッシュをご使用の場合は(☞P.218)、カメラの内蔵フラッシュを使用することはできません。

注意

ワイドコンバージョンレンズ、テレコンバージョンレンズおよびフードをご使用の場合、カメラの内蔵フラッシュは使用できません。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーは、10秒後、2秒後の2種類から選択できます。手ブレを防ぎたいときには2秒に設定すると便利です。

1 モードダイヤルを に合わせる

2 （セルフタイマー）ボタンを押す

- セルフタイマーのマークが表示されます。
- マークの右側にある［10］は秒数を示しています。この状態でシャッターボタンを押すと、10秒後に撮影されます。
- ボタンは、1回押すごとに、10秒→2秒→セルフタイマー解除→10秒→2秒→・・・と切り替わります。

3 シャッターボタンを押す

- ピントが固定され、セルフタイマーがスタートするとAF補助光が発光します。

メモ

- 撮影した後もセルフタイマーは解除されません。セルフタイマーを解除するには、ボタンを押して、［セルフ オフ］に切り替えます。
- 2秒の場合は、AF補助光は発光しません。

再生する

撮った静止画を見る

再生モードを使うと、撮った静止画を確認することができます。削除、拡大表示もできます。

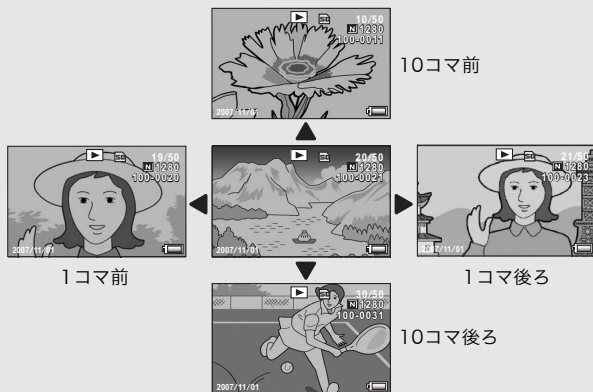
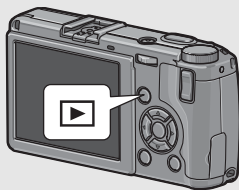
1 ▶（再生）ボタンを押す

- 再生モードに切り替わり、最後に撮った静止画が表示されます。
- ◀▶ ボタンで、順番に静止画を見ることができます。
- ▲ボタンを押すと、10コマ前の静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、先頭の静止画が表示されます。
- ▼ボタンを押すと、10 コマ後ろの静止画が表示されます。10 コマ未満の場合は、最後の静止画が表示されます。
- 再生モードから撮影モードに戻るには、もう一度▶ボタンを押します。

10コマ前

1コマ前

1コマ後ろ

10コマ後ろ

注意

［画質・サイズ］をRAWモードに設定して撮影した場合（☞P.86）、DNGファイルと関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されます。JPEGファイルをパソコン等で削除してしまった場合、カメラではDNGファイルのサムネイルは表示されますが、サムネイルを拡大することはできません。

メモ

［画質・サイズ］をRAWモードに設定して撮影した画像（RAW3648/RAW3:2/RAW1:1）を再生すると、同時記録されたJPEGファイルが表示されます。画面には、RAWモードを示すマークが表示されます。

撮影モードでの画像確認について

撮影モードでは、静止画を撮影した直後に、確認のために撮影した画像が表示されます。確認時間はセットアップメニューの［画像確認時間］で変更することができます（☞P.168）。［画像確認時間］を［HOLD］に設定すると、次にシャッターボタンを半押しするまで画像を表示し続けます。［HOLD］に設定している場合は、確認中の画像を拡大表示したり削除したりすることもできます。（☞P.49、50）

再生モードでの電源オンについて

電源がオフの状態で▶ボタンを約1秒以上押し続けると、電源がオンになり、再生モードの状態で起動します。
▶ボタンで電源をオンにした場合も、もう一度▶ボタンを押すと、撮影モードになります。

再生元について

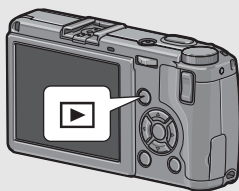
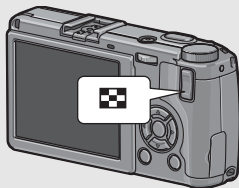
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリーから再生され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカードから再生されます。

3コマ表示／一覧表示する（サムネイル表示）

再生画面は3コマ表示または一覧表示（12枚ずつ）にすることができます。3コマ表示／一覧表示では、静止画を選択して、その静止画を1枚表示にしたり、削除することができます。

再生画面は次のように切り替わります。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ▦（サムネイル表示）ボタンを押す

- 3 コマ表示に変わります。中央の大きなコマが現在選択されている静止画です。
- ▲ボタンを押すと、10コマ前の静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、先頭の静止画が表示されます。

- ▼ボタンを押すと、10コマ後ろの静止画が表示されます。10コマ未満の場合は、最後の静止画が表示されます。

3 3 コマ表示時に再度 ▣ ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

選択されている静止画

1枚表示するには

●3コマ表示の場合

1 ◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 Q（拡大表示）ボタンを押す、またはMENU/OKボタンを押す

●一覧表示の場合

1 ▲▼◀▶ボタンを押して静止画を選ぶ

2 Qボタンを2回押す

メモ

3コマ表示で次の操作を行うと、通常の再生画面（1枚表示）に戻って操作を実行します。

- 削除する（☞P.50）
- メニューを表示する（☞P.125）
- 動画を再生する（☞P.124）

静止画を拡大表示する

表示している静止画を拡大表示することができます。

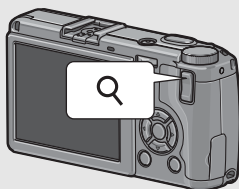
画像サイズ	拡大表示（最大倍率）
3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536	16倍
1280×960	6.7倍
640×480	3.4倍

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮った静止画が表示されます。

2 ◀▶ボタンを押して拡大表示したい静止画を表示する

3 Q（拡大表示）ボタンを押す

- 静止画が拡大されます。

画像拡大時の動作	
Qボタン	静止画を拡大表示します。 拡大表示中は、▲▼◀▶ボタンで表示箇所を移動することができます。
▦ボタン	拡大表示された静止画を元の大きさに戻します。
MENU/OKボタン	拡大表示中にMENU/OKボタンを押すと、静止画を最大倍率で拡大して表示します。 最大倍率で表示されているときは、元の大きさに戻します。

メモ

- セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.168）、撮影後の確認画面で画像を拡大表示することもできます。
- 動画は拡大表示することができません。

削除する

不要なファイルや失敗したファイルを、SDメモリーカードまたは内蔵メモリー内から削除することができます。

メモ

セットアップメニューで［画像確認時間］を［HOLD］に設定している場合（☞P.168）、撮影後の確認画面で画像を削除することもできます。

1ファイルを削除する

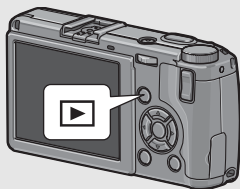
1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンを使って削除したいファイルを表示する

3 🗑（削除）ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［1ファイル削除］を選ぶ

- ◀▶ボタンを使って削除するファイルを変更できます。

5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、手順4の画面に戻ります。

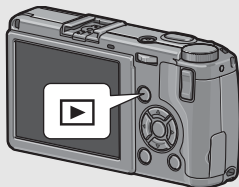
すべてのファイルを削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 🗑（削除）ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[全削除]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 削除の確認画面が表示されるので、▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押します。

メモ---

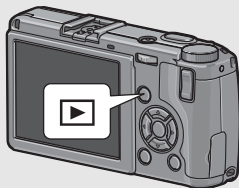
3コマ表示の状態（☞P.47）で、🗑ボタンを押しても、ファイルを削除できます。

複数のファイルを一度に削除する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▦（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 🗑（削除）ボタンを押す

● 削除するファイルを1つずつ指定する場合

4 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したいファイルを選び、🗑（削除）ボタンを押す

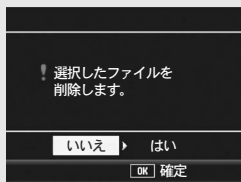
- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

5 手順4を繰り返して、削除したいファイルをすべて選択する

- 間違えて選択したときには、ファイルを選択して🗑（削除）ボタンを再度押すと解除できます。

6 MENU/OKボタンを押す

7 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OK ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

●削除する範囲を指定する場合

4 ADJ.レバーを押す

- もう一度ADJ.レバーを押すと、1ファイルずつ指定する画面に戻ります。

5 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の始点になるファイルを選び、🗑（削除）ボタンを押す

- ファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

6 ▲▼◀▶ボタンを押して、削除したい範囲の終点になるファイルを選び、🗑（削除）ボタンを押す

- 指定した範囲のファイルの左上にゴミ箱のマークが表示されます。

7 手順5、6を繰り返して、削除したいファイルの範囲をすべて指定する

- 間違えて選択したときは、ADJ.レバーを押して1ファイルずつ指定する画面に戻り、ファイルを選択して🗑（削除）ボタンを押すと解除できます。

8 MENU/OKボタンを押す

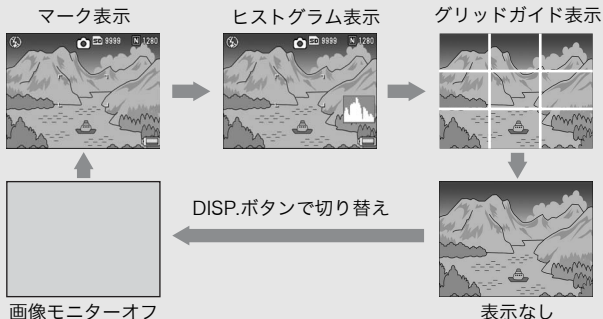
9 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、削除が完了すると、一覧の画面に戻ります。

DISP.ボタンで画面表示を切り替える

DISP.ボタンを押すと、マークの表示／非表示を切り替えるなど、画面の表示状態を変更することができます。

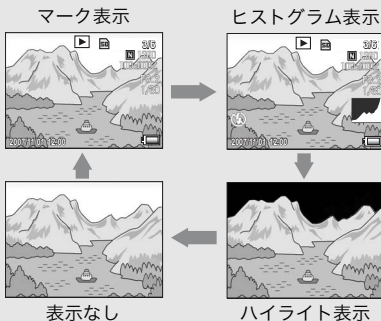
● 撮影モード時

DISP.ボタンは1回押すごとに、ヒストグラム表示→グリッドガイド表示→表示なし→画像モニターオフ→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。

グリッドガイド表示

画像モニターに、撮影時の補助線を表示します。実際の画像には記録されません。

- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定している場合は（☞P.165）、マーク表示とヒストグラム表示のときに水平インジケーターが表示されます。（☞P.57）
- ［撮影アイコン拡大］をオンにした場合（☞P.177）、マーク表示では次のアイコンが表示されません。
  デジタルズームの倍率、フォーカスバー、日付入れ撮影、画像設定
- 画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ・ADJ.レバー、MENU/OKボタン、DISP.ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合
  - ・［ズームボタン設定］が［OFF］以外（☞P.160）でQ/■ボタンを押した場合
  - ・マニュアルフォーカス中（☞P.91）に▲▼ボタンを押した場合
  - ・シーンモードでMODEボタンを押した場合

●再生モード時

DISP.ボタンを1回押すごとに、ヒストグラム表示→ハイライト表示→表示なし→通常のマーク表示→ヒストグラム表示→・・・と切り替わります。

DISP.ボタンで切り替え

ハイライト表示

ハイライト部分が黒く点滅します。ハイライトとは、被写体の特に明るい部分が真っ白に写り、色の濃淡を表す階調がなくなる状態です。階調がなくなると、撮影後に画像の修正ができません。直射日光を避ける、露出を－側に補正する（☞P.113）などして、撮り直すことをお勧めします。

メモ

ハイライト表示は、あくまでも目安です。

電子水準器について

セットアップメニューまたはDISP.ボタンの長押しで［水準器設定］をオンにすると（☞P.165）、撮影する画像が水平かどうかを水平インジケーターや水準器音で確認することができます。水平インジケーターは、マーク表示とヒストグラム表示のときに表示されます。
風景や建物など、水平のとれた画像を撮影したい場合に使用します。地平線の入った構図等で特に有効です。
［水準器設定］の設定方法は、P.165を参照してください。

●［水準器設定］を［表示のみ］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。カメラが水平のときは、水平インジケーターが緑色になり、目盛りが真中を指します。カメラが傾いている場合は、水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

●［水準器設定］を［表示＋音］に設定している場合：
画像モニターに水平インジケーターが表示されます。カメラが水平のときは、水平インジケーターが緑色になって目盛りが真中を指し、かつ水準器音が一定間隔で鳴り続けます。
カメラが傾いている場合は、水平インジケーターの目盛りがオレンジ色になり、カメラの傾きと反対側を指します。

●［水準器設定］を［音のみ］に設定している場合：
カメラが水平のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。水平インジケーターは表示されません。

水平インジケーターの表示

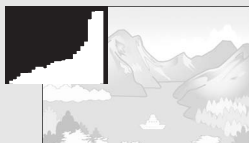
- カメラを左右に傾けすぎている場合は、水平インジケーターの目盛りが赤くなり、カメラの傾きと反対側の端を指します。
- カメラを縦にしている場合も、水平になっているかどうかを水準器で確認することができます。

注意

- カメラを前後方向に傾けすぎている場合、またはカメラが水平かどうか検知できなかった場合は、水平インジケーターが赤くなります。
- グリッドガイド表示、表示なし、画像モニターオフのときは（☞P.54）、水準器音は鳴りますが水平インジケーターは表示されません。[水準器設定］を［表示+音］に設定している場合は、水準器音のみ鳴ります。
- カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にしている場合、動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- 乗り物に乗っているなど、ゆれている場所にいる場合や、カメラがゆれている場合は、水準器の精度が低くなります。
- [水準器設定］を［表示+音］または［音のみ］に設定していても、[操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合（☞P.164）は、音は鳴りません。
- この機能は、本カメラで撮影する画像が水平かどうかを確認するための目安としてご使用ください。カメラ自体を水準器として使用した場合の水準器の精度は保証できません。

ヒストグラム表示について

ヒストグラム表示にすると、画像モニター画面の右下にヒストグラムが表示されます。ヒストグラムは、縦軸は画素数、横軸は左からシャドー（暗い）、中間調、ハイライト（明るい）という明るさの階調を示したグラフです。
ヒストグラムを活用することによって、まわりの明るさによる画像モニターの見えかたに影響されることなく、画像の明るさを判断できます。また、画像の白飛びや黒つぶれを防ぐ助けになります。

ヒストグラムで、右側だけにグラフの山が盛り上がり、ほかには何もないとすると、ハイライト部だけの画素数が多い、露出オーバーの画像です。

左側だけにグラフの山があると、シャドー部だけの画素数が多い、露出がアンダーの画像ということになります。
露出補正時の参考にお使いください。

メモ

- ヒストグラム表示はあくまでも目安です。
- フラッシュを使用したときや、周囲が暗いときなど、撮影の状況によってはヒストグラムに表示された露出と撮影した画像が異なることがあります。
- 露出補正の範囲には限りがあります。そのため、調整しきれないことがあります。
- ヒストグラムは、必ずしも中央が高い山型の状態が適正となるわけではありません。
  例：意図的に露出オーバーや露出アンダーにするときなど
- 露出補正の操作については、P.113を参照してください。

応用編

目的に応じて必要なときにお読みください

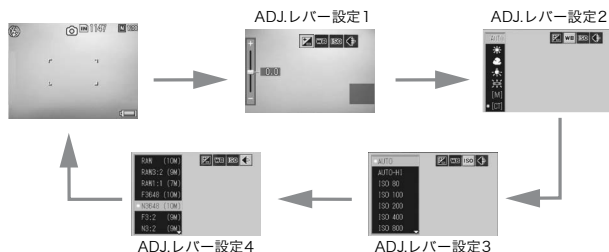
ADJ.レバーの使い方

ADJ.レバーには、撮影設定メニューのうち4つの機能を登録することができます。ADJ.レバーに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく少ないボタン操作で設定ができるので、使用頻度の高い機能を登録しておくと便利です。
ご購入時には3つの機能が登録されていますが、セットアップメニューで機能を追加・変更することができます。機能追加・変更の操作はP.158を参照してください。

ADJ.モードでの操作方法は、以下のとおりです。

1 撮影モードでADJ.レバーを押す

2 ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押して、設定したい項目を選択する

- 以下の画面は、セットアップメニューで［ADJ.レバー設定1］〜［ADJ.レバー設定4］に［露出補正］、［ホワイトバランス］、［ISO］、［画質］の機能を登録した場合の画面例です。

3 ▲▼ボタンを押して値を選択する

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押して確定する

メモ--

シャッターボタンの半押しでも、確定ができるよう設定できます。(☞P.37)

[ADJ.レバー設定]で登録できる機能

露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正

シーンモード時に設定可能な機能について

シーンモード時は、ADJ.レバーで設定できる機能が他の撮影モードと異なります。ADJ.レバーで設定できる項目は、以下のとおりです。以下の項目以外は、[ADJ.レバー設定]で登録はできますが、ADJ.レバーを押しても動作しません。

シーンモード	設定できる項目
[動画]	ホワイトバランス
[文字]	文字濃度
[斜め補正]	露出補正、ホワイトバランス

文字濃度を変える（シーンモード）

シーンモードの［文字］で撮影する（☞P.79）場合の、文字の濃淡を変更することができます。
濃淡は［濃い］、［標準］、［淡い］から選択できます。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。
撮影設定メニューを使って操作する場合は、「メニューの操作方法」（☞P.85）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ◀▶ ボタンを押して、［文字］を選び、MENU/OKボタンを押す

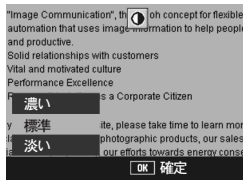
4 ADJ.レバーを押す

- 文字濃度のメニューが表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、濃度を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

6 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- 文字濃度の設定値は画面上には表示されません。

AFターゲットを移動する（マクロ）

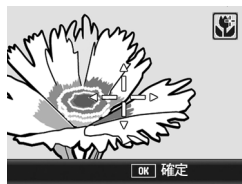
マクロ撮影時にADJ.レバーを押すと、カメラを動かすことなく、カメラの▲▼◀▶ボタンでAFターゲットを移動することができます。AFターゲットを移動した位置でフォーカスロック（☞P.37）を行い、撮影ができます。三脚を使った撮影時に便利です。

◀ボタンでAFターゲットを移動した場合

1 **撮影できる状態で、🌷（マクロ）ボタンを押す**

- 画面にマクロモードのマークが表示されます。

2 **ADJ.レバーを押す**

3 **AF ターゲット移動画面（画面中央の十字）が表示されるまで、ADJ.レバーを左右に押す**

4 **▲▼◀▶ボタンを押して、ピントを合わせたい被写体に十字を移動する**

5 **MENU/OKボタンを押す**

6 **シャッターボタンを半押しする**

- 十字の位置にピント合わせが行われます。

7 **シャッターボタンをそのまま静かに押しきる**

- 以降、マクロモードを解除するまで、AF ターゲット移動機能で設定した位置にピント合わせが行われます。

ファンクションボタンの使い方

セットアップメニューの［ファンクションボタン設定］で機能を登録すると（☞P.156）、Fn（ファンクション）ボタンを押すだけで色々な機能を切り替えたり、少ないボタン操作で撮影設定メニューの項目を変更することができます。ご購入時は、［ファンクションボタン設定］は［AF/MF］に設定されています。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。それぞれの操作方法は各参照先をご覧ください。

［ファンクションボタン設定］	機能	参照先
AF/MF	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える	P.68
AF/スナップ	オートフォーカスとスナップを切り替える	P.69
AEロック	露出を固定する	P.70
JPEG→RAW	JPEGとRAWを切り替える	P.71
カラー→白黒	カラーと白黒*1を切り替える	P.72
カラー→TE	カラーと白黒(TE)*2を切り替える	P.72
露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正	各撮影設定メニューの項目を変更する	P.73

*1［画像設定］の［白黒］で設定した画質（☞P.99）
*2［画像設定］の［白黒(TE)］で設定した画質（☞P.100）

シーンモード時に設定可能な機能について

シーンモード時は、Fn（ファンクション）ボタンで設定できる機能が他の撮影モードと異なります。Fnボタンで設定できる項目は、以下のとおりです。○以外の項目は、[ファンクションボタン設定]で登録はできますが、Fnボタンを押しても動作しません。

	シーンモード		
	動画	文字	斜め補正
AF/MF	○		○
AF/スナップ	○		○
AEロック		○	○
JPEG→RAW			
カラー→白黒			○
カラー→TE			○
露出補正			○
ホワイトバランス	○		○
ISO			○
画質	○	○	○
フォーカス	○		○
画像設定			○
測光			○
連写			
オートブラケット			
調光補正			○

オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える（AF/MF）

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/MF］を登録する（☞P.156）と、撮影時にFnボタンを押して、オートフォーカス（AF）とマニュアルフォーカス（MF）を切り替えることができます。Fnボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定（☞P.89）によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fnボタンを押す
マルチAF	MF→マルチAF→MF･･･
スポットAF	MF→スポットAF→MF･･･
MF	（マルチAF／スポットAF）＊→MF→（マルチAF／スポットAF）＊･･･

＊ 最後に設定したAFモード（マルチAF／スポットAF）に切り替わります。

1 セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を［AF/MF］に設定する

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn ボタンを押す

- ［MF］に切り替わると、画面右上に［MF］マークが表示されます。
- ［マルチAF］または［スポットAF］に切り替わると、［MF］マークが消えます。

注意

［フォーカス］の設定が［スナップ］または［∞］の場合（☞P.89）、Fnボタンを押してもAF/MFを切り替えることはできません。

メモ

- マニュアルフォーカスの操作方法は、P.91を参照してください。
- ［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.89）

- Fnボタンを押してAF/MFを切り替え、フォーカスロックした位置でピントを固定する（AFロック）ことができます。操作手順は以下のとおりです。
  1（オートフォーカスの状態で）シャッターボタンを半押しして距離を合わせたいものにピントを合わせます。（フォーカスロック）
  2 シャッターボタンから指をはなしてFnボタンを押します。
  3 MFに設定され、フォーカスロックをした位置で撮影距離が固定されます。
    - AFに戻すには、再度Fnボタンを押してください。

オートフォーカスとスナップを切り替える（AF/スナップ）

Fn（ファンクション）ボタンに［AF/スナップ］を登録する（☞P.156）と、撮影時にFnボタンを押して、オートフォーカス（AF）とスナップを切り替えることができます。Fnボタンを押すと、撮影設定メニューの［フォーカス］の設定（☞P.89）によって以下のように切り替わります。

［フォーカス］設定	Fnボタンを押す
マルチAF	スナップ→マルチAF→スナップ･･･
スポットAF	スナップ→スポットAF→スナップ･･･
スナップ	(マルチAF／スポットAF)＊→スナップ→(マルチAF／スポットAF)＊･･･

＊最後に設定したAFモード（マルチAF／スポットAF）に切り替わります。

1 セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を［AF/スナップ］に設定する

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fn ボタンを押す

- ［スナップ］に切り替わると、画面右上にマークが表示されます。
- ［マルチAF］または［スポットAF］に切り替わると、マークが消えます。

注意--

［フォーカス］の設定が［MF］または［∞］の場合（☞P.89）、Fnボタンを押してもAF/スナップを切り替えることはできません。

メモ--

［フォーカス］の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。(☞P.89)

露出を固定する（AEロック）

Fn（ファンクション）ボタンに［AEロック］を登録する（☞P.156）と、撮影時にFnボタンを押して、露出の固定（AEロック）、解除を切り替えることができます。

1 セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を［AEロック］に設定する

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 撮影できる状態にする

3 画像モニターの中央に露出を固定したい被写体を合わせ、Fnボタンを押す

- 露出が固定され、画面にAELマーク、絞り値、シャッタースピードが表示されます。
- もう一度Fnボタンを押すと、AEロックが解除されます。

メモ---

- AEロックで撮影した後も、AEロックは保持されます。
- Fnボタンに［AEロック］を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fnボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

JPEGをRAWに切り替える（JPEG→RAW）

Fn（ファンクション）ボタンに［JPEG→RAW］を登録すると（☞P.156）、［画質・サイズ］でRAW以外を選択している場合（☞P.86）に、Fnボタンを押して以下のように同じ縦横比のRAWに切り替えることができます。もう一度Fnボタンを押すと、元のJPEGに戻ります。

［画質・サイズ］の設定	Fnボタンを押す
F3648(10M)／N3648(10M)／N3264(8M)／N2592(5M)／N2048(3M)／N1280(1M)／N640（VGA）	RAW(10M)→元の［画質・サイズ］→RAW(10M)…
F3:2(9M)／N3:2(9M)	RAW3:2(9M) →元の［画質・サイズ］→RAW3:2(9M) …
F1:1(7M)／N1:1(7M)	RAW1:1(7M) →元の［画質・サイズ］→RAW1:1(7M) …
RAW(10M)／RAW3:2(9M)／RAW1:1(7M)	動作しない

1 **セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を［JPEG→RAW］に設定する**

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 **撮影できる状態で、Fnボタンを押す**

- 同じ縦横比のRAWに切り替わり、画面に［RAW］がオレンジ色で表示されます。
- もう一度 Fn ボタンを押すと、元のJPEGに戻ります。

注意

以下の場合は、Fnボタンを押してもJPEGに切り替えることはできません。

- ［画質・サイズ］でRAWを選択している場合（☞P.86）
- ［連写］で［OFF］以外を選択している場合（☞P.94）
- ［オートブラケット］で［OFF］以外を選択している場合（☞P.103）

メモ

- RAWに切り替わっているときに電源をオフにした場合、または［ファンクションボタン設定］を変更した場合は、元のJPEGに戻ります。
- RAWモードで撮影する場合の注意事項は、P.87を参照してください。
- JPEGとRAWは、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.86）

カラーを白黒または白黒(TE)に切り替える（カラー→白黒、カラー→TE）

Fn（ファンクション）ボタンに［カラー→白黒］または［カラー→TE］を登録すると（☞P.156）、［画像設定］を［白黒］または［白黒(TE)］以外に設定している場合に、Fnボタンを押して［白黒］または［白黒(TE)］に切り替えることができます。もう一度Fnボタンを押すと、元のカラーに戻ります。

1 セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を［カラー→白黒］または［カラー→TE］に設定する

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- ［白黒］または［白黒(TE)］に切り替わり、画面にオレンジ色のマークが表示されます。
- もう一度 Fn ボタンを押すと、元のカラーに戻ります。

注意

［画像設定］を［白黒］または［白黒(TE)］に設定している場合（☞P.99、100）は、Fnボタンを押してもカラーに切り替えることはできません。

メモ

- ［白黒］または［白黒(TE)］に切り替わっているときに電源をオフにした場合は、元のカラーに戻ります。
- 色の設定は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.99、100）

その他の機能を設定する

Fn（ファンクション）ボタンに以下のいずれかを登録すると(☞P.156)、少ないボタン操作でそれぞれの設定を変更することができます。

露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正

1 セットアップメニューで［ファンクションボタン設定］を上記いずれかの項目に設定する

- 操作方法はP.156を参照してください。

2 撮影できる状態で、Fnボタンを押す

- それぞれの設定画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して値を選択する

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押して確定する

メモ

- それぞれの項目は、撮影設定メニューでも変更できます。(☞P.83)

1 いろいろな撮影

絞り値を設定して撮影する（A：絞り優先モード）

モードダイヤルをA（絞り優先モード）に合わせると、絞り値を手動で設定できます。絞り値を設定すると、カメラが自動的に適正なシャッタースピードを設定して撮影します。
絞り値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかして被写体をハッキリ強調させることができます。絞り値を大きくする（絞りを閉じる）と、手前から奥までクッキリと写した奥行きのある画像が撮影できます。
絞り値の設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをAに合わせる

- 画像モニターにモードのマークが表示され、画面右端に現在の絞り値がオレンジ色で表示されます。

2 アップダウンダイヤルを回して、絞り値を変更する

3 シャッターボタンを半押しする

- シャッタースピードが決定され、画面に表示されます。

4 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

絞り動作は、シャッターボタンを押しきったときに行われます。

絞り値とシャッタースピードを設定して撮影する（M：マニュアル露光モード）

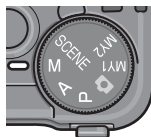
モードダイヤルをＭ（マニュアル露光モード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードを手動で設定して撮影できます。
シャッタースピードは、以下から選択できます。

1/2000	1/1600	1/1250	1/1000	1/800	1/640
1/500	1/400	1/320	1/250	1/200	1/160
1/125	1/100	1/80	1/60	1/50	1/40
1/30	1/25	1/20	1/15	1/13	1/10
1/8	1/6	1/5	1/4	1/3	1/2.5
1/2	1/1.6	1/1.3	1	2	4
8	15	30	60	120	180

メモ--

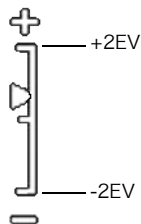
絞り値によって、設定できないシャッタースピードもあります。

シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体が、一瞬止まったように撮影できます。シャッタースピードを遅くすると、動きを流れるように表現でき、動く被写体の軌跡を撮影できます。
絞り値の設定は、アップダウンダイヤルを使います。
シャッタースピードの設定は、ADJ.レバーを使います。

1 モードダイヤルをMに合わせる

- 画像モニターにモードのマークが表示され、画面右側に現在の絞り値、シャッタースピード、露出値のインジケーターが表示されます。

1

いろいろな撮影

- 露出値が -2EV から +2EV の範囲にあるときは、露出値に応じて画像モニターが変化します。
- 露出値が -2EV から +2EV の範囲を超えると、インジケーターがオレンジ色になり、画像モニターは変化しません。

2 アップダウンダイヤルを回して絞り値を変更する

3 ADJ.レバーを左右に押して、シャッタースピードを変更する

4 シャッターボタンを半押しする

5 シャッターボタンをそのまま静かに押しきる

メモ

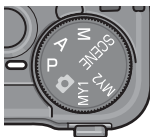
- 露光時間を長くしたいときは、シャッタースピードを遅く設定します。その場合、手ブレを起こすことがあります。カメラを両手でしっかり固定させるか、三脚等を使用して撮影してください。
- シャッタースピードを遅く設定して撮影した場合、撮影中は画像モニターがオフになります。
- マニュアル露光モードでISO感度を［AUTO］または［AUTO-HI］に設定した場合、ISO100に固定されます。（☞P.118）
- セットアップメニューの［ズームボタン設定］を［露出補正］に設定している場合、マニュアル露光モードでQ/▣ボタンを押しても、露出補正の設定画面は表示されません。Q/▣ボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。
- Fn（ファンクション）ボタンに［AEロック］を登録しても、マニュアル露光モードではAEロックは働きません。Fnボタンを押すと、適正露出付近（露出値インジケーターの中央部付近）に近づけるよう自動的に値を設定します。適正露出付近から露出値を変更したい場合などに便利です。

注意

シャッタースピードを15秒以上に設定した場合、画像のノイズを除去する機能が働きます。そのため、画像の記録完了までに、設定したシャッタースピードの約2倍の時間がかかります。

絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影する（P：プログラムシフトモード）

モードダイヤルをP（プログラムシフトモード）に合わせると、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更して撮影できます。
プログラムシフトモードでの設定は、アップダウンダイヤルを使います。

1 モードダイヤルをPに合わせる

- 画像モニターにモードのマークが表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- 画面に現在の絞り値とシャッタースピードの組み合わせが表示されます。

3 シャッターボタンから指を離す

4 アップダウンダイヤルを回して、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを変更する

- 絞り値とシャッタースピードの組み合わせの表示は、10秒間表示されます。その間にアップダウンダイヤルで値を変更します。

5 シャッターボタンを押して撮影する

メモ

プログラム線図は以下のとおりです。

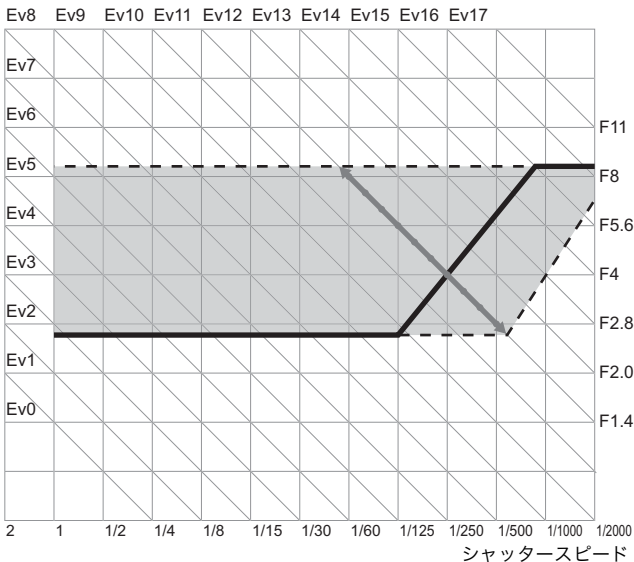
- フラッシュを［発光禁止］、ISO感度を［ISO 100］に設定した場合の例です。
- グレーの部分はシフト可能な範囲の目安です。Ev（露出値）によって変化します。

Ev8 Ev9 Ev10 Ev11 Ev12 Ev13 Ev14 Ev15 Ev16 Ev17

Ev7
Ev6
Ev5
Ev4
Ev3
Ev2
Ev1
Ev0

F11
F8
F5.6
F4
F2.8
F2.0
F1.4

2 1 1/2 1/4 1/8 1/15 1/30 1/60 1/125 1/250 1/500 1/1000 1/2000

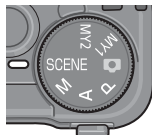
シャッタースピード

撮影シーンに合わせて撮影する（SCENE：シーンモード）

モードダイヤルをSCENEに合わせると、以下のモードを選択でき、自動的にシーンに適した設定で撮影できます。

シーンモードの種類	
動画	音声付き動画を撮影します。 詳しい操作手順はP.121で説明しています。
斜め補正	掲示板や名刺などの四角い被写体を斜め方向から撮影する場合、撮影した画像を正面から撮影したように補正し、変換します。 詳しい操作手順はP.81で説明しています。 斜め補正モードでは、[画質・サイズ]は、[N1280]、[N640]から選択できます。（☞P.86）
文字	会議でホワイトボードに書かれたメモを撮影するときなどに使用します。白黒で記録されます。 文字の濃淡を変えることもできます。（☞P.64） 画像サイズは、3648×2736、2048×1536から選択できます。（☞P.86）

 メモ---

シーンモード時の撮影設定メニュー項目については、P.84を参照してください。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 シーンモードを変更したい場合は、MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して、シーンモードを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 画像モニター上部にシーンモードの種類が表示されます。

5 シャッターボタンを押して撮影する

斜め補正モードを使うには

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して、[斜め補正]を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して撮影する

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジの枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意--

[斜め補正]に設定した場合は、以下の点にご注意ください。

- 被写体がなるべく大きくなるように、被写体の全体が画像モニターの表示に入るような構図で撮影してください。
- 以下のようなときには被写体を認識できないことがあります。
  - ・ピンぼけの画像
  - ・被写体の4辺がはっきり見えない
  - ・被写体と背景の区別がつきにくい
  - ・背景が複雑な構図
- 変換前と変換後、2枚の画像が記録されます。記録可能枚数が2枚未満の場合には、撮影できません。

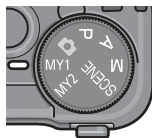
メモ--

撮影済みの静止画を斜め補正することもできます。(☞P.136)

自分好みの設定で撮影する（MY1、MY2：マイセッティングモード）

モードダイヤルをMY1、MY2に合わせると、あらかじめ登録した設定で撮影できます。MY1、MY2の設定は、セットアップメニューの［マイセッティング登録］で登録します。（☞P.153）

1 モードダイヤルをMY1/MY2に合わせる

- MY1に合わせると、［マイセッティング登録］の［設定1］の設定になります。
- MY2に合わせると、［マイセッティング登録］の［設定2］の設定になります。

2 シャッターボタンを押して撮影する

［マイセッティング登録］で登録した撮影モードのマーク

メモ

マイセッティングモード時に、カメラの設定を変更することができます。モードを切り替えるか電源をオフにすると、もとのMY1、MY2の設定に戻ります。

撮影設定メニューについて

撮影モードでMENU/OKボタンを押すと、撮影設定メニューが表示されます。撮影設定メニューでは、次の項目を設定して撮影することができます。

モードダイヤルがSCENE以外のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	RAW(10M)、RAW3:2(9M)、RAW1:1(7M)、F3648(10M)、[N3648(10M)]、F3:2(9M)、N3:2(9M)、F1:1(7M)、N1:1(7M)、N3264(8M)、N2592(5M)、N2048(3M)、N1280(1M)、N640(VGA)	P.86
フォーカス	［マルチAF］、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.89
測光	［マルチ］、中央、スポット	P.93
連写	［OFF］、連写、S連写、M連写	P.94
画像設定	硬調、［普通］、軟調、白黒、白黒(TE)、設定1、設定2	P.98
フラッシュ調光補正	-2.0～+2.0	P.102
オートブラケット	［OFF］、ON ±0.3、ON ±0.5、WB-BKT、CL-BKT	P.103
ノイズリダクション	ON、［OFF］	P.109
インターバル撮影	［0秒］、5秒～3時間	P.110
日付入れ撮影	［OFF］、日付、日時	P.112
露出補正*	-2.0～+2.0	P.113
ホワイトバランス	［AUTO］、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)、(手動設定)、(詳細設定)	P.114
ISO感度	［AUTO］、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.118
撮影設定初期化**	――――	P.120

* モードダイヤルがMのときは、表示されません。

** モードダイヤルがのときのみ表示されます。

シーンモードで［動画］のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
動画サイズ	640、［320］	P.86
フレームレート	［30コマ／秒］、15コマ／秒	P.122
フォーカス	［マルチAF］、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.89
ホワイトバランス	［AUTO］、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)、(手動設定)、(詳細設定)	P.114

シーンモードで［斜め補正］のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
画質・サイズ	［N1280］、N640	P.86
フォーカス	［マルチAF］、スポットAF、MF、スナップ、∞	P.89
測光	［マルチ］、中央、スポット	P.93
画像設定	硬調、［普通］、軟調、白黒、白黒(TE)、設定1、設定2	P.98
フラッシュ調光補正	-2.0～+2.0	P.102
日付入れ撮影	［OFF］、日付、日時	P.112
露出補正	−2.0～＋2.0	P.113
ホワイトバランス	［AUTO］、(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)、(手動設定)、(詳細設定)	P.114
ISO感度	［AUTO］、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600	P.118

シーンモードで［文字］のとき

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
文字濃度	濃い、［標準］、淡い	P.64
サイズ	［3648(10M)］、2048(3M)	P.86
日付入れ撮影	［OFF］、日付、日時	P.112

 メモ

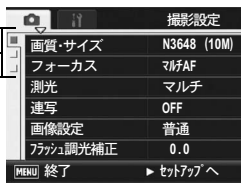
撮影設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（☞P.147）

メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

1 撮影モードで MENU/OK ボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

設定画面が3画面あることを示しています。

2 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

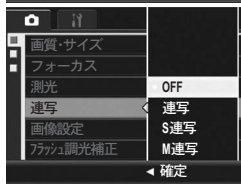
- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

3 ▶ボタンを押す

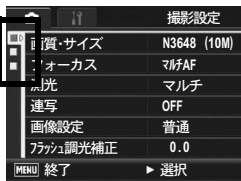
- 設定項目の選択肢が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 設定が確定します。
- 撮影設定メニューが消え、撮影できる状態になります。

画面の切り替え --

タブで画面を切り替えることができます。

1 ◀ ボタンを押すと、画面左にあるタブが選択できる状態になります。
2 ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
3 ▶ ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。

画質モード／画像サイズを選ぶ（画質・サイズ）

撮影した静止画のファイルの大きさは、画質モードと画像サイズの組み合わせによって決まります。動画の場合は動画サイズを選択します。太枠内は画面に表示されるときの名称です。

静止画の場合

画像サイズ	画質モード	画質・サイズ	備考
3648×2736	RAW	RAW(10M)	• 劣化の少ない画像を生成する • パソコンに取り込んで高度な画像補正･編集を行う
3648×2432		RAW3:2(9M)	
2736×2736		RAW1:1(7M)	
3648×2736	F (Fine) N (Normal)	F3648(10M) N3648(10M)	• パソコンに取り込んで画像を補正する • 大きくプリントする
3648×2432	F (Fine) N (Normal)	F3:2(9M) N3:2(9M)	
2736×2736	F (Fine) N (Normal)	F1:1(7M) N1:1(7M)	
3264×2448	N (Normal)	N3264(8M)	
2592×1944	N (Normal)	N2592(5M)	• プリントする
2048×1536	N (Normal)	N2048(3M)	
1280×960	N (Normal)	N1280(1M)	• 枚数を多く撮る
640×480	N (Normal)	N640(VGA)	• 枚数を多く撮る • メールに添付 • ホームページ用の画像として使用

- シーンモードの［斜め補正］の場合は、1280 × 960、640 × 480から選択できます。
- シーンモードの［文字］の場合は、3648×2736、2048×1536から選択できます。
- ［RAW3:2］、［F3:2］、［N3:2］に設定すると、撮影範囲に合わせて、画像モニターの上下に黒い帯部分が付加されます。
- ［RAW1:1］、［F1:1］、［N1:1］に設定すると、撮影範囲に合わせて、画像モニターの左右に黒い帯部分が付加されます。

動画の場合

画像サイズ	動画サイズ
640×480	640
320×240	320

- 動画の場合、さらにフレーム数を選択することができます。（☞P.122）

メモ

- 内蔵メモリー／SDメモリーカードに記録できる枚数は、[画質・サイズ］によって異なります。（☞P.214）
- 画質モードはNormalモード（N)、Fineモード（F)、RAWモードの3種類があります。

  Normalモード：画像の圧縮率は高くファイルサイズは小さくなります。通常はこのモードで撮影します。

  Fineモード：画像の圧縮率は低くファイルサイズは大きくなります。Normalモードより高画質です。

  RAWモード：撮影したままの生データがRAW形式ファイル(.DNGファイル）として保存されます。同時にJPEG形式のファイルも記録されます。撮影時の高品質を保ったまま、画像処理ソフト等で好みの画像に加工することができます。

RAWモードで撮影する

通常、撮影した画像はカメラ内で画像処理され、圧縮してファイルサイズの小さいJPEG形式で保存されます。JPEG形式は、ファイルサイズが小さいかわりに、圧縮のため画質が劣化してしまいます。
RAWモードで撮影した場合は、カメラ内で画像処理が行われません。RAWモードで撮影したときに作成されるDNGファイルには、カメラのセンサーから取り込んだ生データが保存されます。DNGファイルとは、RAW画像ファイル形式の1つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。このオリジナルに近いデータを、DNGファイル形式に対応した画像ソフトを使用して、パソコンで加工することができます。Windowsをご使用の場合は、付属のIrodio Photo & Video StudioでDNGファイルを加工することができます。Macintoshをご使用の場合は、Irodio Photo & Video Studioを使用することができません。DNGファイルを加工できる市販のソフトウェアをご使用ください。

RAWモードで撮影する場合は、以下の点にご注意ください。

- RAWモードでは、連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット、デジタルズームは使用できません。
- [日付入れ撮影]を設定した場合、DNGファイルに日付は入りません。同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。
- RAWモードで撮影すると、撮影メニューで設定した［画像設定］は、同時記録されるJPEGファイルにのみ反映されます。
- RAWモード時に同時記録されるJPEGファイルは、セットアップメニューの［RAW同時記録設定］で、画質・サイズを変更することができます。（☞P.174）

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画質・サイズ］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

静止画の場合

動画の場合

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面に設定値が表示されます。

ピント合わせの方式を変える（フォーカス）

ピント合わせの方式を初期設定のまま撮影すると、オートフォーカス（AF）でピント合わせが行われます。
ピント合わせ（フォーカス）の方式には、次の5種類があります。

選択できるピント合わせの方式

マーク	方式	内容
なし	マルチAF	9箇所のAFエリアから測距し、最も近い位置にピントを合わせます。中抜けを防止し、ピンボケの少ない撮影ができます。
なし	スポットAF	このAFエリアを画像モニター中央の1箇所に固定し、ピントを合わせます。
MF	MF（マニュアルフォーカス）	手動でピントを合わせるときに使います。
S	スナップ	近距離（約2.5m）にピントを固定します。
∞	∞（無限遠）	無限遠にピントを固定します。無限遠は、遠くの風景などを撮影するときに使います。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

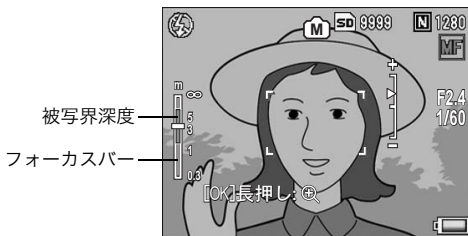
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- [MF]、[スナップ]、[∞] を選択した場合は、画面にマークが表示されます。
- マニュアル露光モード、絞り優先モードで [MF]、[スナップ]、[∞] を選択した場合は、画面に被写界深度が表示されます。被写界深度はフォーカスバーの内側に緑色で表示され、絞り値に連動して伸び縮みします。プログラムシフトモードで [MF]、[スナップ]、[∞] を選択している場合は、シャッターボタン半押し後のみ（絞り値が表示されている間のみ）被写界深度が表示されます。オート撮影モード、シーンモードの場合は、被写界深度は表示されません。なお、被写界深度はあくまでも目安です。

被写界深度（ひしゃかいしんど）について --------------------

被写界深度とは、ピントが合っているように見える距離の範囲のことです。絞り値を大きくする（絞りを閉じる）ほど、ピントの合う範囲が広くなり、絞り値を小さくする（絞りを開く）ほど狭くなります。

メモ --

- [ファンクションボタン設定] で [AF/MF] を設定する（☞P.156）と、Fn（ファンクション）ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます（☞P.66）。
- [ファンクションボタン設定] で [AF/スナップ] を設定する（☞P.156）と、Fnボタンでオートフォーカスとスナップを切り替えることができます（☞P.66）。

手動でピントを合わせて撮影する（MF）

オートフォーカスでピントが合わないときには、手動でピントを合わせることができます（MF：マニュアルフォーカス）。
マニュアルフォーカスでは、撮影距離を固定して撮影することができます。

メモ

- シーンモードの［文字］の場合は、マニュアルフォーカスは使用できません。
- マニュアルフォーカスでは、マクロモードにしなくても、マクロ撮影が可能な距離の被写体にピントを合わせることができます。
- ［ファンクションボタン設定］で［AF/MF］を設定する（☞P.156）と、Fn（ファンクション）ボタンでオートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替えることができます（☞P.66）。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［MF］を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

- 画面に［MF］が表示されます。
- 画面にフォーカスバーと被写界深度（☞P.90）が表示されます。
- フォーカスバーに表示される距離と被写界深度は、あくまでも目安です。

6 必要に応じて、MENU/OKボタンを長押しする

- MENU/OKボタンを長押しすると、画面中央部のみ拡大表示されます。
- 再度 MENU/OK ボタンを長押しすると、拡大表示から通常表示に戻ります。

7 ▲▼ボタンを押してピントを合わせる

- ▲ボタンを押すと遠距離方向に移動します。▼ボタンを押すと近距離方向に移動します。

8 シャッターボタンを押して撮影する

測光モードを変える（測光）

露出値を決めるときの測光モード（どの範囲で測光するか）を変更することができます。
測光モードには、次の3種類があります。

選択できるモードの種類

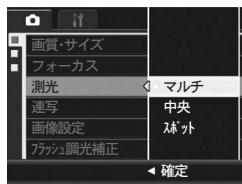
マーク	モード	内容
（マーク表示なし）	マルチ	撮影範囲全体を256に分割して、それぞれで測光して総合的に判断します。
[中央マーク]	中央	中央部分に重点を置きつつ、全体を測光して判断します。 中央と周辺の明るさが異なるときに使います。
[スポットマーク]	スポット	中央部分のみで測光して判断します。 中央の明るさに強制的に合わせたいときに使います。逆光やコントラストの差が著しいときなどに役立ちます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［測光］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

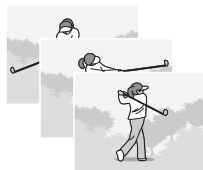
- ［中央］、［スポット］を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

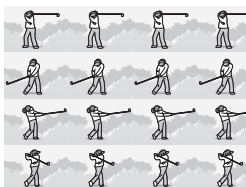
1 いろいろな撮影

連写で撮る（連写／S連写／M連写）

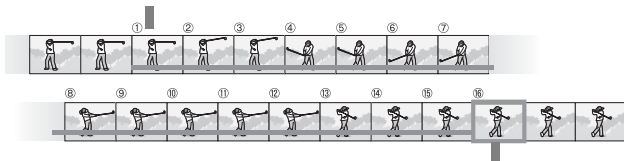
連写に設定すると、連続撮影ができます。
連写には次の3種類があります。

連写

シャッターボタンを押している間､連続撮影ができます。
静止画は通常の撮影時と同じように、1枚ずつ記録します。

S（ストリーム）連写

シャッターボタンを押しきった瞬間から撮影間隔1/7.5秒で16枚（約2秒間）連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして､1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

M（メモリー逆戻り）連写

シャッターボタンを離した瞬間からさかのぼった約2秒を連続撮影します。
16枚の静止画を1組にして、1つの画像ファイル（3648×2736ピクセル）として記録します。

②約2秒間さかのぼって記録

①ここでシャッターを離すと・・・

注意

- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、使用できません。
- S連写/M連写のときは、セットアップメニューの [デジタルズーム切替] を [オートリサイズ] に設定していても、デジタルズームが有効になります。

メモ

- S連写およびM連写中は、撮影画像が表示されません。
- S連写/M連写のときは、ISO感度を [ISO 80]、[ISO 100] に設定しても [AUTO] になります。
- 連写を使って撮影するときの連続記録可能枚数は、画像サイズにより異なります。
- 内蔵メモリーを使用した場合の連続記録可能枚数は、下記の表のとおりです。

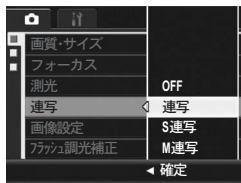
画像サイズ	連続記録可能枚数
3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264×2448、2592×1944、2048×1536	4枚
1280×960、640×480	10枚

1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して [連写] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[連写]、[S連写]、[M連写] のいずれかを選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

1

いろいろな撮影

連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

7 シャッターボタンを離して連写を終了する

- 連写で撮影した静止画を再生するには、再生モードにして（☞P.45）、◀▶ボタンで再生したい静止画を選択します。

S連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押す

- 自動的に16枚連続して撮影されます。

M連写のとき

6 構図を決めて、シャッターボタンを押したままにする

- カメラが被写体を記憶（メモリー）します。

7 シャッターボタンを離す

- 連写が終了し、直前の約2秒間（16枚）を1枚の静止画として記録します。

メモ--

- 通常の1枚ごとの撮影に戻したいときには、手順1～3を行い、手順4で［OFF］を選択してMENU/OKボタンを押します。
- M連写では、シャッターボタンを押しはじめてから、2秒以内にシャッターボタンを離した場合は、シャッターボタンを押してから離すまでが撮影記録され、連続撮影枚数は16枚より少なくなります。
- フラッシュは、発光禁止になります。
- 連写時は、フォーカスと露出値が固定されます。
- ［CARD連続NO.］を［ON］に設定している場合（☞P.178）、連写撮影中にファイル番号の下4桁が「9999」を超えると、SDメモリーカード内に別フォルダが作成されて連写が継続されます。

S連写／M連写した静止画を拡大して見る

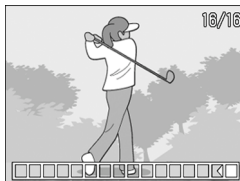
S連写、M連写で撮影した静止画（16枚1組になった画像ファイル）を表示している際、16枚の中の1枚（コマ）を拡大表示することができます。拡大表示後は、1コマずつコマ送りすることもできます。
S連写、M連写で撮影した1コマを拡大表示して見るには、次のように操作します。

1 **▶（再生）ボタンを押す**

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 **◀▶ボタンを使ってS連写またはM連写で撮影した静止画を表示する**

3 **Q（拡大表示）ボタンを押す**

- 連写した先頭の1コマが拡大表示されます。画像モニターの下部にはコマ位置を示すバーが表示されます。
- ◀▶ ボタンを押すと、コマを移動することができます。16枚の表示に戻すには、MENU/OKボタンを押します。

メモ---

DISP.ボタンを押すたびに、画像モニター下部のバーの表示、グリッドガイド表示、表示なしを切り替えることができます。（☞P.54）

画質と色を設定する（画像設定）

コントラスト、シャープネス、色、色の濃さなど画像の画質を変更できます。
画質は、以下の7種類から選択できます。

選択できる画像設定の種類

種類	内容
硬調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを高めにすることによって、硬い感じの画質にします。
普通	通常の画質です。
軟調	コントラスト、シャープネス、色の濃さを低めにすることによって、軟らかい感じの画質にします。
白黒	白黒の画像です。［コントラスト］、［シャープネス］をそれぞれ5段階から選択できます。
白黒(TE)*	白黒画像に色味をつけることができます。［調色］、［色の濃さ］、［コントラスト］、［シャープネス］をそれぞれ5段階から選択できます。［調色］は、［セピア］、［アカ］、［ミドリ］、［アオ］、［ムラサキ］から選択できます。
設定1 設定2	［コントラスト］、［シャープネス］、［色の濃さ］を5段階から選択できます。

* Toning effect

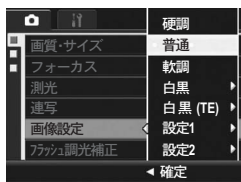
1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、画質を選ぶ

- ［白黒］、［白黒(TE)］、［設定1］、［設定2］の場合は、値を設定します。（☞P.99、100、101）
  すでに値を設定している場合は、［白黒］、［白黒(TE)］、［設定1］、［設定2］のいずれかを選択するだけで、画質が設定できます。

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- ［普通］以外を選択した場合は、画面にマークが表示されます。

白黒の画質を設定する（白黒）

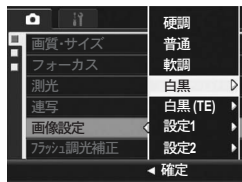
1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、［白黒］を選び、▶ボタンを押す

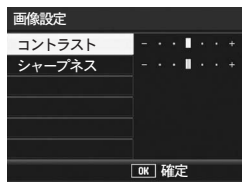
- ［画像設定］画面が表示されます。

5 ▲▼ ボタンを押して、［コントラスト］、［シャープネス］を選び、◀▶ボタンを押して値を設定する

6 MENU/OKボタンを押す

- ［白黒］の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

7 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ--

［ファンクションボタン設定］で［カラー→白黒］を設定する（☞P.156）と、Fn（ファンクション）ボタンでカラーと白黒を切り替えることができます。（☞P.66）

白黒画像に色味をつける（白黒(TE)）

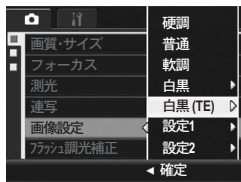
1 モードダイヤルを■/P/A/M/SCENEに合わせる

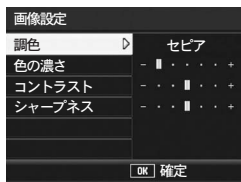
2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[白黒(TE)]を選び、▶ボタンを押す

- ［画像設定］画面が表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して［調色］を選び、▶ボタンを押す

6 ▲▼ ボタンを押して［セピア］、[アカ]、［ミドリ］、［アオ］、［ムラサキ］から色味を選び、MENU/OKボタンまたは◀ボタンを押す

7 ▲▼ ボタンを押して、［コントラスト］、［シャープネス］を選び、◀▶ボタンを押して値を設定する

8 MENU/OKボタンを押す

- ［白黒(TE)］の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

9 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

1
いろいろな撮影

メモ--

[ファンクションボタン設定] で [カラー→TE] を設定する (☞P.156) と、Fn（ファンクション）ボタンでカラーと白黒(TE)を切り替えることができます。(☞P.66)

オリジナルの画質を設定する（設定1、2）

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［画像設定］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[設定1] または［設定2］を選ぶ

5 ▶ボタンを押す

- ［画像設定］画面が表示されます。

6 ▲▼ ボタンを押して、[コントラスト]、[シャープネス]、[色の濃さ］を選び、◀▶ボタンを押してそれぞれの値を設定する

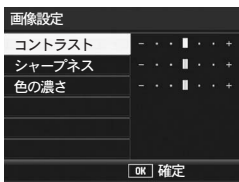
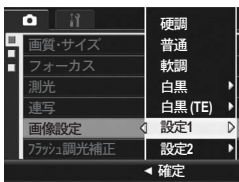
7 MENU/OKボタンを押す

- ［設定1］または［設定2］の設定が完了し、撮影設定メニューに戻ります。

8 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OK ボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

1

いろいろな撮影

フラッシュの光量を調整する（フラッシュ調光補正）

フラッシュの光量を調整することができます。光量は、-2.0EV～+2.0EVの間で、1/3EV間隔で設定できます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

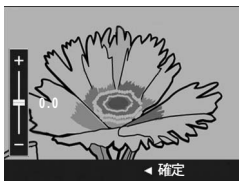
2 MENU/OKボタンを押す

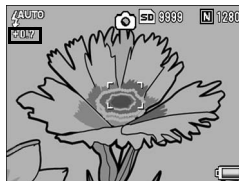
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［フラッシュ調光補正］を選び、▶ボタンを押す

- フラッシュ調光補正バーが表示されます。

	撮影設定
画質・サイズ	N3648（10M）
フォーカス	マルチAF
測光	マルチ
連写	OFF
画像設定	普通
フラッシュ調光補正	0.0
MENU 終了	▶ 選択

4 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

5 MENU/OKボタンを押す

- フラッシュが［発行禁止］以外の場合、画面に設定値が表示されます。

メモ---

フラッシュを使用して撮影する場合の操作方法は、P.42を参照してください。

注意---

フラッシュの撮影距離範囲外（☞P.42）では補正されない場合があります。

露出を変化させて連続撮影する（オートブラケット）

オートブラケットは、設定されている露出を基準に3段階の露出で、自動的に3枚連続して撮影する機能です。露出差は「-0.3EV、±0、+0.3EV」と「-0.5EV、±0、+0.5EV」の2種類から選ぶことができます。

メモ---

［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。

1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

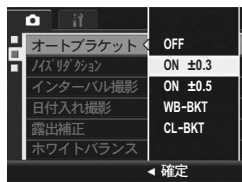
3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［ON ±0.3］または［ON ±0.5］を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- 右は［ON±0.3］を選択したときの画面です。
  設定されている露出補正値を基準に、-0.3EV、±0、+0.3EVで3枚連続撮影されます。
  撮影直後に画像モニターに表示される3枚の静止画は、左から-0.3EV（暗い）、基準の補正値、+0.3EV（明るい）です。

メモ

- 露出補正値は、撮影設定メニューで変更できます。(☞P.113)
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- オートブラケットでは、露出補正以外にホワイトバランスまたは色を変更して撮影することもできます。選択できるのは、ひとつだけです。

ホワイトバランスを変化させて連続撮影する（WB-BKT：ホワイトバランスブラケット）

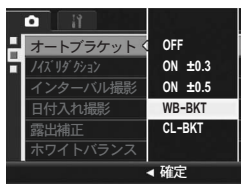
設定されているホワイトバランスの値よりも、赤みがかった画像、青みがかった画像、現在の設定値の画像の3枚が自動的に記録されます。
適切なホワイトバランスが判断できない場合に使用すると便利です。

1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

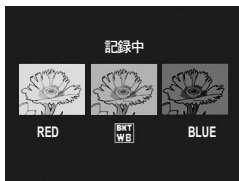
3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、[WB-BKT]を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- 設定されているホワイトバランス値を基準に、赤みがかった画像、現在の設定値の画像、青みがかった画像で3枚記録されます。

メモ

- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- ［画像設定］を［白黒］に設定している場合、ホワイトバランスブラケットは、設定することはできますが動作しません。
- ホワイトバランスは、撮影設定メニューで変更できます。（☞P.114）

色を変えて連続撮影する（CL-BKT：カラーブラケット）

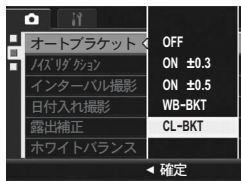
［CL-BKT］を選択して静止画を撮影すると、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚、または白黒、カラーの2枚の画像を自動的に記録します。あらかじめセットアップメニューの［CL-BKT 白黒(TE)］で、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録するか、白黒、カラーの2枚の画像を記録するかを設定しておきます（☞P.173）。

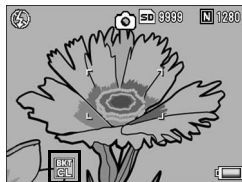
1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［オートブラケット］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［CL-BKT］を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

6 シャッターボタンを押して撮影する

- ［CL-BKT 白黒(TE)］を［ON］に設定している場合（☞P.173）は、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。

- ［CL-BKT 白黒(TE)］を［OFF］に設定している場合（☞P.173）は、白黒、カラーの2枚の画像を記録します。

※ 撮影設定メニューの［画像設定］で［白黒(TE)］を選択しているときは、［CL-BKT 白黒(TE)］を［OFF］に設定していても、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。

メモ

- ［画質・サイズ］がRAWモードのときは、使用できません。
- 連写を設定している場合は使用できません。
- フラッシュは発光禁止になります。
- 色は、撮影設定メニューでも変更できます。（☞P.98）

カラーブラケット撮影でのコントラスト、シャープネス、色の濃さについて

カラーブラケット撮影で記録されるカラー、白黒、白黒(TE)の画像には、［画像設定］で選択している項目の［コントラスト］、［シャープネス］の値がそれぞれ反映されます。［色の濃さ］の値は、［画像設定］でカラー画像を選択している場合はカラー画像にのみ、［白黒(TE)］を選択している場合は白黒(TE)画像にのみ反映されます。［白黒］を選択している場合は、カラー画像の［色の濃さ］は中心値、白黒(TE)画像の［色の濃さ］は［白黒(TE)］で設定した値になります。
(例)

- ［画像設定］で［設定 1］を選択し、カラーブラケット撮影を行った場合：
  ［設定1］で設定した［シャープネス］と［コントラスト］の値は、カラー、白黒、白黒(TE)の画像にそれぞれ反映されます。［色の濃さ］の値は、カラー画像にのみ反映されます。
- ［画像設定］で［白黒(TE)］を選択し、カラーブラケット撮影を行った場合：
  ［白黒(TE)］で設定した［コントラスト］と［シャープネス］の値は、カラー、白黒、白黒(TE)の画像にそれぞれ反映されます。［色の濃さ］の値は、白黒(TE)の画像にのみ反映されます。カラーの画像では［色の濃さ］は中心値となります。

ノイズを軽減する（ノイズリダクション）

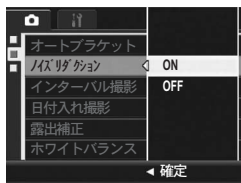
静止画の撮影時に、画像のノイズ軽減処理を行います。

1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

• 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［ノイズリダクション］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

• 画面にマークが表示されます。

メモ---

• シーンモードでは設定できません。
• ［画質・サイズ］をRAWモードに設定して撮影した場合、DNGファイルに対してはノイズ軽減処理を行いません。DNGファイルと同時記録されるJPEGファイルに対してのみ、ノイズ軽減処理を行います。

一定間隔で自動撮影する（インターバル撮影）

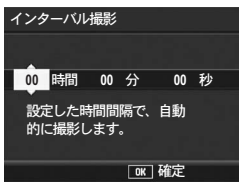
設定した時間間隔で、自動的に撮影することができます。
撮影間隔は、5秒～3時間の間で5秒単位で設定できます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/Mに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す
- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して［インターバル撮影］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ボタンを押して時間を設定する

5 ▶ボタンを押して分の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、分を設定する
- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で分の数値を増減させることができます。

6 ▶ボタンを押して秒の設定へ移動し、▲▼ボタンを押して、秒を設定する

7 MENU/OKボタンを押す
- 画面に［インターバル］と表示されます。

8 シャッターボタンを押して撮影する
- 設定した間隔で、次々に撮影されます。

9 撮影を中止するときには、MENU/OKボタンを押す

1
いろいろな撮影

注意

- インターバル撮影の設定は、電源をオフにすると解除されます。
- 撮影の設定によって次の撮影が可能となるまでの時間が、インターバル撮影で設定した時間よりも長くなることがあります。その場合、設定した時間よりも撮影間隔が長くなります。
- シーンモードでは、インターバル撮影はできません。

メモ

- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。充分に残量のある電池またはACアダプター（別売り）の使用をお勧めします。
- インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。ただし、インターバル撮影モードはそのまま保持されます。最後の撮影の後、インターバル撮影で設定した時間が経過すると次の撮影が行われます。
- インターバル撮影を設定すると、連写が［連写］または［M連写］に設定されていても、自動的に［OFF］に切り替わります。
- 充分に空き容量のある SD メモリーカードまたは高速メモリカードのご使用をお勧めします。

静止画に日付を入れるには（日付入れ撮影）

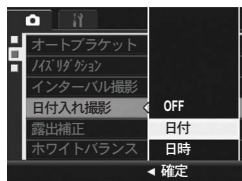
静止画の右下に日付（年／月／日）または日時（年／月／日時：分）を入れることができます。

1 モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[日付入れ撮影] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、[日付] または [日時] を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

 メモ

- 日付・時刻が設定されていないと [日付入れ撮影] はできません。まず、日付・時刻を設定してください。（☞P.180）
- 動画に日付を入れることはできません。
- RAWモードで撮影した場合、DNGファイルに日付を入れることはできません。DNGファイルと同時記録されるJPEGファイルには、日付が入ります。
- 画像に入れた日付を削除することはできません。

1 いろいろな撮影

露出を変える（露出補正）

静止画の写りを全体的に明るくしたり、暗くしたりするのが露出の設定です。通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動的に逆光補正を行い、適切な露出で撮影できます。
次のような場合や、意図的に露出を変えて撮影をしたいときは、露出を変更して撮影することができます。露出は、-2.0EV～+2.0EVの間で設定できます。露出は、+になるほど明るくなり、-になるほど暗くなります。

逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体が暗く（露出アンダー）なってしまうことがありますので、＋側に調整します。

白っぽい被写体を写す場合

全体的に暗くなる（露出アンダー）ため、＋側に調整します。

黒っぽい被写体を写す場合

全体的に明るくなる（露出オーバー）ため、－側に調整します。
スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。（☞P.62）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.85）を参照して操作してください。

1. モードダイヤルを 📷/P/A/SCENE に合わせて、ADJ. レバーを押す
2. 露出補正バーが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す
3. ▲▼ボタンを押して、値を設定する
   - この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。
4. ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す
   - 画面に設定値が表示されます。

注意

- マニュアル露光モードでは使用できません。
- 明るすぎる環境での撮影時などでは、露出オーバーとなり露出補正もできないことがあります。その場合は、[!AE] のマークが表示されます。

自然光や照明光を使う（ホワイトバランス）

白い被写体が白く写るように調整を行います。
購入時、ホワイトバランスモードは［オート］（自動）に設定されています。通常は変更の必要はありませんが、単一色の被写体や、複数の光源下にある被写体を撮影するときなど、ホワイトバランスの調整がうまく合いにくい場合には、設定を変更します。

選択できるモードの種類

マーク	モード	内容
AUTO	オート	自動的に調整します。
	屋外	屋外（晴天）での撮影時
	曇天	曇天や日影等での撮影時
	白熱灯	白熱灯の下での撮影時
	蛍光灯	蛍光灯の下での撮影時
[M]	手動設定	手動設定を行います。☞P.116
[CT]	詳細設定	白熱灯－晴天－曇天の付近を含む16段階から、設定値を選択できます。☞P.117

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。（☞P.62）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.85）を参照して操作してください。

1 モードダイヤルを 📷/P/A/M/SCENE に合わせて、ADJ.レバーを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、［M］、［CT］以外の設定を選ぶ

- この状態でシャッターボタンを押して撮影することもできます。

4 ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ

- 被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
- フラッシュ撮影の場合、［AUTO］以外ではホワイトバランスが合わないことがあります。この場合は、［AUTO］を選択してフラッシュ撮影をしてください。

ホワイトバランスを手動設定する（手動設定）

1 モードダイヤルを 📷/P/A/M/SCENE に合わせて、ADJ.レバーを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、[M] を選ぶ

4 撮影する照明の下で、紙などの白い被写体にカメラを向ける

5 DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスが設定されます。

6 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。
- 手順５で設定したホワイトバランスで画面が再表示されます。思いどおりにならなかった場合は、手順4と5を繰り返すと、何度でも設定変更ができます。

メモ---

手動設定を解除するには、上記の手順3で［M］以外を選択します。

ホワイトバランスを詳細設定する（詳細設定）

1 モードダイヤルを 📷/P/A/M/SCENE に合わせて、ADJ.レバーを押す

2 ホワイトバランスモードのメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、［CT］を選び、DISP.ボタンを押す

- ホワイトバランスの詳細設定画面が表示されます。

4 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

5 MENU/OKボタンを押す

6 MENU/OKボタンを押す

- 画面にマークが表示されます。

メモ--

手動設定を解除するには、上記の手順3で［CT］以外を選択します。

撮影感度を設定する（ISO感度）

ISO感度は、フィルムの光に対する敏感さを表す値です。数字が大きいほど高感度になります。高感度は、暗い場所や動きの速いものを撮影するときに適し、手ブレが起こりにくくなります。
ISO感度は、次の設定から選択できます。
AUTO、AUTO-HI、ISO 80、ISO 100、ISO 200、ISO 400、ISO 800、ISO 1600

ISO感度が［AUTO］の場合には、距離／明るさ／マクロ／画質・サイズによってカメラが自動的に感度を変化させます。通常は、［AUTO］のままで撮影します。
［AUTO-HI］（高感度設定オート）も、撮影の状況に合わせて感度が自動的に設定されますが、［AUTO］よりも感度の上限を高く設定できます。また、暗い被写体等を撮影した場合、シャッタースピードが［AUTO］より速くなるので、手ブレや被写体ブレが起こりにくくなります。［AUTO-HI］のISO感度の上限は、セットアップメニューで設定します。（☞P.155）
ISO感度の値を変化させたくない場合は、［AUTO］、［AUTO-HI］以外を選択します。

設定の変更は、撮影設定メニューまたはADJ.レバーを使って行います。ここでは、手順の簡単なADJ.レバーの操作を説明します。（☞P.62）
撮影設定メニューを使って操作する場合は「メニューの操作方法」（☞P.85）を参照して操作してください。

1 **モードダイヤルを📷/P/A/M/SCENEに合わせて、ADJ.レバーを押す**

2 **ISO感度のメニューが表示されるまで、ADJ.レバーを左右にたおすか、◀▶ボタンを押す**

3 **▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ**

4 **ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押す**

- 画面に設定値が表示されます。

- ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。
- ISO感度を［AUTO］に設定しているときにフラッシュを使用すると、ISO125相当の感度になります。
- ISO感度を［AUTO］に設定し、フラッシュを使用しない場合のISO感度の範囲は下表のとおりです。

画素数	定常感度	最小感度	最大感度
640	100	80	283
1280	100	80	238
2048	100	80	176
2592	100	80	154
3264	100	80	154
3648	100	80	154

撮影設定メニューの設定を元に戻す（撮影設定初期化）

撮影設定メニューの設定を初期値に戻すには、次のように操作します。

1 モードダイヤルを📷に合わせる

2 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して［撮影設定初期化］を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ［はい］が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- 初期化中のメッセージが表示され、完了すると撮影モードの画面に戻ります。

メモ---

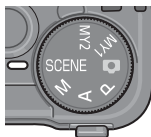
電源をオフにしても設定値が保持される機能については、P.220を参照してください。

1 いろいろな撮影

🎥動画を撮影する

音声付き動画を撮影できます。
画像サイズは、640×480、320×240のいずれかが選択できます。
また、1秒間に撮影するフレーム数（フレームレート）は、30フレームまたは15フレームから選択できます。
撮影した動画は、1つのAVIファイルとして記録されます。

1 モードダイヤルをSCENEに合わせる

- 撮影できる状態になり、選択されているシーンモードの種類が画像モニター上部に表示されます。

2 MODEボタンを押す

- シーンモード選択画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して🎥［動画］を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

5 シャッターボタンを押して動画撮影を開始する

- 次にシャッターボタンを押すまで撮影されます。

6 シャッターボタンを押して動画撮影を終了する

注意

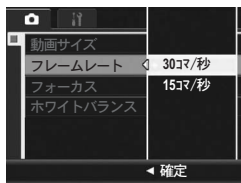
- 動画撮影中に操作音が記録されることがあります。
- 1回あたりの撮影可能時間は、ご使用のカードにより異なります。（☞P.123）また撮影可能時間内でも、ご使用のカードによっては、撮影を終了する場合があります。
- 1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

メモ

- フラッシュは発光禁止になります。
- 手順5でシャッターボタンを押した時点で、ピント合わせが行われます。
- 残り記録時間は、動画記録中にメモリーの残容量から再計算されるため、一様に変化しないことがあります。
- 動画の画像サイズやフレーム数は、撮影設定メニューで設定します。
- 動画モード時には、撮影設定メニュー項目が異なります。(☞P.84)
- 電池残量によっては、途中で電池切れになることがあります。長時間撮影される場合は、充分に残量のある電池またはACアダプター (別売り) のご使用をお勧めします。
- 長時間撮影される場合は、充分に空き容量のあるSD メモリーカードまたは高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

フレーム数を設定する（フレームレート）

動画モードで1秒間に撮影されるフレーム数（フレームレート）を設定します。

1. シーンモードで［動画］を選ぶ
2. MENU/OKボタンを押す
   - 撮影設定メニューが表示されます。
3. ▼ボタンを押して［フレームレート］を選び、▶ボタンを押す
4. ▲▼ボタンを押して、[30コマ／秒] または [15コマ／秒] を選ぶ
5. MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す
   - 画面に設定値が表示されます。

動画のフレーム

動画のフレームはコマともいいます。動画はたくさんのフレームで構成され、それらが高速で表示されるために動いているように見えます。

- 動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたは SD メモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 記録可能時間の合計の目安は、以下のとおりです。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。

	内蔵	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
640×480（15コマ／秒）	1分22秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒
640×480（30コマ／秒）	41秒	3分5秒	6分14秒	11分59秒	24分23秒	50分10秒	97分55秒
320×240（15コマ／秒）	2分40秒	11分57秒	24分5秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒
320×240（30コマ／秒）	1分22秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒

動画を再生する

動画を再生するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。
- 動画の場合には、最初の1フレームが静止画像で表示されます。

2 ◀▶ボタンで見たい動画にする

- ▶ボタンを押すと、次のファイルを表示できます。
- ◀ ボタンを押すと、1 つ前のファイルを表示できます。
- ▲ボタンを押すと、10 コマ前のファイルを表示します。
- ▼ボタンを押すと、10 コマ後ろのファイルを表示します。

3 ADJ.レバーを押す

- 再生が始まります。
画像モニターに、再生経過を示すインジケーターや経過時間が表示されます。

早送り	再生中に🔍ボタンを押す
巻き戻し	再生中に▦ボタンを押す
一時停止／再生	ADJ.レバーを押す
スロー再生	一時停止中に🔍ボタンを押し続ける
スロー戻し	一時停止中に▦ボタンを押し続ける
次のフレームの表示	一時停止中に🔍ボタンを押す
前のフレームの表示	一時停止中に▦ボタンを押す
音量を調節する	再生中に▲▼ボタンを押す

再生設定メニューについて

再生モードでMENU/OKボタンを押すと、再生設定メニューが表示されます。再生設定メニューを使うと、次の項目の機能が設定できます。

設定項目	選択肢	参照先
スライドショー	――――――	P.126
プロテクト	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.127
DPOF	1ファイル選択・解除、全ファイル選択・解除、複数ファイル選択	P.130
画像サイズ変更	1280、640	P.133
CARDへコピー	――――――	P.135
斜め補正	――――――	P.136

メモ

再生設定メニューからセットアップメニューを表示することができます。（☞P.147）

メニューの操作方法

各設定項目の設定方法について説明します。

1 ▶（再生）ボタンを押して、再生モードにする

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

4 ▶ボタンを押す

- 各設定項目の画面が表示されます。

自動的に順に表示する（スライドショー）

撮影した静止画や動画を、順番に画像モニターに表示することができます。この機能をスライドショーと呼びます。スライドショーで見るには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[スライドショー]を選び、▶ボタンを押す

- スライドショーが開始され、ファイルが順に再生されます。
- 途中で中止したいときには、カメラのいずれかのボタンを押します。
  中止するまで、繰り返しスライドショーが続きます。

メモ

- 静止画は3秒間表示されます。
- 動画は1フレームだけではなく、撮影した内容がすべて表示されます。

削除できないように設定する（プロテクト）

記録したファイルを誤って削除してしまわないように、保護する（プロテクトする）ことができます。

注意--

プロテクトしたファイルは、削除することはできませんが、初期化を行うとプロテクト設定の有無にかかわらず、すべて消去されます。

1ファイルをプロテクトする

1 ▶（再生）ボタンを押す

- 最後に撮ったファイルが表示されます。

2 ◀▶ボタンを押してプロテクトしたいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

5 [1ファイル]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ--

プロテクトを解除するには、解除したいファイルを表示して手順3～5を行います。

すべてのファイルをプロテクトする

すべてのファイルにプロテクトを設定するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

3 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、[全ファイル]を選ぶ

5 [選択]が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す

- プロテクトが設定され、画面にマークが表示されます。

メモ

すべてのプロテクトを解除するには、手順5で[解除]を選択します。

複数のファイルを一度にプロテクトする

選択したファイルに対して、一度にプロテクトの設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▦（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、プロテクトしたい1枚目のファイルを選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ボタンを押して、[プロテクト]を選び、▶ボタンを押す

- ファイルの右上にプロテクト設定のマークが表示されます。

6 ▲▼◀▶ボタンを押して、次にプロテクトの設定をしたいファイルを選び、MENU/OKボタンを押す

7 手順6を繰り返して、プロテクトの設定をしたいファイルをすべて選択する

- 間違えた場合は、そのファイルを選択した状態でMENU/OKボタンを再度押すとプロテクトを解除できます。

8 DISP.ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ---

- 複数のファイルのプロテクトを解除するには、上記の手順で、解除したいファイルを選択してDISP.ボタンを押します。
- 一度にすべてのプロテクトを解除することもできます。（☞P.128）
- 一覧表示の詳細については、P.47をご覧ください。

プリントサービスを利用する（DPOF：ディーポフ）

SDメモリーカードに記録した静止画は、デジタルカメラプリントサービス取り扱い店にお持ちいただくと、プリントすることができます。プリントサービスを利用するには、プリントに必要な情報を設定する必要があります。その設定をDPOF（ディーポフ）設定と呼びます。
DPOF設定を行うと、1静止画につき1枚印刷するという情報が設定されます。一覧表示でDPOF設定を行うと、印刷枚数を指定することもできます。（☞P.132）

メモ
RAWモードで撮影した画像は、JPEGファイルにのみDPOF設定されます。

表示している静止画にDPOF設定する

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを押して設定したい静止画を表示する

3 MENU/OKボタンを押す
- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、［DPOF］を選び、▶ボタンを押す

5 ［1ファイル］が選ばれていることを確認して、MENU/OK ボタンを押す
- DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

DPOF設定を解除するには、解除したいファイルを表示して手順3〜5を行います。

すべての静止画にDPOF設定する

すべての静止画に対してDPOF設定をするには、次のように操作します。

1. **▶（再生）ボタンを押す**
2. **MENU/OKボタンを押す**
   - 再生設定メニューが表示されます。
3. **▼ ボタンを押して、[DPOF］を選び、▶ボタンを押す**

4. **▲▼ ボタンを押して、[全ファイル］を選ぶ**
5. **[選択］が選ばれていることを確認して、MENU/OKボタンを押す**
   - DPOF設定が行われ、画面にDPOF設定を示すマークが表示されます。

メモ

すべてのDPOF設定を解除するには、手順5で［解除］を選択します。

複数の静止画にDPOF設定する

選択した静止画に対して、一度にDPOF設定を行うには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ▦（サムネイル表示）ボタンを2回押す

- 画面が12分割されて、ファイルが一覧表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、DPOF設定したい1枚目の静止画を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

5 ▼ ボタンを押して、［DPOF］を選び、▶ボタンを押す

6 ▲▼ ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して、次にDPOF設定をしたい静止画を選ぶ

8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

9 手順7～8を繰り返して、DPOF設定をしたい静止画をすべて選択する

10 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、設定が完了すると、一覧の画面に戻ります。

メモ

- 複数のファイルのDPOF設定を解除するには、上記の手順で、解除したいファイルの印刷枚数を［0］に指定してMENU/OKボタンを押します。
- 一度にすべてのDPOF設定を解除することもできます。（☞P.131）

画像サイズを縮小する（画像サイズ変更）

撮影した静止画の画像サイズを縮小して、画像サイズの異なるファイルを追加作成できます。

元のサイズ	変更可能なサイズ	
F3648／N3648／F3:2／N3:2／F1:1／N1:1／N3264／N2592／N2048	N1280	N640
N1280	N640	

注意

- 画像サイズ変更ができるのは、静止画のみです。動画は、画像サイズ変更できません。
- RAWモードで撮影した画像は、画像サイズ変更ができません。

メモ

- ［F3:2］、［N3:2］の画像は、横と縦の比率が3:2です。この画像をリサイズした場合、上下に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- ［F1:1］、［N1:1］の画像は、横と縦の比率が同じです。この画像をリサイズした場合、左右に黒い帯部分を付加した4:3の比率の画像にして縮小されます。
- 撮影時に画像サイズを変更することができます。（☞P.86）

画像サイズを変更するには、次のように操作します。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ ボタンを押して画像サイズを変更したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、［画像サイズ変更］を選び、▶ボタンを押す

3 いろいろな再生

5 ▲▼ボタンを押して、[1280] または [640] を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、画像サイズ変更後の画像が記録されます。変更前の画像も残ります。

内蔵メモリーの内容をカードへコピーする（CARDへコピー）

内蔵メモリーの内容をSDメモリーカードへコピーすることができます。

1 電源をオフにする

2 SDメモリーカードをセットする

3 電源をオンにする

4 ▶（再生）ボタンを押す

5 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

6 ▼ボタンを押して、[CARDへコピー] を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、コピーが完了すると、再生画面に戻ります。

メモ

- コピー先のSDメモリーカードの容量が足りない場合には、容量不足を示すメッセージが表示されます。容量に収まる枚数だけコピーする場合は、[はい] を選んでMENU/OKボタンを押してください。コピーを取り消す場合は、[いいえ] を選んでMENU/OKボタンを押してください。
- SDメモリーカードから内蔵メモリーへのコピーはできません。

斜めから撮影した画像を補正する（斜め補正）

斜め方向から撮影した掲示板や名刺などの四角い被写体を、正面から撮影したような画像に変換することができます。

1 ▶（再生）ボタンを押す

2 ◀▶ボタンを押して、斜め補正したいファイルを表示する

3 MENU/OKボタンを押す

- 再生設定メニューが表示されます。

4 ▼ ボタンを押して、[斜め補正]を選び、▶ボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、補正対象として認識したエリアがオレンジ枠で表示されます。最大5つのエリアが認識できます。
- エリアが検出できなかった場合は、エラーメッセージが表示されます。変換前の画像は記録されたまま残ります。
- 別の補正エリアを選択する場合は、▶ボタンを押して目的のエリアまでオレンジ色の枠を移動します。
- 変換をキャンセルする場合は、▲ボタンを押します。変換をキャンセルした場合、変換前の画像は記録されたまま残ります。

5 MENU/OKボタンを押す

- 処理中のメッセージが表示され、変換後の画像が記録されます。変換前の画像も残ります。

注意

- 斜め補正できるのは、本カメラで撮影した静止画です。
- 動画、S連写、M連写で撮影した画像は、斜め補正することはできません。
- RAW モード（☞P.86）で撮影した画像は、同時記録された JPEG ファイルが斜め補正されます。DNGファイルは斜め補正されません。

メモ

- 斜め補正しても、画像サイズは変わりません。
- 画像サイズが大きい場合は、補正処理に時間がかかります。斜め補正の前に画像をリサイズしておくと（☞P.133）、処理速度を早くすることができます。
- 斜め補正処理にかかる時間の目安は、下記のとおりです。

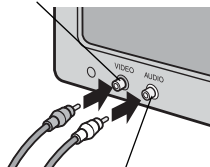
画像サイズ	補正時間
3648×2736	約46秒
3264×2448	約36秒
2592×1944	約24秒
2048×1536	約14秒
1280×960	約6秒
640×480	約2秒

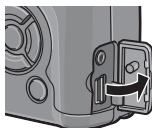
- 撮影時にシーンモードの［斜め補正］を選択すると、撮影直後の画像を斜め補正することができます。（☞P.81）

テレビの画面で見る

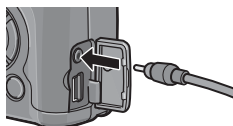
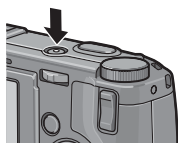
撮影したファイルを、テレビの画面に表示して見ることができます。テレビの画面には画像モニターと同じ内容が表示されます。テレビの画面に表示するには、カメラに付属しているAVケーブルを使ってカメラとテレビを接続します。ファイルをテレビで見るには、次のように操作します。

1 テレビのビデオ入力端子にAVケーブルをしっかり接続する

- AV ケーブルの白色のプラグをテレビの音声入力端子（白色）に、黄色のプラグをテレビの映像入力端子（黄色）に差し込んでください。

2 カメラの電源がオフになっていることを確認する

3 端子カバーを開ける

4 AV出力端子にAVケーブルをしっかり接続する

5 テレビを「ビデオ」が表示できる状態にする（入力モードを「ビデオ」にする）

- 詳しくはテレビの説明書を参照してください。

6 POWER（電源）ボタンを押す、または▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けて、電源をオンにする

注意

- AVケーブルで本機を接続している間は画像モニターの表示はオフ（消えた状態）になり、スピーカーの音が消えます。
- AVケーブルは無理に差し込まないでください。
- AVケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- AVケーブルの使用中は、AVケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

- ビデオのビデオ入力端子にAVケーブルを接続して、撮影した内容をビデオに録画することもできます。
- テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。（☞P.182）
  購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

ダイレクトプリント機能について

ダイレクトプリント機能は、カメラとプリンターを直接USBケーブルで接続して、カメラ内の静止画をプリンターから印刷する機能です。撮影した静止画を、パソコンを使わずに手軽に印刷できます。

注意

- 動画（.AVI）は、印刷できません。
- RAWモードで撮影した画像は、同時記録されたJPEGファイルが印刷されます。DNGファイルは印刷できません。

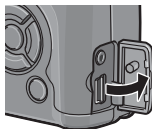
メモ

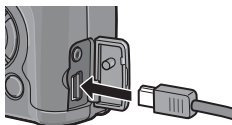
- 本カメラでは、ダイレクトプリントの統一規格であるPictBridge（ピクトブリッジ）を採用しています。
- ダイレクトプリント機能を使うには、プリンターが PictBridge に対応している必要があります。ご使用のプリンターの説明書でご確認ください。

カメラとプリンターを接続する

カメラとプリンターの接続には、付属のUSBケーブルを使います。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 端子カバーを開ける

3 付属の専用 USB ケーブルでカメラとプリンターを接続する

- 自動的にカメラの電源がオンになります。
- プリンターの電源がオフのときは、電源をオンにしてください。

注意--

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ--

カメラとプリンターの接続を外すときは、印刷終了後にカメラの電源がオフになったことを確認してからUSBケーブルを外してください。

静止画を印刷する

PictBridge対応プリンターでカメラの静止画を印刷します。
SDメモリーカードをセットしていないときには、内蔵メモリー内の静止画が印刷され、SDメモリーカードをセットしているときにはSDメモリーカード内の静止画が印刷されます。

注意

印刷が完了するまで、USBケーブルを外さないでください。

メモ

送信中に［プリンターエラー］のメッセージが表示された場合は、プリンターの状態を確認し、印刷できる状態になるように対処してください。

1枚またはすべての静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ.レバーを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンで、印刷したい静止画を表示する

4 ADJ.レバーを押す

5 ▲▼ ボタンを押して、［1ファイル］または［全ファイル］を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

4 ダイレクトプリントで印刷する

7 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- [接続中・・・] と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると[接続中･･･]が消え、[ダイレクトプリント] と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目は次のとおりです。各項目に対応しているプリンターと接続しているときのみ有効です。

項目名	内容
用紙サイズ	用紙のサイズを設定します。
用紙種類	用紙の種類を設定します。
レイアウト	1枚に何コマ印刷するかを設定します。1枚にレイアウトできるコマ数は、接続するプリンターによって異なります。
日付印字	日付（撮影日）の印字の有無を設定します。日付の書式は、セットアップモードの日時設定で設定した書式になります。
ファイル名印字	ファイル名を印刷するかどうかを設定します。
印刷補正	画像データ（静止画）をプリンター側で最適化して印刷するかどうかを設定します。
画像印刷サイズ	印刷する画像のサイズを設定します。
印刷品質	印刷品質を設定します。
帳票印刷※	帳票印刷を行います。
印刷部数	印刷部数を設定します。
トナーセーブ※	印刷を薄めにして、トナーを節約するかどうかを設定します。
片面／両面※	両面で印刷するかどうかを設定します。[両面] に設定すると、両面で印刷されます。両面印刷をする場合は、各静止画の印刷枚数は1枚となります。P.144の手順6で印刷枚数を複数枚設定しても、1枚のみ印刷されます。

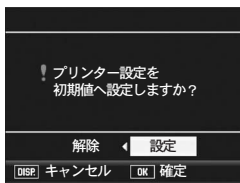
※各項目に対応しているリコープリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。

8 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

9 手順7と8を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

メモ

- 手順7の画面でADJ.レバーを押すと、設定した項目を次回接続時の初期値として設定することができます。右の画面が出たら、◀▶ボタンを押して［設定］を選び、MENU/OKボタンを押してください。
- ［解除］を選ぶと、次回接続時の各項目の設定は、最後に設定した値になります。

10 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、［送信中］画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- 送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻り、プリンターで印刷が開始されます。

複数の静止画を印刷する

1 プリンターが印刷できる状態であることを確認する

- ［接続待ち...］画面が表示されます。

2 ADJ.レバーを押す

- ダイレクトプリント再生モードの画面が表示されます。

3 ⊞（サムネイル表示）ボタンを押す

- 画面が12分割されて、静止画が一覧表示されます。

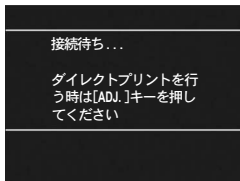
4 ▲▼◀▶ ボタンを押して、印刷したい静止画を選ぶ

5 MENU/OKボタンを押す

6 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

- ▲ボタンを押すと枚数が増え、▼ボタンを押すと枚数が減ります。

7 ◀▶ボタンを押して次に印刷したい静止画を選ぶ

8 ▲▼ボタンを押して印刷枚数を指定する

9 手順7と8を繰り返して、印刷したい静止画をすべて選択して、印刷枚数を指定する

10 MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューが表示されます。

11 ▲▼ボタンで項目を選び、▶ボタンで詳細項目を表示する

- [接続中・・・]と表示されている間は、プリンターとの接続が完了していません。接続が完了すると「接続中・・・」が消え、[ダイレクトプリント]と表示されます。接続が完了してから、操作を行ってください。
- 選択できる項目については、P.143をご覧ください。

12 ▲▼ボタンで詳細項目を選び、MENU/OKボタンを押す

- ダイレクトプリントのメニューに戻ります。

13 手順11と12を繰り返して、変更したい項目の値を設定する

14 MENU/OKボタンを押す

- 静止画がプリンターに送られ、[送信中]画面が表示されます。
- 送信を中断したい場合には、DISP.ボタンを押してください。
- すべての静止画の送信が完了すると、カメラはダイレクトプリント再生モードの画面に戻ります。

メモ

- プリンターのマーク（🖨）が表示されている画像が印刷されます。印刷を中止した場合はプリンターのマークの表示を確認してください。
- 1枚の用紙に、同じ静止画を複数枚印刷することもできます。
- 選択できる項目はプリンター側の機能により異なります。
- 詳細項目で［プリンター指定］を選ぶと、プリンター側の設定値（初期値）で印刷されます。

帳票印刷する

ダイレクトプリントのメニューで[帳票印刷]を設定してください。[帳票印刷]は、[用紙サイズ]を[A4]に設定し、PictBridgeに対応しているリコーのプリンターと接続しているときのみ有効です。リコーのプリンターについての最新情報は、弊社ホームページ（http://www.ricoh.co.jp/office/）をご覧ください。
選択できるレイアウトは、接続するプリンターによって異なります。レイアウトはプリンターの取扱説明書をご覧ください。

選択できるレイアウト例

1コマ罫線あり	2コマ罫線あり	3コマ罫線あり	4コマ罫線あり
1コマ罫線なし	2コマ罫線なし	3コマ罫線なし	4コマ罫線なし
工事写真1	記事欄付1	追加帳票1～10	

帳票印刷の例

1コマ罫線あり

2コマ罫線あり

工事写真1

セットアップメニューについて

撮影設定メニュー（☞P.83）や再生設定メニュー（☞P.125）からセットアップメニューを表示して、カメラの設定変更ができます。
セットアップメニューを使うと、次の表にある項目を設定することができます。

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
初期化［カード］	――――――	P.150
初期化 [内蔵メモリー]	――――――	P.151
画像モニター輝度調節	――――――	P.152
マイセッティング登録	[設定1]、設定2	P.153
ISO AUTO-HI 設定	AUTO 200、[AUTO 400]、AUTO 800、AUTO1600	P.155
ファンクションボタン設定	OFF、[AF/MF]、AF/スナップ、AEロック、JPEG→RAW、カラー→白黒、カラー→TE、露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正	P.156
Fn設定のMY登録	ON、[OFF]	P.157
ADJ.レバー設定1*1 ADJ.レバー設定2*2 ADJ.レバー設定3*3 ADJ.レバー設定4*4	[OFF] *4、[露出補正] *1、[ホワイトバランス] *2、[ISO] *3、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正	P.158
ADJシャッターボタン確定	ON、[OFF]	P.159
ズームボタン設定	OFF、デジタルズーム、[露出補正]、ホワイトバランス	P.160
デジタルズーム切替	[通常]、オートリサイズ	P.161
操作音	[すべて]、シャッター音	P.163
操作音音量設定	なし（□□□）、小（■□□）、 中［(■■□)］、大（■■■）	P.164
水準器設定	[OFF]、表示のみ、表示＋音、音のみ	P.165
AF補助光	[ON]、OFF	P.166
オートパワーオフ	OFF、[1分]、5分、30分	P.167
画像確認時間	OFF、[0.5秒]、1秒、2秒、3秒、HOLD	P.168
情報表示モード	ON、[OFF]	P.169
縦横自動回転再生	[ON]、OFF	P.171

設定項目	選択肢［購入時の初期設定値］	参照先
CL-BKT 白黒(TE)	[ON]、OFF	P.173
RAW同時記録設定	[FINE]、NORMAL、N640	P.174
色空間設定	[sRGB]、Adobe RGB	P.175
撮影アイコン拡大	ON、[OFF]	P.177
CARD連続NO.	[ON]、OFF	P.178
日時設定	――――	P.180
Language／言語*	日本語、English、Deutsch、Français、Italiano、Español、Русский、简体中文、繁体中文、한국어	P.181
ビデオ方式*	NTSC、PAL	P.182

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

セットアップメニューの操作方法

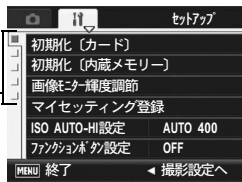
各設定項目の設定方法について説明します。
▲▼▶ボタンとMENU/OKボタンを押して選択、設定します。

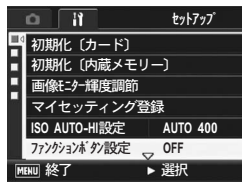
1 MENU/OKボタンを押す

- 撮影設定メニューまたは再生設定メニューが表示されます。

2 ▶ボタンを押す

- セットアップメニューが表示されます。

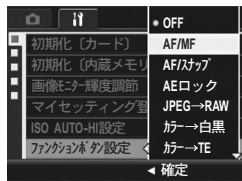
設定画面が5画面あることを示しています。

3 ▲▼ボタンを押して、設定する項目を選ぶ

- 一番下の項目で ▼ ボタンを押すと次の設定画面が表示されます。

4 ▶ボタンを押す

- 設定項目の選択肢が表示されます。

5 ▲▼ボタンを押して、選択肢を選ぶ

6 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューが消え、撮影または再生ができます。
- 設定項目によっては、セットアップメニューが表示されることがあります。その場合は、再度MENU/OKボタンを押すと、撮影または再生画面に戻ります。

メモ

機能によっては、選択肢の選択方法がここで説明する操作と異なる場合があります。詳しい操作方法は、各機能の説明を参照してください。

画面の切り替え

タブで画面を切り替えることができます。

1 ◀ ボタンを押すと、画面左にあるタブが選択できる状態になります。
2 ▲▼ ボタンを押して画面を切り替えます。
3 ▶ ボタンを押すと、項目を選択する状態に戻ります。

SDメモリーカードを使えるようにする（初期化［カード］）

［使用できないCARDです。］等のエラーメッセージが表示されたり、パソコンなど他の機器で使用したSDメモリーカードは、本機で初期化してから使用する必要があります。
初期化とは、画像データが書き込める状態にする処理のことです。

注意

画像が記録されているカードを初期化すると、内容がすべて消えてしまいます。

初期化するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［カード］］を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

セットアップ
初期化〔カード〕
初期化〔内蔵メモリー〕
画像モニター輝度調節
マイセッティング登録
ISO AUTO-HI設定 AUTO 400
ファンクションボタン設定 OFF
MENU 終了 ▶ 実行

3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。
- SDメモリーカードが入っていない場合は、メッセージが表示されます。いったん電源をオフにしてから、SDメモリーカードをセットして、再度初期化の操作を行ってください。

4 MENU/OKボタンを押す

誤って画像を消さないようにするには

- カードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」にしておくと、撮影や画像の削除、初期化ができなくなります。（☞P.28）
- スイッチを元の位置に戻し、「LOCK」を解除すると、削除も初期化もできるようになります。

内蔵メモリーを初期化する（初期化［内蔵メモリー］）

［内蔵メモリーを初期化してください。］というエラーメッセージが表示された場合は、内蔵メモリーを初期化する必要があります。

注意

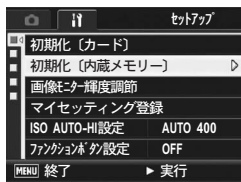
内蔵メモリーを初期化すると、内蔵メモリーに記録されているデータはすべて消去されます。消去したくない画像があるときは、SDメモリーカードに画像をコピーしてから初期化を行ってください。（☞P.135）

初期化するには、次のように操作します。

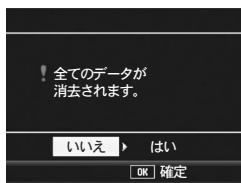
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［初期化［内蔵メモリー］］を選び、▶ボタンを押す

- 初期化の確認画面が表示されます。

3 ◀▶ボタンを押して［はい］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 初期化が行われ、完了するとセットアップメニューに戻ります。

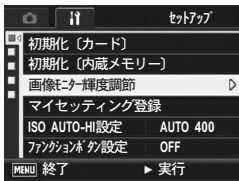
4 MENU/OKボタンを押す

画像モニターの明るさを調節する（画像モニター輝度調節）

画像モニターの明るさを調整するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像モニター輝度調節] を選び、▶ボタンを押す

- 輝度設定用の画面が表示されます。

3 ▲▼ボタンを押して、明るさを調節する

- 画像モニター輝度調節バーの目盛りを下側に変更すると、暗くなります。上側に変更すると、明るくなります。画面の明るさが、バーの目盛り位置にともなって変化します。

4 設定したい明るさになったら、MENU/OKボタンを押す

- セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

自分好みの設定を登録する（マイセッティング登録）

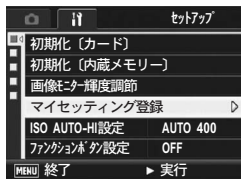
マイセッティング機能を使うと、簡単に自分好みの設定で撮影することができます。
マイセッティングは2種類登録できます。モードダイヤルをMY 1に合わせると、［設定1］で登録した設定で撮影できます。モードダイヤルをMY2に合わせると、［設定2］で登録した設定で撮影できます。（☞P.82）
現在のカメラの設定をマイセッティングとして登録するには、次のように操作します。

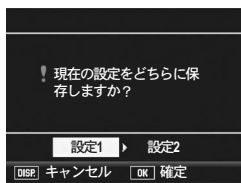
1 カメラの設定を、マイセッティングとして登録したい値に変更する

2 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

3 ▼ボタンを押して、［マイセッティング登録］を選び、▶ボタンを押す

- 確認のメッセージが表示されます。

4 ［設定1］または［設定2］を選び、MENU/OKボタンを押す

- 現在のカメラの設定が登録され、セットアップメニューに戻ります。
- 登録しない場合は、DISP. ボタンを押してください。

5 MENU/OKボタンを押す

マイセッティングで保存できる設定

撮影モード（📷/P/A/M/SCENE）
絞り優先モード時の絞り値
マニュアルフォーカス時のフォーカス位置
シーンモード
マクロ
フラッシュモード
セルフタイマー
DISP.モード
画質・サイズ
フォーカス
測光
連写
画像設定
フラッシュ調光補正
オートブラケット
日付入れ撮影
露出補正
ホワイトバランス
ISO感度
文字濃度
フレームレート
ファンクションボタン設定*
水準器設定
撮影アイコン拡大

* ［ファンクションボタン設定］は、［Fn設定のMY登録］を［ON］に設定した場合のみ、マイセッティングで保存されます。

ISO AUTO-HI の設定を変える（ISO AUTO-HI 設定）

撮影設定メニューの［ISO感度］で設定する［AUTO-HI］（高感度設定オート）（☞P.118）のISO感度の上限を変更することができます。

設定できる値
AUTO 200
AUTO 400　※購入時の設定
AUTO 800
AUTO1600

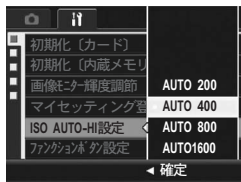
高感度設定オートの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［ISO AUTO-HI 設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

ISO感度を高くすると、画像が粗くなる場合があります。

ファンクションボタンに機能を登録する（ファンクションボタン設定）

Fnボタンに機能を登録すると、Fnボタンを押すだけで色々な機能を切り替えたり、少ないボタン操作で撮影設定メニューの項目を変更することができます。
Fnボタンに登録できる機能は、以下のとおりです。Fnボタンの操作方法は、各参照先を参照してください。

設定できる値	機能	参照先
AF/MF　※購入時の設定	オートフォーカスとマニュアルフォーカスを切り替える	P.68
AF/スナップ	オートフォーカスとスナップを切り替える	P.69
AEロック	露出を固定する	P.70
JPEG→RAW	JPEGとRAWを切り替える	P.71
カラー→白黒	カラーと白黒*1を切り替える	P.72
カラー→TE	カラーと白黒(TE)*2を切り替える	P.72
露出補正、ホワイトバランス、ISO、画質、フォーカス、画像設定、測光、連写、オートブラケット、調光補正	各撮影設定メニューの項目を変更する	P.73

*1［画像設定］で［白黒］に設定した画質（☞P.99）
*2［画像設定］で［白黒(TE)］に設定した画質（☞P.100）

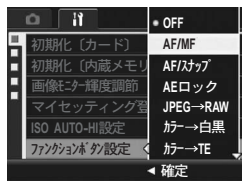
Fnボタンに機能を登録するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ファンクションボタン設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5
カメラの設定を変える

Fn（ファンクション）ボタンの機能をマイセッティングで保存するかどうか設定する（Fn設定のMY登録）

［ファンクションボタン設定］でFnボタンに登録した機能（☞P.66）を、［マイセッティング登録］（☞P.153）で保存するかどうか設定できます。

設定できる値	内容
ON	Fnボタンに登録した機能を［マイセッティング登録］で保存する
OFF　※購入時の設定	Fnボタンに登録した機能は［マイセッティング登録］で保存しない

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［Fn設定のMY登録］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

ADJ.レバーに機能を登録する（ADJ.レバー設定）

ADJ.レバーに機能を登録すると、撮影設定メニューを表示することなく、簡単な操作で撮影に関するいろいろな設定画面を表示できます。［ADJ.レバー設定1］～［ADJ.レバー設定4］で、ADJ.レバーを押して表示できる機能を登録します。
ADJ.モードでの操作方法は、P.62を参照してください。

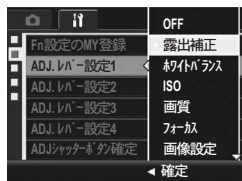
設定できる値		参照先
OFF	※購入時［ADJ.レバー設定4］の設定	－
露出補正	※購入時［ADJ.レバー設定1］の設定	P.113
ホワイトバランス	※購入時［ADJ.レバー設定2］の設定	P.114
ISO	※購入時［ADJ.レバー設定3］の設定	P.118
画質		P.86
フォーカス		P.89
画像設定		P.98
測光		P.93
連写		P.94
オートブラケット		P.103
調光補正		P.102

［ADJ.レバー設定1］～［ADJ.レバー設定4］に機能を登録するには、次のように操作します。

1 **セットアップメニューを表示する**
- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 **▼ボタンを押して、［ADJ.レバー設定1］、［ADJ.レバー設定2］、［ADJ.レバー設定3］、［ADJ.レバー設定4］のいずれかを選び、▶ボタンを押す**

3 **▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ**

4 **MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す**

ADJ.モード時にシャッターボタンで設定を確定する（ADJシャッターボタン確定）

ADJ.モードの場合（☞P.62）、通常はMENU/OKボタンまたはADJ.レバーを押して設定を確定します。
［ADJ.シャッターボタン確定］を［ON］に設定すると、シャッターボタンの半押しでも設定を確定することができます。

設定できる値	内容
ON	ADJ. レバーまたは MENU/OK ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると設定が確定します。
OFF ※購入時の設定	ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押すと設定が確定します。

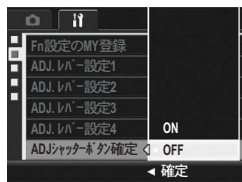
シャッターボタンの設定を変えるには、次のように操作します。

1 **セットアップメニューを表示する**

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 **▼ボタンを押して、［ADJシャッターボタン確定］を選び、▶ボタンを押す**

3 **▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ**

4 **MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す**

ズームボタンに機能を登録する（ズームボタン設定）

撮影モード時にQ/⊞ボタンに割り当てる機能を以下の中から選択できます。

設定	内容
OFF	Q/⊞ボタンには、機能を割り当てません。
デジタルズーム	Q/⊞ボタンにデジタルズームの機能を割り当てます。デジタルズームの操作方法は、P.40を参照してください。 デジタルズームは、［デジタルズーム切替］で通常のデジタルズームまたはオートリサイズズームを選択することができます（☞P.161）。
露出補正 ※購入時の設定	Q/⊞ボタンに露出補正の機能を割り当てます。Q/⊞ボタンを押した後の露出補正の設定方法は、P.113の手順3以降を参照してください。
ホワイトバランス	Q/⊞ボタンにホワイトバランスの機能を割り当てます。Q/⊞ボタンを押した後のホワイトバランスの設定方法は、P.114、116、117の手順3以降を参照してください。

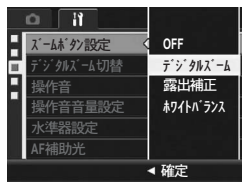
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［ズームボタン設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

注意 --

［画質・サイズ］がRAWモードのときは、デジタルズームは使用できません。

オートリサイズズームを使う（デジタルズーム切替）

オートリサイズズームを使うと、撮影した画像から必要な部分を切り出して記録します。通常のデジタルズームは、画像の一部を設定した画像サイズまで拡大して保存するのに対し、オートリサイズズームは切り出した部分をそのまま記録します。そのため、画像サイズは小さくなりますが画質の劣化がありません。記録する画像のサイズは、オートリサイズズームの倍率により変化します。オートリサイズズームは、[ズームボタン設定] を [デジタルズーム] に設定し（☞P.160）、かつ [画質・サイズ] を3648×2736に設定しているとき（☞P.86）のみ働きます。

選択できる設定

設定	内容
通常 ※購入時の設定	通常のデジタルズームです。[画質・サイズ] で設定した画像サイズで記録します。
オートリサイズ	自動的に画像サイズを変更して記録します。

メモ---

[画質・サイズ] が3648×2736以外の場合、デジタルズームが有効になります。

ズーム倍率と記録する画像サイズの関係

ズーム倍率	画像サイズ
1.0倍	3648×2736（10M）
約1.1倍	3264×2448（8M）
約1.4倍	2592×1944（5M）
約1.8倍	2048×1536（3M）
約2.9倍	1280×960（1M）
約5.7倍	640×480（VGA）

1 セットアップメニューを表示する

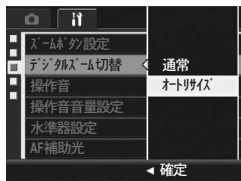
- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 [ズームボタン設定] を [デジタルズーム] に設定する

- 操作方法はP.160を参照してください。

3 ▼ボタンを押して [デジタルズーム切替] を選び、▶ボタンを押す

4 ▲▼ ボタンを押して、[オートリサイズ] を選ぶ

5 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

6 撮影できる状態で、Q（拡大表示）ボタンを押す

- Qボタンを押すごとに、1段階ずつ画像サイズを変更して記録されます。
- 記録する画像サイズが画像モニターに表示されます。

注意 --

- S 連写、M 連写、シーンモードの [斜め補正] の場合は、[オートリサイズ] に設定していてもデジタルズームが有効になります。
- [画質・サイズ] がRAWモードのときは、使用できません。

操作音の設定を変える（操作音）

カメラの操作中は、以下の5種類の操作音が鳴ります。

起動音	：カメラの電源をオンにしたときに鳴ります。
シャッター音	：シャッターボタンを押したときに鳴ります。
フォーカスが合ったときの音	：シャッターボタンを半押しして、ピントが合ったときに「ピピッ」という音が鳴ります。
警告音	：実行できない動作を行おうとしたときに「ピピピピピ」という音が鳴ります。
水準器音	：［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定している場合（☞P.165）、撮影モードでカメラが水平状態のときに、水準器音が一定間隔で鳴り続けます。

設定できる値	内容
すべて ※購入時の設定	すべて鳴らす
シャッター音	シャッター音、警告音、水準器音のみ鳴らす

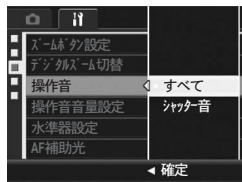
操作音の設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

• 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［操作音］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

操作音の音量は変更することができます。（☞P.164）

5

カメラの設定を変える

操作音の音量を変える（操作音音量設定）

操作音の音量を変更できます。

設定できる値
□□□（なし）
■□□（音量小）
■■□（音量中）※購入時の設定
■■■（音量大）

操作音の音量を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［操作音音量設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合は、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても（☞P.165）、水準器音は鳴りません。

5 カメラの設定を変える

水準器の確認方法を設定する（水準器設定）

［水準器設定］をオンにすると、撮影する画像が水平かどうかを撮影時に水平インジケーターや水準器音で確認することができます。確認方法は以下の中から設定できます。撮影時の水準器の使用方法については、P.57を参照してください。

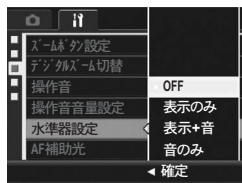
設定	内容
OFF ※購入時の設定	水平インジケーターは表示されません。水準器音も鳴りません。
表示のみ	水平インジケーターが表示されます。水準器音は鳴りません。
表示＋音	水平インジケーターが表示され、カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。
音のみ	水平インジケーターは表示されません。カメラが水平状態のときに水準器音が鳴ります。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。
- 撮影できる状態でDISP.ボタンを長押しした場合でも、設定画面を表示できます。DISP.ボタンを長押しした場合は手順3へ進んでください。

2 ▼ボタンを押して［水準器設定］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

- 撮影時の水準器の使用方法については、P.57を参照してください。
- 動画記録中、インターバル撮影中は、水準器は動作しません。
- ［操作音音量設定］を［□□□］（なし）に設定している場合、［水準器設定］を［表示＋音］または［音のみ］に設定しても、水準器音は鳴りません。

AF補助光の設定を変える（AF補助光）

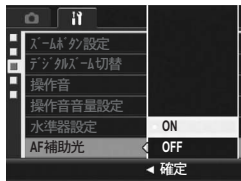
オートフォーカスでの撮影時に、AF補助光を発光するかしないかを設定できます。
［AF補助光］を［ON］に設定すると、周囲が暗く、オートフォーカスでの測距が難しいときにAF補助光が発光し、AF測距を行います。
AF補助光の設定を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、［AF補助光］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

オートパワーオフの設定を変える（オートパワーオフ）

設定した時間内にカメラの操作をしないと、節電のために自動的に電源がオフになります（オートパワーオフ）。
購入時のオートパワーオフは1分に設定されていますが、この設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（オートパワーオフ機能は働きません）
1分 ※購入時の設定
5分
30分

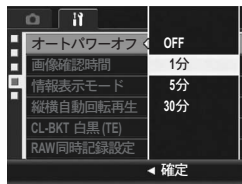
オートパワーオフの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[オートパワーオフ] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

- オートパワーオフで電源がオフになったとき、引き続きカメラを使用したい場合は、POWER（電源）ボタンを押して電源をオンにします。▶（再生）ボタンを約1秒以上押し続けても電源がオンになり、再生モードで使用できます。
- オートパワーオフは、パソコンまたはプリンターと接続しているときは働きません。
- インターバル撮影をするときは、[オートパワーオフ] の設定は無効になり、オートパワーオフは働きません。

画像確認時間を変える（画像確認時間）

シャッターボタンを押して撮影した直後に、撮影した静止画が確認のために表示されます。確認時間は、購入時には0.5秒に設定されていますが、設定を変更することができます。

設定できる値
OFF（確認のための表示を行わない）
0.5秒　※購入時の設定
1秒
2秒
3秒
HOLD（次にシャッターボタンを半押しするまで、確認画像を表示し続ける）

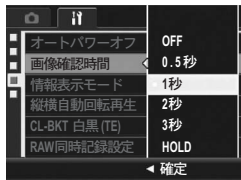
確認時間を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[画像確認時間]を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

注意--

[画像確認時間] を [0.5秒] に設定した場合は、確認のための画像が表示されている間、電池マーク等のアイコンも表示されたままになります。

メモ--

[HOLD] に設定すると、確認表示中の画像を拡大表示したり（☞P.49）、削除したり（☞P.50）することができます。

画像モニターオフ時に情報表示をする（情報表示モード）

［情報表示モード］を［ON］に設定すると、撮影モードの画像モニターオフ時（☞P.54）でも、以下の場合には画像モニターに情報表示を行います（撮影画面は表示されず、情報のみが表示されます)。外部ファインダーを使用しているときなどに便利です。

- セルフタイマー（セルフタイマー）ボタンまたはマクロ（マクロ）ボタンを押したとき
- モードダイヤルを切り替えたとき
- アップダウンダイヤルを回したとき
- マニュアル露光モード（☞P.75）でADJ.レバーを左右にたおしたとき
- ［ファンクションボタン設定］で［AF/MF］、［AF/スナップ］、［JPEG→RAW］、［カラー→白黒］、［カラー→TE］のいずれかを設定し(☞P.156)、Fn(ファンクション)ボタンを押したとき
- OPEN（フラッシュオープン）スイッチを押して、フラッシュをポップアップしたとき

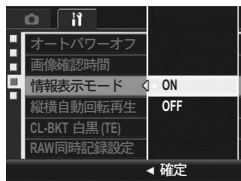
情報表示後、数秒間操作を行わなかった場合、またはシャッターボタンを半押しした場合は情報表示が消え、画像モニターオフの状態に戻ります。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［情報表示モード］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

5
カメラの設定を変える

メモ

- ［情報表示モード］の設定内容に関わらず、画像モニターオフ時でも、ADJ.レバーまたはMENU/OKボタンを押した場合はそれぞれの設定画面を表示します。
- ［情報表示モード］の設定内容に関わらず、画像モニターオフ時でも、以下の操作をした場合は画像モニターがオンになります。
  - ・ADJ.レバー、MENU/OKボタン、DISP.ボタン、▶（再生）ボタンを押した場合
  - ・［ズームボタン設定］が［OFF］以外（☞P.160）でQ/▦ボタンを押した場合
  - ・マニュアルフォーカス中に▲▼ボタンを押した場合
  - ・シーンモードでMODEボタンを押した場合
- ［水準器設定］を［表示のみ］または［表示+音］に設定しても（☞P.165）、画像モニターオフ時の情報表示では水平インジケーターは表示されません。

再生画像の向きを自動補正する（縦横自動回転再生）

カメラの向きが撮影時と再生時で異なる場合に、再生画像の向きを自動補正するかどうか設定します。

設定	内容
ON　※購入時の設定	再生画像の向きを自動補正します。
OFF	再生画像の向きは補正しません。

［縦横自動回転再生］を［ON］に設定すると、カメラを横向きに置いて再生する場合は、カメラを横にして撮影した画像はそのままの向きで再生し、カメラを縦にして撮影した画像は自動的に回転して縦に表示します。また、カメラを縦向きに置いて再生する場合は、カメラを縦にして撮影した画像はそのままの向きで再生し、カメラを横にして撮影した画像は自動的に回転して横に表示します。
再生中にカメラの向きを変えた場合でも、再生画像はカメラの向きに応じて自動回転されます。

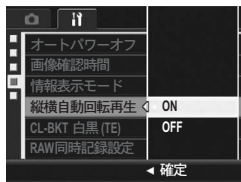
1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［縦横自動回転再生］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

注意

- 以下の場合は、[縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、再生画像は自動回転されません。
  - ・動画、S連写、M連写で撮影した画像
  - ・3コマ表示または一覧表示の場合（☞P.47）
  - ・カメラを前後に傾け過ぎている状態で撮影した画像
  - ・カメラを上下逆さま（シャッターボタンが下向きになっている）にして撮影または再生した場合
  - ・拡大再生中にカメラの向きを変えた場合
  - ・再生モードで斜め補正処理中（補正エリアが表示されている）の画像（☞P.136）
- [縦横自動回転再生]を[ON]に設定しても、スライドショー、テレビ再生中は、カメラを横向きに置いているものと認識されます。カメラを縦向きに置いて再生しても、横向きで撮影した画像は自動回転されません。また、再生中にカメラの向きを変えても、再生画像は自動回転されません。

メモ

連写、オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケットで撮影した画像は、1枚目の画像の向きによって自動回転されます。

CL-BKT撮影時の記録画像を設定する（CL-BKT 白黒(TE)）

［オートブラケット］で［CL-BKT］を選択して静止画を撮影すると（☞P.107）、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚、または白黒、カラーの2枚の画像を自動的に記録します。あらかじめセットアップメニューの［CL-BKT 白黒(TE)］で、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録するか、白黒、カラーの2枚の画像を記録するかを設定しておきます。

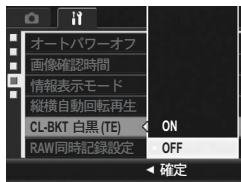
設定	内容
ON ※購入時の設定	撮影設定メニューの［オートブラケット］を［CL-BKT］に設定すると、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。
OFF	撮影設定メニューの［オートブラケット］を［CL-BKT］に設定すると、白黒、カラーの2枚の画像を記録します。

1 セットアップメニューを表示する

• 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［CL-BKT 白黒(TE)］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、値を設定する

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

［CL-BKT 白黒(TE)］を［OFF］に設定しても、撮影設定メニューの［画像設定］を［白黒(TE)］に設定している場合は、白黒、カラー、白黒(TE)の3枚の画像を記録します。

RAWモード時のJPEG画像の設定を変える（RAW同時記録設定）

[画質・サイズ]をRAWモードに設定して撮影した場合（☞P.86）、RAW形式ファイル（.DNGファイル）と関連付けられたJPEGファイルが同時に記録されます。このJPEGファイルの画質・サイズの設定を変更することができます。

設定できる値	内容
FINE ※購入時の設定	画質：Fineモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
NORMAL	画質：Normalモード、画像サイズ：RAW形式ファイルと同じサイズで記録します。
N640	[画質・サイズ] の [N640]（☞P.86）と同じ画質・サイズで記録します。

JPEGファイルの画質・サイズの設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[RAW同時記録設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

[画質・サイズ] が [RAW3:2] のとき、[RAW同時記録設定] を [N640] に設定すると、JPEG画像の上下に黒い帯部分が付加されます。また、[RAW1:1] のときは、JPEG画像の左右に黒い帯部分が付加されます。

色空間を設定する（色空間設定）

撮影時の色空間を、デジタルの世界で一般的なsRGBと、より広い色空間のAdobe RGBから選択できます。
本機におけるAdobe RGB設定とは、アドビシステムズ社が採用し、Photoshop などの画像編集ソフトウェアのデフォルト設定している色空間と互換性のある色空間です。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ ボタンを押して［色空間設定］を選び、▶ボタンを押す

［sRGB］を選択する場合

3 ▲▼ボタンを押して、［sRGB］を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

［AdobeRGB］を選択する場合

3 ▲▼ボタンを押して、［AdobeRGB］を選び、MENU/OKボタンを押す

- ［Adobe RGB］を選択したことを確認するメッセージが表示されます。

4 ▶ボタンを押して［YES］を選び、MENU/OKボタンを押す

5 MENU/OKボタンを押す

注意

- Adobe RGBは、商用印刷での使用を目的としているため、一般のプリントサービス、ホームプリンタ等での印刷には適していません。sRGBより広い範囲の色空間をカバーしますが、Adobe RGBに対応していない環境で表示・印刷を行うと、色が薄く表現される場合があります。
- ［AdobeRGB］に設定して撮影した画像をパソコンで表示する場合、Adobe RGB色空間を正しく再現できるアプリケーションソフトをご使用にならないと、正しい色が再現できません。

アイコンを大きく表示する（撮影アイコン拡大）

マーク表示（☞P.54）のときに、撮影画面の次のアイコンを大きく表示することができます。

フラッシュモード、マクロ撮影、セルフタイマー、ホワイトバランス、フォーカス、露出補正、ISO感度、測光、オートブラケット

アイコンを大きく表示すると、次のものは表示されません。

デジタルズームの倍率、フォーカスバー、日付入れ撮影、画像設定

撮影画面のアイコンを大きく表示するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して［撮影アイコン拡大］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、［ON］を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

撮影アイコンが拡大されるのは、マーク表示画面のみです。ヒストグラム表示画面では、撮影アイコンは拡大されません。（☞P.54）

ファイル名の設定を変える（CARD連続NO.）

撮影した静止画には、自動的に連番のファイル名が付き、内蔵メモリーやSDメモリーカードに記録されます。
SDメモリーカードを入れ替えた場合のファイル名を、前のカードからの連番にするか、しないかを設定できます。

設定できる値	内容
ON（連番にする） ※購入時の設定	撮影した静止画に、R0010001.jpg～R9999999.jpgまでの、「R」の後に7桁の通し番号が付いたファイル名が、自動的に付きます。 SDメモリーカードを別のカードに替えたときにも、前のカードからの連番でファイル名が付くように設定されています。
OFF（連番にしない）	新しいSDメモリーカードをセットするたびに、RIMG0001.jpg～RIMG9999.jpgまでのファイル名が付きます。 RIMG9999を超えると、それ以上は記録できません。

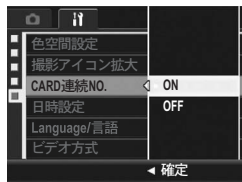
ファイル名の設定を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[CARD連続NO.] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

- 内蔵メモリーに記録する場合には、常に［CARD連続NO.］が［OFF］の設定の場合と同じにファイル名が付けられます。
- RICOH Gate Laを使ってパソコンに転送する（☞P.196）際は、新しいファイル名に置き換えられて保存されます。また、［CARD連続NO.］を［ON］に設定していても、ファイル名は「RIMG****.jpg」（****は番号）で保存されます。

注意

RIMG9999を超えると、ファイル番号が足りなくなるためそれ以上は記録できなくなります。この場合、SDメモリーカードの内容を一度パソコンなどに移し、SDメモリーカードを初期化してお使いください。

日付・時刻を設定する（日時設定）

静止画に日付や時刻を入れて撮影することができます。
ここでは、セットアップメニューからの日付・時刻の設定方法を説明します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[日時設定] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、年・月・日・時・分を設定する

- ▲▼ボタンを押し続けると、高速で数値を増減させることができます。
- ◀▶ボタンを押すと、次の項目へ移動することができます。

4 ［書式］で日時の書式を選ぶ

5 画面の表示を確認し、MENU/OKボタンを押す

- 日時が設定されて、セットアップメニューに戻ります。

6 MENU/OKボタンを押す

メモ

- 電池を取り出してから約1週間経過すると、設定した日付・時刻がリセットされます。再度、設定しなおしてください。
- 日時を保持させるためには、電池残量が充分にある電池をカメラに2時間以上セットしてください。

表示言語を変える（Language／言語）

画像モニターに表示される言語を変更することができます。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
日本語
English（英語）
Deutsch（ドイツ語）
Français（フランス語）
Italiano（イタリア語）
Español（スペイン語）
Русский（ロシア語）
简体中文（中国語：簡体字）
繁体中文（中国語：繁体字）
한국어（韓国語）

表示言語を変えるには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する

- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[Language／言語］を選び、▶ボタンを押す

- 言語選択画面が表示されます。

3 ▲▼◀▶ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OKボタンを押す

- 言語が設定され、セットアップメニューに戻ります。

5 MENU/OKボタンを押す

テレビで見るときの再生方式を変える（ビデオ方式）

付属のAVケーブルでカメラをテレビに接続して、テレビの画面で静止画や動画を見ることができます。（☞P.138）
テレビなどの機器でのビデオ方式は、NTSC方式（日本などで使用されている方式）に設定されています。接続する機器がPAL方式（ヨーロッパ等で使用されている方式）の場合は、PAL方式に設定してから接続します。
購入時の設定は、仕向け地によって異なります。

設定できる値
NTSC
PAL

ビデオ方式を変更するには、次のように操作します。

1 セットアップメニューを表示する
- 操作手順は、P.148を参照してください。

2 ▼ボタンを押して、[ビデオ方式] を選び、▶ボタンを押す

3 ▲▼ボタンを押して、設定を選ぶ

4 MENU/OK ボタンを押す、または◀ボタンを押してMENU/OKボタンを押す

メモ

SECAM方式には対応していません。

画面の表示は、ご使用のパソコンのOSによって異なります。

Windowsをご使用の場合

Macintoshをご使用の場合はP.200をご覧ください。

画像をパソコンに取り込むには、以下の２種類の方法があります。

- 付属のソフトウェアRICOH Gate Laを使用して、自動的に画像の一括取り込みを行う。この場合は、付属のCaplio Software CD-ROMからソフトウェアをインストールしておく必要があります。
- RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む。

メモ---

- 画像をパソコンに取り込む方法の詳細については、Caplio Software CD-ROMに収められている『使用説明書（ソフトウェア編）』を参照してください。『使用説明書（ソフトウェア編）』の表示方法については、P.185を参照してください。
- 付属のCD-ROMに収められているCaplio Softwareは、リコー製品デジタルカメラGR DIGITAL IIおよびCaplio共通のソフトウェアです。

Caplio Software CD-ROMの構成

Caplio Software CD-ROMをパソコンにセットすると、インストーラー画面が自動的に表示されます。

項目名	内容	参照先
ソフトウェアのインストール	パソコンで画像の一括取り込みや編集を行うときに必要なソフトウェアを一括でインストールできます。	P.185
使用説明書（ソフトウェア編）を見る	『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDF）を表示することができます。	P.185
CD-ROMの内容を見る	付属のCD-ROM内のファイル一覧を表示することができます。	P.186
RICOHホームページへ	リコーのホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	−
RICOHデジタルカメラホームページへ	リコーのデジタルカメラのホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	−
お客様登録・変更	リコーのお客様登録のホームページを表示することができます。(インターネットに接続できる状態の場合)	−

［ソフトウェアのインストール］をクリックする（☞P.188）

次のソフトウェアがインストールされます。

ソフトウェア名	説明
RICOH Gate La	画像をパソコンに一括取り込みします。
Irodio Photo & Video Studio	撮影した画像を閲覧・管理・編集することができます。
USBドライバー	リコーの過去機種とWindows 98SE/Me/2000を接続するときに使います。本カメラでは使用しません。
WIAドライバー	リコーの過去機種とWindows XP/Vistaを接続するときに使います。本カメラでは使用しません。

メモ--

本機は、パソコン内の画像を表示、編集するソフトウェアIrodio Photo & Video Studioを付属しています。Irodio Photo & Video Studioの使いかたについては、Irodio Photo & Video Studioのヘルプを参照してください。

Irodio Photo & Video Studioについての最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/ricoh/j/index.html）を参照してください。

［使用説明書（ソフトウェア編）を見る］をクリックする

CD-ROM内の『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）を表示します。

すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合は、クリックするだけで表示できます。Acrobat Readerがインストールされていない場合は、Acrobat Readerをインストールする必要があります。（☞P.191）

［CD-ROMの内容を見る］をクリックする

CD-ROM内のフォルダやファイルを確認できます。CD-ROMには、［ソフトウェアのインストール］をクリックしてインストールされるソフトウェア以外に、次のソフトウェアが収められています。Windows環境では、これらのソフトウェアをご使用いただけます。
各ソフトウェアのインストールについては、下表の「参照先」に記載したページをご覧ください。

ソフトウェア名	説明	参照先
Acrobat Reader	『使用説明書（ソフトウェア編）』を読むために必要なソフトウェアです。	P.191
Ridoc Desk Navigator Lt	ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。	P.192

メモ--

- Acrobat Readerについては、Acrobat Readerのヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltについては、Ridoc Desk Navigator Ltに付属の『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。
- 「Irodio Photo & Video Studio」フォルダ内のIrodio Photo & Video Studio.exeをダブルクリックすると、Irodio Photo & Video Studioのみをインストールすることができます。

Caplio Software CD-ROMを使うために必要な環境

Caplio Software CD-ROMを使うためには、次の環境が必要です。ご使用のパソコンやパソコンの説明書等で、ご確認ください。

対応OS	Windows 2000 Professional（日本語版） Windows Me（日本語版） Windows XP Home Edition（日本語版）/Professional（日本語版） Windows Vista（日本語版）
CPU	Windows 2000/Me/XP：Pentium® III 500MHz以上 Windows Vista：Pentium® III 1GHz以上
メモリー	Windows 2000/Me/XP：256MB以上 Windows Vista：512MB以上
インストール時のハードディスクの空き容量	160MB以上
ディスプレイの解像度	1024×768ドット以上
ディスプレイの表示色	65000色以上
CD-ROMドライブ	上記パソコン本体で使用可能なCD-ROMドライブ
USBポート	上記パソコン本体で使用可能なUSBポート

注意 --

- Windows 98/98SEには対応していません。
- OSをアップグレードしたパソコンの場合、正常にUSB機能が動作しないことがあるためサポートできません。
- OSのシステム環境の変化やサービスパックなどのリリースにより、正しく動作しないことがあります。
- 拡張機能（PCIバスなど）を利用して増設したUSBポートへの接続はサポートできません。
- HUB等の他のUSB機器との組合せで使用した場合、正しく動作しないことがあります。
- 動画などの大きなファイルを扱う場合は、より大きなメモリー環境で利用することをお勧めします。

画像の一括取り込みや編集を行うためのソフトウェアをインストールする

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- 従来機種のCaplio Software CD-ROMからすでにソフトウェアをインストールしている場合は、新たにソフトウェアをインストールしようとすると、従来機種のソフトウェアをアンインストールしてからインストールするようメッセージが表示されます。
  この場合は、メッセージに従って従来機種のソフトウェアをアンインストールし、新しいソフトウェアをインストールしてください。従来機種のソフトウェアもこれまでと同様にお使いいただけます。
  DU-10がインストールされている場合は、Caplio Viewer（DU-10の機能強化版）に置き換わります。メッセージが表示される前に従来機種のソフトウェアをアンインストールした場合は、新しいソフトウェアをインストールしてもCaplio Viewerはインストールされません。（アンインストール方法☞P.194）
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- RICOH Gate Laはネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

1 **パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする**

Windows Vista以外のOSの場合

- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

Windows Vistaの場合

- 自動再生画面が表示されます。
- ［Autorun.exeの実行］を選択してください。パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 ［ソフトウェアのインストール］をクリックする

Windows Vista以外のOSの場合

- しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

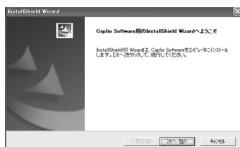
Windows Vistaの場合

- ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。
- コンピュータへのアクセス要求の［許可］を選択してください。しばらくすると［設定言語の選択］画面が表示されます。

3 言語を選択し、［OK］をクリックする

- ［Caplio Software用のInstallShield Wizardへようこそ］画面が表示されます。

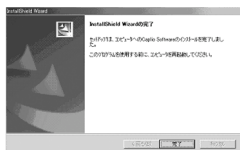
4 ［次へ］をクリックする

- ［インストール先の選択］画面が表示されます。

5 インストール先を確認して［次へ］をクリックする

- ［プログラムフォルダの選択］画面が表示されます。

6 プログラムフォルダを確認して［次へ］をクリックする

- 続けてIrodio Photo & Video Studioのインストーラが起動します。画面の指示に従ってインストールしてください。
  パソコンによっては、次の画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。

- Irodio Photo & Video Studioのインストールが完了すると、すべてのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

7 ［完了］をクリックする

- Caplio Softwareのインストールが完了したことを表すダイアログが表示されます。

8 ［完了］をクリックする

9 パソコンを再起動する

- 再起動後に Windows セキュリティの重要な警告画面が表示されます。

10 RICOH Gate La for DSCの［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

メモ---

インストールしたソフトウェアをパソコンから削除（アンインストール）することができます。（☞P.194）

6

画像をパソコンに取り込む

その他のソフトウェアをインストールする

注意 --

- インストールは、カメラとパソコンを USB ケーブルで接続した状態では行わないでください。
- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、インストールは管理者権限をもったユーザーが行ってください。

Acrobat Reader

Acrobat Readerは、使用説明書（PDFファイル）を表示をするためのソフトウェアです。
Windowsをご使用の場合には、Acrobat Readerをインストールすることができます。すでにAcrobat Readerがパソコンにインストールされている場合には、インストールする必要はありません。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする
- パソコンの画面に、自動的にインストーラー画面が表示されます。

2 [CD-ROMの内容を見る]をクリックする
- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Acrobat] フォルダをダブルクリックする

4 [Japanese] フォルダをダブルクリックする

5 [ar505jpn]（ar505jpn.exe）をダブルクリックする
- Windows Vistaをご使用の場合、ユーザーアカウント制御の確認画面が表示されます。[続行] を選択してください。

6 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Acrobat Readerをインストールする

Ridoc Desk Navigator Lt

ビジネス文書を管理するためのソフトウェアです。デジタルカメラで撮影した静止画だけでなく、スキャナから読み取った文書やアプリケーションで作成した文書、イメージファイルなど、さまざまな文書を管理することができます。異なるファイル形式のものを1つの文書にまとめて保管することも可能です。

メモ

- Ridoc Desk Navigator Ltは日本国内向けのアプリケーションです。他の言語環境では使用できません。
  (Ridoc Desk Navigator Lt is only available in Japanese. Other languages are not supported.)
- Ridoc Desk Navigator Ltの使用方法については、Ridoc Desk Navigator Ltと同時にインストールされる『はじめてガイド』、『セットアップガイド』、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』、およびヘルプを参照してください。
- Ridoc Desk Navigator Ltに付属のAuto Documentリンクについては、『Ridoc Auto Documentリンクガイド』を参照してください。

1 パソコンを起動し、CD-ROMドライブに、付属のCaplio Software CD-ROMをセットする

2 [CD-ROMの内容を見る]をクリックする

- CD-ROM内のファイル一覧が表示されます。

3 [Ridoc Desk]フォルダをダブルクリックする

4 [RDLaunch.exe]をダブルクリックする

5 表示されるメッセージにしたがって操作を行い、Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする

- インストールが完了すると、自動的にWindowsが再起動します。

注意

- Ridoc Desk Navigator Ltは、Ridoc Desk Navigator、Ridoc Desk 2000 Lt、Ridoc Desk 2000、Job Binderと共存することができません。Ridoc Desk Navigator Ltをインストールする場合は、元のアプリケーションをアンインストールしてから行ってください。そのとき、元のアプリケーションで使用していたデータはそのまま保存され、引き続き使用することができます。ただし、元のアプリケーションがRidoc Desk 2000の場合、いくつかの機能が使用できなくなりますので、ご注意ください。
- カメラをパソコンに接続し、Ridoc Desk Navigator Ltを開いたままカメラの電源をオフ／オンした場合は、パソコンを再起動して再度接続してください。

ソフトウェアを削除（アンインストール）する

注意

- Windows Vista、Windows XP、Windows 2000の場合、アンインストールは管理者権限を持ったユーザーが行ってください。
- 他のソフトウェアが起動していたり､保存していないデータがある場合は､データを保存し､ソフトウェアを終了してからアンインストールしてください。

Caplio Software

1 Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする

2 [設定] - [コントロールパネル]（XPの場合は [コントロールパネル]）を選択する

3 [アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は[プログラムの追加と削除］アイコン）をダブルクリックする

4 ［Caplio Software］を選択し､［変更と削除］をクリックする

5 ファイル削除のメッセージを確認し､［OK］をクリックする

- ［共有ファイルの検出］ダイアログが表示されます。

6 [次回からこのメッセージを表示しない]のチェックボックスにチェックを入れて､［はい］をクリックする

- 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。

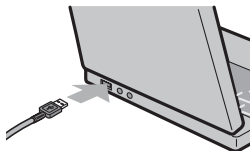
Irodio Photo & Video Studio

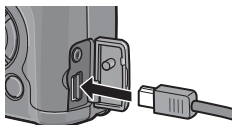
1. Windowsのタスクバーから［スタート］をクリックする
2. [設定] - [コントロールパネル] (XPの場合は [コントロールパネル]）を表示する
3. [アプリケーションの追加と削除］アイコン（XPの場合は[プログラムの追加と削除] アイコン) をダブルクリックする
4. [Irodio Photo & Video Studio］を選択し、[変更と削除］をクリックする
5. ファイル削除のメッセージを確認し、[OK］をクリックする
   - 削除が始まります。完了したらウィンドウを閉じてください。
6. パソコンを再起動する

RICOH Gate Laを使用して画像を一括取り込みする

ソフトウェアをパソコンにインストールしてから、カメラとパソコンを接続します。

1 **カメラの電源がオフになっていることを確認する**

2 **付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する**

3 **USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する**

- カメラの電源がオンになり、必要なファイルが自動的に読み込まれます。

4 **RICOH Gate Laが起動して、自動的に画像の転送が開始される**

5 **画像の転送が終了したら、カメラとパソコンの接続を解除する（☞P.199）**

注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

メモ

- RICOH Gate Laの使いかたについては、CD-ROM内の「使用説明書（ソフトウェア編）」（PDFファイル）をご参照ください。（☞P.184）
- 画像の転送が始まらない場合は、パソコンを再起動して1～5の操作をもう一度お試しください。

RICOH Gate Laを使用せずに画像を取り込む

ソフトウェアを使用せずに、カメラからパソコンに画像を取り込みます。

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

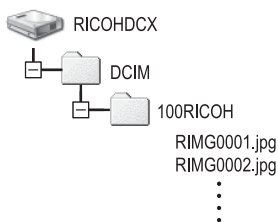
2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する

Windows XPでの表示例

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、[マイコンピュータ] にドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は右図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は [RICOHDCI] になります。

Windows XPでの表示例

注意

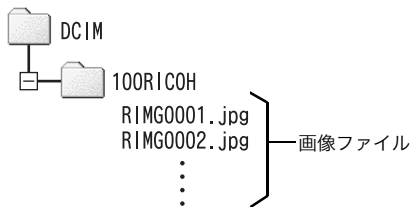
- 画像の取り込み中は電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。

メモ

表示される内容は、SDメモリーカードがセットされているときはSDメモリーカードのファイル、SDメモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルになります。

SDメモリーカードから画像を取り込む

PCカードスロットやカードリーダーを使って、SDメモリーカードからパソコンへ画像を取り込むことができます。PCカードスロットやカードリーダーのタイプによっては、SDメモリーカードをセットするときにメモリーカードアダプターが必要です。SDメモリーカードがそのままセットできるタイプであれば、メモリーカードアダプターは必要ありません。

- SDメモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

Windows XPでの表示例

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読みとるための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、SDメモリーカードがそのままセットできる各種のカードに対応したカードリーダーがあります。
接続されるパソコンのOSのタイプ、使用されるSDメモリーカードの容量に対応したカードリーダーをお使いください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください。(表示はWindows XPの例です。他のOSでは用語が異なりますが、操作は同じです。)

1 タスクバーの右端にある「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルクリックする

« 16:49

2 [USB大容量記憶装置デバイス]を選び、[停止]をクリックする

3 [USB 大容量記憶装置デバイス]が選ばれていることを確認して、[OK]をクリックする

4 [OK]をクリックする

5 USBケーブルを取り外す

メモ---

- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。

Macintoshをご使用の場合

Windowsをご使用の場合はP.183をご覧ください。

本カメラは、以下のOSに対応しています。

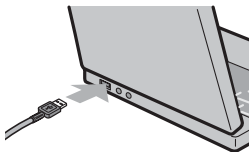
- Mac OS 9.0 ～ 9.2.2
- Mac OS X 10.1.2 ～ 10.4.9

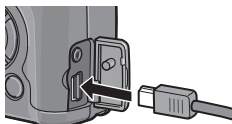
注意 --

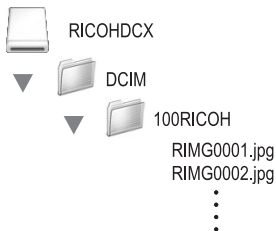
Mac OS 8.6には対応していません。

画像をパソコンに取り込む

1 カメラの電源がオフになっていることを確認する

2 付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する

3 USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する

- カメラの電源がオンになります。
- カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。
- 準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。

4 表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする

- ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。
- 内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

注意

- USBケーブルは無理に差し込まないでください。
- USBケーブルを差し込んだ状態で、無理な力を加えないでください。
- USBケーブルの使用中は、USBケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

カメラとパソコンの接続を解除する

1 表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする

- 管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2 USBケーブルを取り外す

メモ

- Mac OS 9の場合は［特別］メニューで、Mac OS Xの場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択して接続を解除することもできます。
- 接続を解除しないでUSBケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してからUSBケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中にUSBケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintoshに接続すると、SDメモリーカードに「Finder .DAT/DS_Store」が書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。気になる場合は、SDメモリーカードからこのファイルを消去しても問題ありません。

お困りのときは

エラーメッセージが表示されたら

画像モニターにエラーメッセージが表示されたときは、次の方法で対処してください。

エラーメッセージ	原因と対応方法	参照先
CARDを入れてください。	カードがセットされていません。カードをセットしてください。	P.31
セットアップメニューから日付を設定してください。	日付が設定されていません。日付を設定してください。	P.180
FILE NUMBER OVER	ファイル番号の制限を超えています。他のカードをご使用ください。	P.178 P.179
表示できないファイルです。	カメラでは表示できないファイルです。パソコンなどでファイルを確認し、ファイルを削除してください。	−
容量不足です。コピーしますか。	カードの容量が不足しているため、すべてのファイルをコピーできません。他のカードをご使用ください。	P.28
プロテクトされています。	プロテクトされたファイルを削除しようとしています。	P.127
カードが書き込み禁止です。	カードが「LOCK（書き込み禁止）」されています。ロックを解除してください。	P.28
プリント設定できないファイルです。	プリント設定できないファイル（動画など）です。	−
容量不足です。	ファイルを記録できません。ファイルを削除するか、空き容量を確保してください。	P.50 P.150 P.151
	画像のプリント指定枚数が制限を超えています。どれか画像を選択し、枚数を0にしてください。	P.144
内蔵メモリーを初期化してください。	内蔵メモリーを初期化する必要があります。	P.151
CARDを初期化してください。	カードが初期化されていません。本機でカードを初期化してください。	P.150
使用できないCARDです。	再度初期化し直してください。それでもエラーメッセージが表示されるときは、カードの異常が考えられます。そのカードを使用しないでください。	P.150
メモリー書き込み中	ファイルをメモリーに書き込んでいます。書き込みが終わるまでお待ちください。	−
ファイルがありません。	再生できるファイルがありません。	−
記録できません。	記録可能枚数が0になりました。他のカードや内蔵メモリーに切り替えてください。	P.28

カメラ本体のトラブル

電源

症状	原因	処置	参照先
電源が入らない。	電池がセットされていない。または消耗している。	リチャージャブルバッテリーを正しくセットする。または充電する。必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.31 P.30 P.216
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.26
	ACアダプターが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.216
	オートパワーオフで電源が切れている。	電源を再投入する。	P.33
	電池の方向が違う。	正しくセットする。	P.31
電源が途中で切れる。	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.33
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか､ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.31 P.216
	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.26
電源が切れない。	カメラの誤動作。	電池をセットしなおす｡ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.31 P.216
充分に残量のある電池なのに： • 電池残量が少ないことを示す電池マークが表示される。 • 電源が切れる。	使用できない電池を使用している。	専用のリチャージャブルバッテリー、またはアルカリ乾電池を使う。	P.26
バッテリーを充電できない。	バッテリーの寿命。	新しいバッテリーに交換する。	P.31
電池の消耗が早い。	温度が極端に低いところや高いところで使用している。	ー	ー
	暗い屋内などの撮影で、フラッシュ発光回数が多い。	ー	ー

撮影

症状	原因	処置	参照先
シャッターボタンを押しても撮影できない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、ACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.31 P.216
	電源が入っていない。または撮影モードになっていない。	POWER（電源）ボタンを押して、電源をオンにする。または▶（再生）ボタンを押して撮影モードにする。	P.33 P.45
	再生モードになっている。	▶ボタンを押して撮影モードにする。	P.45
	シャッターボタンを押しきっていない。	シャッターボタンを押しきる。	P.37
	SDメモリーカードが初期化されていない。	初期化する。	P.150
	SDメモリーカードに空き容量がない。	不要なファイルを削除するか、新しいカードをセットする。	P.50 P.31
	SDメモリーカードの寿命。	新しいカードをセットする。	P.31
	フラッシュが充電中。	オートフォーカス／フラッシュランプの点滅が終了するまで待つ。	P.42
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.28
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
撮影画像を確認できない。	画像確認時間が短い。	画像確認時間を長くする。	P.168
画像モニターに映らない。	電源が入っていない。または画像モニターが暗い。	電源を入れる。または画像モニターの明るさを調整する。	P.33 P.152
	画像モニターがオフになっている。	DISP.ボタンを押して、画像モニターをオンにする。	P.54
	ビデオケーブル／AVケーブルをさした状態になっている。	ビデオケーブル／AVケーブルを抜く。	P.138
オートフォーカスなのにピントが合わない。	レンズが汚れている。	乾いた柔らかい布できれいに拭き取る。	P.18
	被写体が撮影範囲枠の中央にいない。	フォーカスロックで撮影する。	P.37
	ピントの合いにくい被写体である。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカスで撮影する。	P.37 P.91
	被写体との距離が近すぎる。	マクロモードで撮影する。または、被写体から離れて撮影する。	P.41

症状	原因	処置	参照先
手ブレになる。	シャッターボタンを押したときに、構えたカメラが動いた。	両肘を身体につけて構える。 三脚を使用する。	P.35
	薄暗い場所（室内など）での撮影時には、シャッタースピードが遅くなり、手ブレしやすくなる。	フラッシュを使用する。 ISO感度を上げる。	P.42 P.118
フラッシュが発光しない。またはフラッシュの充電ができない。	フラッシュがポップアップしていない。	⚡OPEN（フラッシュオープン）スイッチを下側にスライドさせて、フラッシュをポップアップさせる。	P.42
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。	P.42
	次の状態では、フラッシュは発光禁止になっている。 • オートブラケット、ホワイトバランスブラケット、カラーブラケット • 連写モード • 動画モード	フラッシュを発光して撮影したい場合は、設定やモードを変更する。	P.42 P.103 P.105 P.107 P.94 P.121
	フラッシュが発光禁止になっている。	フラッシュをポップアップさせる。⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.42
	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.31 P.216
フラッシュが発光したのに画像が暗い。	被写体までの距離が約3.0m以上離れている。	被写体に近づいて撮影する。	P.42
	黒っぽい被写体である。	フラッシュの光量を調節する。	P.102
	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調節する。	P.102
	フラッシュカバーが完全に上がっていない。	フラッシュカバーを手で押さえたり、覆ったりしないように注意する。	P.42
画像が明るすぎる。	フラッシュの光量が適切でない。	フラッシュの光量を調整する。または、被写体から少し離れて撮影するか、被写体に照明などを当ててフラッシュを発光しないで撮影する。	P.102
	露出がオーバーしている。	露出補正を行う。 露光時間を短く設定する。	P.113 P.75
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.152

症状	原因	処置	参照先
画像が暗すぎる。	暗いところを発光禁止で撮影している。	フラッシュをポップアップさせる。⚡（フラッシュ）ボタンで発光禁止を解除する。	P.42
	露出が不足している。	露出補正を行う。 露光時間を長く設定する。	P.113 P.75
	画像モニターの明るさが適切でない。	画像モニターの明るさを調整する。	P.152
画像が自然な色合いにならない。	オートホワイトバランスの調整しにくい状況で撮影した。	被写体に白色系のものを入れて撮影する。またはホワイトバランスモードを［AUTO］以外にする。	P.114
日付などの記録情報が表示されない。	画面表示が、表示なしになっている。	DISP.ボタンを押して表示を切り替える。	P.54
AF動作中、画像モニターの明るさが変化する。	オートフォーカス範囲と周囲の明るさが異なるとき、または暗いところで使用している。	故障ではありません。	ー
縦に尾を引いた画像になる。	明るい被写体を写したときに起こる現象。スミア現象という。	故障ではありません。	ー
水平インジケーターが表示されない。	［水準器設定］を［OFF］または［音のみ］に設定している。	［水準器設定］を［表示のみ］または［表示＋音］に設定する。	P.165
	画面表示がマーク表示またはヒストグラム表示以外になっている。	DISP.ボタンを押して、マーク表示またはヒストグラム表示に切り替える。	P.54
	カメラが上下逆さま（シャッターボタンが下向き）になっている。	カメラを正しく構える。	—
水平インジケーターの目盛りが真中を指している、または水準器音が鳴っている状態で撮影したのに、画像が傾いている。	乗り物に乗っているなど、動いている状態で撮影している。	停止している状態で撮影する。	—
	被写体自体が傾いている。	被写体を確認する。	—

再生／削除

症状	原因	処置	参照先
再生できない。または再生画面が出ない。	再生モードになっていない。	▶（再生）ボタンを押す。	P.45
	ビデオケーブル／AVケーブルが正しく接続されていない。	正しく接続し直す。	P.138
	[ビデオ方式] の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.182
SDメモリーカードが再生できない。または再生画面が出ない。	SDメモリーカードがセットされていない。または画像が記録されていないSDメモリーカードをセットした。	記録済みのカードをセットする。	P.31
	本機で初期化していないSDメモリーカードを再生した。	本機で初期化し、記録したカードをセットする。	P.31 P.150
	正常に記録されていないSDメモリーカードを再生した。	正常に記録されているカードをセットする。	ー
	SDメモリーカードの接触面が汚れている。	乾いた柔らかい布で拭き取る。	ー
	使用中のSDメモリーカードに異常がある。	記録済みの別のカードを再生し、異常がなければカメラは正常です。カードの異常が考えられるため、そのカードを使用しないでください。	ー
画面が消えた。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.31 P.216
	何の操作もしないで放置したので、オートパワーオフが働いた。	電源を再投入する。	P.33
ファイルを削除できない。	プロテクトが設定されている。	プロテクトを解除する。	P.127
	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.28
SDメモリーカードを初期化できない。	SDメモリーカードが「LOCK」されている。	「LOCK（書き込み禁止）」を解除する。	P.28

その他

症状	原因	処置	参照先
SDメモリーカードが入らない。	挿入方向が違う。	正しくセットする。	P.31
カメラのボタンを操作しても作動しない。	電池が消耗している。	リチャージャブルバッテリーを充電するか、必要に応じてACアダプターを使う。アルカリ乾電池使用時は新品電池に交換する。	P.30 P.31 P.216
	カメラの誤動作。	POWER（電源）ボタンを押して、いったん電源をオフにし、再度POWERボタンを押して、電源をオンにする。	P.33
		電池をセットしなおす。ACアダプター使用時には接続しなおす。	P.31 P.216
日付が正しくない。	正しい日付・時刻が設定されていない。	正しい日付・時刻を設定する。	P.180
設定した日付が消えてしまった。	電池を抜いてしまった。	電池を取り出した状態が約1週間以上続くと、日付がリセットされるので、再度、設定し直す。	P.180
オートパワーオフが働かない。	オートパワーオフが[OFF]になっている。	オートパワーオフの時間を設定する。	P.167
警告音が鳴らない。	消音が設定されている。	[操作音音量設定]で音量なし以外を設定する。	P.164
テレビに映らない。	[ビデオ方式]の設定が間違っている。	正しい方式を設定する。	P.182
	ケーブルが接続されていない。	ケーブルを正しく接続しなおす。	P.138
	出力先のビデオ入出力スイッチの設定が間違っている。	出力先のビデオ入出力スイッチが正しいか確認する。	ー

ソフトウェア／パソコンのトラブル

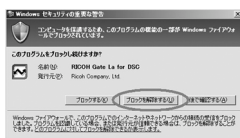
ソフトウェアについては、『使用説明書（ソフトウェア編）』（PDFファイル）をご覧ください。

Windows XP Service Pack2、Windows Vistaでの警告メッセージについて

Windows XP Service Pack2またはWindows Vistaがインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB接続時）等に以下の警告メッセージが表示される場合があります。
こちらをご理解の上、以下を参考にしてください。

ここではWindows XPの画面例を使用しています。

警告メッセージが表示されたら

1 名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックする

注意 --
プログラムの名前や発行元に心当たりが無い場合、ウイルスプログラムである可能性がありますので［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windowsファイアウォールの設定を確認します。

1 ［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする

2 ［Windowsファイアウォール］をダブルクリックする

- ［Windowsファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

7
付録

3 ［例外］タブをクリックする

4 ［プログラムおよびサービス］内に設定したソフトウェアがあることを確認する

5 ［プログラムの追加］ボタンをクリックし、ネットワークを使うソフトウェアを追加する

［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

7

付録

主な仕様

項目		仕様
撮像素子		有効画素数約1001万画素（総画素数約1030万画素）、1/1.75型CCD
レンズ	焦点距離	5.9mm（35mm換算値28mm）
	F値	F2.4～F11 （オート撮影モード時F7.1以上は、NDフィルター併用）
	撮影距離範囲	約30cm～∞（レンズ先端から）
		約1.5cm～∞（マクロ撮影時、レンズ先端から）
	レンズ構成	5群6枚（非球面レンズ3面2枚）
ズーム倍率		デジタルズーム4.0倍、オートリサイズズーム約5.7倍（画像はVGA）
フォーカスモード		マルチAF（CCD方式）／スポットAF（CCD方式）／マニュアルフォーカス／スナップ／∞（フォーカスロック、AF補助光あり）
シャッタースピード	静止画	180秒、120秒、60秒、30秒、15秒、8秒、4秒、2秒、1～1/2000秒（撮影モード、フラッシュモードによりシャッタースピードの上限と下限が変わります。）
	動画	1/30～1/2000秒
露出制御	測光モード	マルチ（256分割）／中央重点測光／スポット測光（TTL-CCD測光式、AEロック可能）
	露出制御モード	プログラムAE、絞り優先AE、マニュアル露出
	露出補正	マニュアル補正（+2.0～–2.0EV 1/3EVステップ）、オートブラケット機能（–0.5EV、±0、+0.5EV／–0.3EV、±0、+0.3EV）
ISO感度（標準出力感度）		AUTO／AUTO-HI／ISO 80／ISO 100／ISO 200／ISO 400／ISO 800／ISO 1600
ホワイトバランスモード		オート／屋外／曇天／白熱灯／蛍光灯／手動設定／詳細設定、ホワイトバランスブラケット機能
フラッシュ	フラッシュモード	オート（低輝度時および逆光時自動発光）／赤目軽減／強制発光／スローシンクロ／発光禁止
	調光範囲	約20cm～3.0m（ISO AUTO）
	調光補正	±2.0EV 1/3EVステップ
画像モニター		2.7型 透過型アモルファスシリコンTFT液晶、約23万画素
撮影モード		オート撮影モード／プログラムシフトモード／絞り優先モード／マニュアル露光モード／シーンモード（文字／動画／斜め補正モード）／マイセッティングモード
画質モード*1		F(Fine)、N(Normal)、RAW（DNGファイル形式）*2

記録画素数	静止画	3648×2736、3648×2432、2736×2736、3264 ×2448、2592×1944、2048×1536、1280×960、640×480
	動画	640×480、320×240
	文字	3648×2736、2048×1536
記録媒体		SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、マルチメディアカード、内蔵メモリー（約54MB）
記録データ容量	3648×2736	N：約2082KB／画面、F：約3617KB／画面、RAW：約18.2MB／画面
	3648×2432	N：約1854KB／画面、F：約3219KB／画面、RAW：約16.2MB／画面
	2736×2736	N：約1570KB／画面、F：約2721KB／画面、RAW：約13.7MB／画面
	3264×2448	N：約1673KB／画面
	2592×1944	N：約1068KB／画面
	2048×1536	N：約680KB／画面
	1280×960	N：約365KB／画面
	640×480	N：約95KB／画面
画像ファイル形式	静止画	JPEG（Exif ver2.21）*3、RAW(DNG)
	動画	AVI（Open DML Motion JPEGフォーマット準拠）
	圧縮方式	JPEGベースライン方式準拠（静止画、動画）
その他主要撮影機能		連写／S連写／M連写、セルフタイマー（作動時間：約10秒／約2秒）、インターバルタイマー（撮影間隔：5秒～3時間、5秒単位）*4、カラーブラケット、白黒(TE)、色空間設定、ノイズリダクション、ヒストグラム表示、グリッドガイド表示、被写界深度表示、撮影アイコン拡大、電子水準器、ホットシュー
その他主要再生機能		縦横自動回転再生、3コマ表示／一覧表示、拡大表示（拡大倍率最大16倍)、画像サイズ変更
外部インターフェース		USB2.0（High-Speed USB）Mini-B、マスストレージ*5、オーディオOUT 1.0Vp-p（75Ω）
ビデオ信号方式		NTSC、PAL切替え
電源		リチャージャブルバッテリー DB-60（3.7V）×1本
		単四形アルカリ乾電池、単四形ニッケル水素電池、単四形オキシライド乾電池×2本
		ACアダプター（AC-4c　オプション）：3.8V
電池寿命*6		CIPA規格準拠　DB-60使用時：約370枚、単四形アルカリ乾電池使用時：約45枚*7
外形・寸法		107.0mm（幅）×58.0mm（高さ）×25.0mm（奥行き）（突起部含まず）
質量		本体約168g（バッテリー／SDメモリーカード／ストラップを除く） 付属品約30g（バッテリー／ストラップ）
三脚ネジ穴形状		1/4-20UNC
デート保持時間		約1週間

使用温度範囲	0℃〜40℃
使用湿度範囲	85%以下
保存温度範囲	–20℃〜60℃

*1 画像サイズにより、設定できる画質モードが異なります。
*2 RAWと同サイズのFine/NormalまたはNormal640モードのJPEGと同時記録。DNGファイル形式はRAW画像ファイル形式の1つで、アドビシステムズ社が提唱する標準ファイル形式です。
*3 DCF準拠、DPOF対応。DCFはJEITAで標準化された「Design rule for Camera File system」の略称です。（機器間の完全な互換性を保証するものではありません）
*4 フラッシュ OFF時
*5 マスストレージは、Windows Me, 2000, XP, Vista, Mac OS9.0〜9.2.2, Mac OSX10.1.2〜10.4.9に対応しています。
*6 撮影可能枚数はCIPA規格に準じた測定条件によるもので、使用条件により大きく異なり、目安となります。
*7 松下電池工業株式会社製の単四形アルカリ乾電池を使用

内蔵メモリー／SDメモリーカードの記録可能枚数

内蔵メモリー／SDメモリーカードの容量別、画質／サイズ別の記録可能枚数の目安は、次のとおりです。

モード	画質	画像サイズ	内蔵	256MB	512MB	1GB	2GB	4GB	8GB
静止画	RAW	3648×2736	2	13	26	51	105	207	423
	F	3648×2736	14	62	126	243	495	973	1989
	N	3648×2736	24	109	219	422	853	1676	3426
	RAW	3648×2432	3	15	30	58	118	232	475
	F	3648×2432	15	70	142	273	553	1087	2222
	N	3648×2432	27	122	247	476	960	1885	3854
	RAW	2736×2736	3	17	35	68	140	274	561
	F	2736×2736	18	83	168	323	653	1284	2624
	N	2736×2736	32	144	291	559	1138	2235	4568
	N	3264×2448	30	135	273	525	1059	2080	4253
	N	2592×1944	47	213	430	828	1661	3261	6667
	N	2048×1536	73	331	667	1285	2560	5027	10277
	N	1280×960	133	599	1208	2323	4726	9282	18973
	N	640×480	497	2227	4488	8632	15359	30159	61643
文字		3648×2736	24	109	219	422	853	1676	3426
		2048×1536	73	331	667	1285	2560	5027	10277
動画	640×480 15コマ／秒		1分22秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒
	640×480 30コマ／秒		41秒	3分5秒	6分14秒	11分59秒	24分23秒	50分10秒	97分55秒
	320×240 15コマ／秒		2分40秒	11分57秒	24分5秒	46分19秒	94分11秒	193分41秒	378分2秒
	320×240 30コマ／秒		1分22秒	6分7秒	12分19秒	23分42秒	48分13秒	99分8秒	193分30秒

メモ

- 動画の記録可能時間は、合計の記録可能時間目安です。1回の撮影で記録可能な動画は、最大90分または最大4GBまでです。
- 画像モニターに表示される残り記録枚数は、撮影する被写体によってファイル容量が増減するため、実際に撮影できる枚数と異なる場合があります。
- 静止画の記録可能枚数や動画の記録時間は、記録先（内蔵メモリーまたはSDメモリーカード）の容量や撮影条件、SDメモリーカードのメーカーや種類によって異なることがあります。
- 長時間撮影される場合は、高速メモリーカードのご使用をお勧めします。

別売り品について

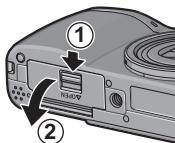
GR DIGITAL IIでは、下記の別売り品が使用できます。

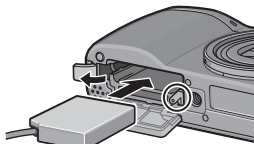
商品名	型名	備考
ACアダプター	AC-4c	家庭用コンセントから直接電源を供給するときに使用します。
リチャージャブルバッテリー	DB-60	本カメラで使用できる充電池です。
バッテリーチャージャー	BJ-6	リチャージャブルバッテリー(DB-60)を充電するための充電器です。
ワイドコンバージョンレンズ	GW-1	さらに広角に撮影したいときに使用します。倍率0.75倍のワイドコンバージョンレンズです。21mm相当(35mm判カメラ換算)での撮影が可能です。フード&アダプターと併用して使用します(ケース付)。
テレコンバージョンレンズ	GT-1	40mm相当(35mm判カメラ換算)の標準域で撮影したい場合に使用します。倍率1.43倍のテレコンバージョンレンズです。フード&アダプターと併用して使用します(ケース付)。
フード&アダプター	GH-1	太陽の光がレンズに当たるのを防ぐフードと、φ37mm汎用フィルターなどを装着する際のアダプターとのセットです。逆光時の撮影画質を向上させたいときなどに使用します。
外部ファインダー	GV-1	ホットシューに取り付ける、光学ファインダーです。21mm相当と28mm相当(35mm判カメラ換算)用のフレームがついています(ケース付)。
外部ミニファインダー	GV-2	ホットシューに取り付ける、小型の光学ファインダーです。28mm相当(35mm判カメラ換算)用のフレームがついています(縦横比1:1撮影用マーク付)(ケース付)。
ケーブルスイッチ	CA-1	カメラのシャッターボタンを操作します。
ネックストラップ	GS-1	「GR DIGITAL」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。
	ST-2	「RICOH」のロゴ刺繍入りの2点吊ネックストラップです。
ソフトケース	GC-1	コンパクトな革製のカメラケースです(ベルト通し付)。外部ファインダーを装着した状態のカメラを入れることはできません。
ソフトケース(GV-2対応)	GC-2	外部ミニファインダーGV-2を装着した状態のカメラを入れることができる、革製のカメラケースです(ベルト通し付)。

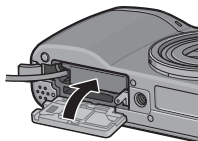
- 各別売り品の使用方法は、商品に付属の使用説明書を参照してください。
- ワイドコンバージョンレンズ、テレコンバージョンレンズおよびフードを使用している場合、内蔵フラッシュは使用できません。

ACアダプター（別売り）を使う

撮影や静止画を見る際に長時間使用したり、パソコンと接続する場合には、ACアダプターを使うことをお勧めします。
すでにお使いのお客様は、ACアダプターをセットする前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 **解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける**

2 **ACアダプター用バッテリーを挿入する**

- セットされると、図のツメでロックされます。

3 **電源（DC入力）ケーブルカバーを開け、ケーブルを外に出す**

4 **バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする**

5 **電源プラグをコンセントに差し込む**

注意 --

- バッテリー／カードカバーを閉めるときは、解除レバーをスライドさせて、確実にロックしてください。
- 電源プラグやACコードは、しっかりと差し込んでください。
- カメラをご使用にならないときには、ACアダプターをカメラや電源コンセントから抜いておきましょう。
- カメラの使用中にACアダプターを取り外したり、電源プラグがコンセントから抜けたりすると、データが破壊されることがあります。
- ACアダプターをご使用の場合、[電池マーク]表示になることがありますが、故障ではありません。そのまま引き続きご使用ください。
- ACアダプターの使用中は、ACアダプターのケーブルを持ったままカメラを動かさないでください。

ACアダプターを取り出すには

ACアダプターを取り外す前に、電源がオフになっていることを確認してください。

1 **電源プラグをコンセントから抜く**

2 **解除レバーを「OPEN」側にスライドさせ、バッテリー／カードカバーを開ける**

3 **ACアダプター用バッテリーを取り出す**

4 **バッテリー／カードカバーを閉じ、解除レバーを「OPEN」と反対側にスライドさせてロックする**

外部フラッシュを使う

本カメラにはホットシューが装備されているので、外部フラッシュ（市販）を接続して使用できます。

外部フラッシュには、以下の推奨品があります。

発売元	商品名	型名
シグマ	EF-530 DG SUPER	SA-STTL
シグマ	EF-530 DG ST	SA-STTL

推奨品の外部フラッシュを使用する場合

1 フラッシュカバーを閉じる（☞P.18）

2 カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態で、外部フラッシュをホットシューに取り付ける

3 外部フラッシュの電源をオンにする

4 カメラの電源をオンにする

- 画像モニターに外部フラッシュのマークが表示されます。

メモ--

- 画像モニターに外部フラッシュのマークが表示されている間は、内蔵フラッシュは発光しません。
- 外部フラッシュが認識されないときは、一度外部フラッシュとカメラの電源をオフにして、外部フラッシュを接続し直してください。

推奨品以外の外部フラッシュを使用する場合

1 フラッシュカバーを閉じる（☞P.18）

2 カメラと外部フラッシュの電源がオフの状態で、外部フラッシュをホットシューに取り付ける

3 カメラの電源を入れ、モードダイヤルをAまたはMに合わせて、絞り値を設定する（☞P.74、P.75）

4 カメラのISO感度を［AUTO］以外に設定する（☞P.118）

5 外部フラッシュの電源を入れ、外部フラッシュを自動（オート）に設定し、絞り値とISO感度をカメラに合わせる

- 外部フラッシュをカメラから取り外すときは、外部フラッシュの電源を切ってから行ってください。

注意 --

- シャッタースピードが遅い場合は、手ブレすることがあります。
- 推奨品（☞P.218）以外の市販フラッシュをご使用になる場合は、下記仕様であることをご確認ください。
  - ・X接点以外の信号端子がないこと
  - ・X接点の極性は+であること
  - ・X接点の電圧は20V以下であること
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを使用することはできません。傷や故障の恐れがあります。
- フラッシュ設定にかかわらず、ホットシューのX接点にフラッシュ発光信号が出力されますので、外部フラッシュのフラッシュ発光停止は、外部フラッシュ側のスイッチで発光停止処置を施してください。
- 外部フラッシュの絞り値とISO感度をカメラと同じ条件にしても、適正露出にならない場合があります。そのときは外部フラッシュ側の絞り値やISO感度を変更してください。
- 撮影レンズの画角をカバーする照射角をもつ外部フラッシュを使用してください。
- 外部フラッシュの使用は、基本的に内蔵フラッシュの光量だけでは不足する距離（遠距離側）でご使用ください。近距離側では露出オーバーになることがあります。

電源オフで設定値が初期値に戻る機能

電源をオフにすると、機能によって設定値がリセットされ、初期値に戻るものがあります。
次の表は、電源をオフにしたときの設定値の保持／リセットについて示しています。

設定値の保持：○　初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値
撮影関連	画質・サイズ	○	N3648(10M)
	フォーカス	○	マルチAF
	測光	○	マルチ
	連写	×	OFF
	画像設定	○	普通
	フラッシュ調光補正	○	0.0
	オートブラケット	○	OFF
	ノイズリダクション	○	OFF
	インターバル撮影	×	0秒
	日付入れ撮影	○	OFF
	露出補正	○	0.0
	ホワイトバランス	○	AUTO
	ISO感度	○	AUTO
	マクロ	○	マクロ　オフ
	フラッシュ	○	発光禁止
	セルフタイマー	×	セルフ　オフ
	動画サイズ	○	320
	フレームレート	○	30コマ／秒
	文字濃度	○	標準
	サイズ（文字）	○	3648(10M)
再生関連	動画再生時の音量	○	ー

設定値の保持：○　　初期設定値に戻る：×

分類	機能		初期値
セットアップメニューから設定する項目	画像モニター輝度調節	○	−
	マイセッティング登録	○	−
	ISO AUTO-HI 設定	○	AUTO 400
	ファンクションボタン設定	○	AF/MF
	Fn設定のMY登録	○	OFF
	ADJ.レバー設定1	○	露出補正
	ADJ.レバー設定2	○	ホワイトバランス
	ADJ.レバー設定3	○	ISO
	ADJ.レバー設定4	○	OFF
	ADJシャッターボタン確定	○	OFF
	ズームボタン設定	○	露出補正
	デジタルズーム切替	○	通常
	操作音	○	すべて
	操作音音量設定	○	中（■■□）
	水準器設定	○	OFF
	AF補助光	○	ON
	オートパワーオフ	○	1分
	画像確認時間	○	0.5秒
	情報表示モード	○	OFF
	縦横自動回転再生	○	ON
	CL-BKT 白黒(TE)	○	ON
	RAW同時記録設定	○	FINE
	色空間設定	○	sRGB
	撮影アイコン拡大	○	OFF
	CARD連続NO.	○	ON
	日時設定	○	−
	Language／言語	○	*
	ビデオ方式	○	*

* 初期設定値は、仕向け地によって異なります。

海外でお使いのときは

ACアダプター（型名：AC-4c）、バッテリーチャージャー（型名：BJ-6）について

交流100～240V、50Hz/60Hzの地域でご使用になれます。
電源コンセントの形状が異なる国では、使用先の国の電源コンセントにあった変換アダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器は使用しないでください。故障の原因となる恐れがあります。

保証について

本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

再生等で現地のテレビを使用する場合

映像入力端子付きのテレビ（またはモニター）で再生することができます。付属のAVケーブルをご使用ください。
本機では、テレビ方式はNTSCとPALに対応しています。現地のテレビ環境にあわせて、カメラのビデオ方式を切り替えてご使用ください。
海外へお出かけの際は、ビデオ方式をご確認の上、ご使用ください。

使用上のご注意

使用上のご注意

- 本製品は国内仕様です。付属している保証書は、国内のみ有効です。
- 外国で万一、故障、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。
- カメラを落としたり、衝撃を与えないよう十分に注意してください。
- カメラを持ち運ぶときは、本体に衝撃を与えないようにしてください。特にレンズや画像モニターをぶつけないよう十分に注意してください。
- フラッシュを連続して発光させると発光部が熱くなりますので、必要以上に連続してフラッシュを発光させないでください。
- 火傷や発火の原因になりますので、フラッシュ発光部に触れたり、ものを密着させたままフラッシュを発光しないでください。
- 視力障害の原因にもなりますので、目の近くでフラッシュを発光させないでください（特に乳幼児）。
- 事故を起こす原因にもなりますので、運転者などに向かってフラッシュを発光しないでください。
- 電池をご使用の場合、カメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。
- 画像モニターに太陽の光やライトが当たると、白っぽくなり見えにくくなることがあります。
- 画像モニターには、一部に常時点灯、あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。また、液晶の特性上、明るさにムラが生じることがありますが、故障ではありません。
- 画像モニターを強く押さないでください。
- 温度変化の激しいところでは、カメラ内部で水滴が生じる結露という現象が発生し、ガラス面がくもったり、作動不良などを起こすことがあります。このようなときは、一度カメラをビニール袋かバッグに入れ、できるだけ温度変化をゆるやかにし、温度差が少なくなってから取り出すようにしてください。
- 故障の原因になりますので、マイク、スピーカーの穴に針等を通さないでください。

結露の発生しやすい状態--

- 急激な温度差のあるところに移動したとき
- 湿気の多いとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷房が直接あたるとき

7 付録

お手入れと使用／保管場所について

お手入れ

- レンズに指紋や汚れがつくと、画質が悪くなることがありますので、ご注意ください。
- レンズにゴミや汚れがついたときは、直接手を触れず市販のブロアーで吹き飛ばすか、柔らかい布で軽くふき取ってください。
- 海辺や薬品を使う場所で使用したあとは、特に入念にふいてください。
- 万一カメラの具合が悪いときは、リコー修理受付センターにご相談ください。
- このカメラには高電圧回路があります。危険ですから絶対にご自分で分解しないでください。
- シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性の物をかけないでください。変質したり、塗料がはげるなどの原因となります。
- 画像モニターの表面は、傷つきやすいので、かたい物でこすったりしないでください。
- 画像モニターの表面は、液晶ディスプレイの表面清掃用に市販されているクリーナーを、柔らかい布に少量含ませて軽くふき取ってください。

使用／保管場所について

- 次のような場所での使用および保管は、カメラの故障の原因になりますので避けてください。

  高温多湿、または湿度、温度変化の激しい場所
  砂、ほこり、ちりの多い場所
  振動の激しいところ
  防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品などに長時間接触するところ
  強い磁場の発生するところ（モニター、トランス、磁石のそばなど）
- 長時間本機をご使用にならないときは、電池を取り出して保管してください。

お手入れ時のご注意

（1）必ず電源をオフにしてください。
（2）電池やACアダプターを取り外して、お手入れしてください。

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、保証書に記載された保証期間内で無料修理いたしますので、リコー修理受付センターかお買い上げの販売店にお申し出ください。なお、修理にご持参いただくに際しての諸費用はお客様にご負担願います。
2. つぎの場合は上記保証期間内でも無料修理の対象にはなりません。
   ① 使用説明書に記載されている使用方法と異なる使用による故障。
   ② 使用説明書に記載されている当社指定の修理取り扱い所以外で行われた修理、改造、分解掃除等による故障。
   ③ 火災、天災、地変、落雷、異常電圧等による故障。
   ④ 保管上の不備（使用説明書に記載）、電池等の液漏等、カビ発生、手入れの不備等による故障。
   ⑤ 浸（冠）水、飲物（ジュース、酒類等）かぶり、砂（泥）入り、衝撃、落下、圧力等による自然故障以外の故障。
3. 保証書に記載された保証期間経過後は、本製品に関する修理は有償修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましては、お客様のご負担とさせていただきます。
4. 保証書の添付のない場合や、販売店名、ご購入年月日の記入がない場合ならびに記載事項を訂正された場合には、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。
5. 保証期間内であっても、本製品について各部点検、精密検査等を特別に依頼された場合には、別途実費をお客様にご負担いただきます。
6. 保証の対象となる部分は本体のみでケース、ストラップ等の付属品類および本製品に付帯している消耗品類（電池類）は保証の対象となりません。
7. 無償修理期間中であると否とにかかわらず、本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および得べかりし利益の損失）等については補償いたしかねます。
8. 保証書は日本国内においてのみ有効です。
   ＊ 以上の保証規定は無料修理をお約束するもので、これによりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
   ＊ 以上の保証規定は本製品に関する保証書にも同様の趣旨で記載されています。
9. 本製品の補修用性能部品（機能、性能を維持するために不可欠な部品）は、5年を目安に保有しております。
10. 浸（冠）水、砂（泥）入り、強度の衝撃、落下等で損傷がひどく、故障前の性能に復元できないと思われるもの等は修理できない場合もあります。ご了承ください。

- 修理にお出しになる前に、バッテリーの消耗のチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いいいたします。
- 修理箇所によっては修理に日数がかかる場合もございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
- 修理にお出しになる際は、故障内容と故障箇所をできるだけ詳しくお申し出ください。
- 修理にお出しになる際は、修理に直接関係のない付属品類は添付しないでください。
- 大事な記録（結婚式や海外旅行等）を撮影されるときには、前もってテスト撮影をしてカメラの調子をご確認くださるとともに、使用説明書や予備のバッテリーの携帯等をお勧めいたします。
- 修理にお出しになった場合、メモリーカードおよび内蔵メモリー内のデータについては保証できません。

索引

記号・英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

ら

わ

リコー修理受付センター

万一、本製品がご使用中に故障した場合は、下記のサービスメニューからお客様がご希望のサービス方法をお選びいただき、記載されているリコー修理受付センターまでお申し込みください。

＊本製品の保証書に記載された保証期間内は、無料修理となりますが、保証書裏面の保証規定第2項の記載に該当する場合は、保証の対象にはなりません。

＊各サービスメニューの対象は、製品本体のみとさせていただきます。

＊本サービスは、日本国内のみ有効です。

修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。
http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/

●たくはいサービス●

着払い宅配便にてお送りいただくサービスです。

●ひきとりサービス●

運送業者がお客様のご自宅（事務所）に訪問し、機械を梱包してお預りします。ひきとり料金（2000円）がかかりますので、予めご了承ください。

時間帯指定サービス

たくはいサービス、ひきとりサービスの各サービスで、修理完成品の配達日の時間帯指定ができます。時間帯は10：00～20：00までの間で、時間帯区切りは2時間です。
1)10：00～12：00　2)12：00～14：00　3)14：00～16：00
4)16：00～18：00　5)18：00～20：00
＊リコー修理受付センターへご連絡の際、お申し込みください。

●持ち込み修理について●

お買い上げのご販売店、カメラサービスセンター（裏表紙）のいずれかにお持ちいただいた場合も、修理の受付を行います。

お願い

1. 修理に際し、メモリー等記憶装置内のデータの保存については保証いたしかねますのでご了承ください。
2. 修理におだしになる前に、バッテリーのチェックと使用説明書の再読（ご使用方法の再確認）をお願いします。
3. 修理個所によっては規定以上の日数がかかる場合がございますので、修理には余裕を持ってお出しください。
4. 修理ご依頼の際は、故障内容と故障個所をできるだけ詳しくお申し出ください。
5. 「リコー修理受付センター」は上記取扱商品の故障に関する修理方法、修理期間等のお問い合わせに限らせていただきます。

修理以外の製品に関する機能・性能、使用方法のお問合せ、ご相談は巻末に記載のリコーお客様相談センターまでお願い申し上げます。

「環境対応」から「環境保全」、そして「環境経営」へ。

リコーは地球環境に配慮した活動も積極的に推進し、かけがえのない地球の一市民として、環境保全活動も経営の重要課題として積極的に推進しています。
デジタルカメラについても環境負荷削減を目指し、「消費電力削減」、製品に含有される「環境影響化学物質削減」などに取り組んでいます。

困ったときには

本書の「お困りのときは」（☞P.202）をご覧ください。それでも問題が解決しないときには、「リコーお客様相談センター」にご連絡ください。

リコーお客様相談センター
電話0120-000475　　FAX 0120-479417 受付時間：9:00～18:00（土、日、祝日を除く） ※なお、対応状況の確認と対応品質の向上のため、ご相談内容を録音させていただいております。
インターネットでもご相談をお受けしています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/

デジタルカメラ修理受付	
リコー修理受付センター （リコーロジスティクス株式会社）	電話0120-053956 （携帯電話、PHSからの通話はできません） 受付時間：9:00～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く） 宅配便を利用した修理品の受付センターです。
リコー銀座カメラサービスセンター ※持ち込み修理の受付です。	〒104-0061東京都中央区銀座6-14-7（第3リコービル） 電話03-3543-4187 受付時間：9:30～17:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
デジタルカメラサービスセンター （リコーテクノシステムズ株式会社） ※持ち込み修理の受付です。	〒222-0033神奈川県横浜市港北区新横浜1-2-1 （新横浜ファーストビル3階） 電話045-474-2586 受付時間：9:30～18:00（土、日、祝日、年末年始等弊社指定休日を除く）
修理についての詳しい内容は、インターネットでもご案内しています。 http://www.ricoh.co.jp/dc/support/repair/	

Irodio Photo & Video Studioについて	
株式会社ピクセラ ユーザーサポートセンター	電話06-6633-3900 受付時間：月曜日～日曜日10:00～17:00 （年末年始、祝日、弊社指定休日は除く）

株式会社リコー
〒104-8222
東京都中央区銀座8-13-1リコービル
電話：0120-000475（フリーダイヤル）
2007年9月

JA　Printed in China

L744 1971